

九 対中国借款善後策二関スル件（一）七三一

七四四

入ヲ參謀次長へ取次キタル結果同部ヨリハ之ヲ前記三銀行ニ転達スルト共ニ右ノ申入ニ對シテハ參戰軍ノ存続ヲ必要トスル見地ヨリシテ之ニ應セシムルコトニ同意アリ度旨當省へ申出ノ次第アリタルモ如此ハ對支關係ノ現状ヨリスルモ到底同意シ難キ所ナルニヨリ同月下旬其旨同部へ回答シ当省ノ閔スル限りハ爾來其儘トナリ居ル次第ニテ今後トテモ右ノ方針ヲ支持スル所存ナリ尚ホ本件借款ハ九月二十七日ヲ以テ返済満期日ニ達シタル處支那側ヨリハ返済不可能ノ故ヲ以テ更ニ向フ一ヶ年間前回ト同一条件ノ下ニ延期借換ヲ申出事情已ムヲ得ズト認メタルヲ以テ當省ヨリハ右ニ同意ヲ与ヘタリ

（附記）

九月十九日石井鮮銀總支配人代理ノ高尾總領事ヘノ申出

參戰借款統借ニ閔スル件

（政務第一課）

大正八年九月十九日朝鮮銀行石井總支配人代理來省別紙坂西少將參謀次長宛采電写ヲ呈出シ同時ニ左記ノ要領ヲ申出デタリ

別紙來電写ニ記載アル支那側ノ希望（金二千万円統借ノ

タシ

（欄外註記）

九月二十五日參謀次長ニ面会ノ上統借ハ到底同意シ難ク尤モ支那政府財政窮迫ノ為メ目下二千四百萬元借款成立ノ為尽力中ナルヲ以テ右借款成立ノ上ハ其内ヨリ工面スルハ支那政府ノ隨意ナルベキ旨回答シ置タリ

（別紙）

九月八日

電報 九月七日午後三時三十分發

九月八日

午前九時十三分着

次長宛 在北京 坂西少將  
坂特電第三十二号

左ノ件支那參戰借款当事者ヨリ朝鮮、興業、台灣三銀行代表者朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏へ転電方依頼アリタルニ付御伝達ヲ乞フ

大正七年九月二十八日契約セル參戰借款ハ其當時ノ銀相場即チ日金百円ニ対シ銀七十弗ノ割ニテ計算シタル參戰軍一年ノ経費銀約一千四百万弗ニ対シ金二千万円ヲ借入シタル事ハ當時内報シ置キタル次第ナルカ爾來金相場著シク暴落シ今ヤ殆金百円ニ対シ銀五十弗トナリ尚更ニ暴落ノ勢ヲ示セリ之カ為契約後満一ヶ年後ノ今日収支決算上既ニ著シキ不足ヲ生スルノミナラス西伯利方面ノ狀況ハ今尚軍事協定ノ取消ヲ許サズ却テ軍隊ノ増発ヲ余儀ナクセシメツツアリ就テハ此際更ニ日金二千万円借入度ト右借款契約ノ第六条ニ基キ御協議ニ及フ至急御承認アリタシ

二 吉会鐵道借款關係

（附記一）

註 左掲附記六

吉会鐵道借款本契約締結交渉申入ニ對シ中國  
回答ノ件

附記一

大正七年十二月七日内田外務大臣發芳沢臨時

代理人公使宛電報第一一二六号

二 大正七年十二月十日内田外務大臣發芳沢臨時

代理人公使宛電報第一一三八号

三 大正七年十二月十日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人公使宛電報第一一八〇号

四 大正七年十二月十二日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人公使宛電報第一一四四号

五 大正七年十二月十二日附内田外務大臣發芳沢臨時

代理人公使宛電報第一一八二号

六 大正七年十二月十三日芳沢臨時代理公使發内

田外務大臣宛電報第一一七三六号

（一月十日接受）

客年往電第一七三六号ニ閔シ

（註）

外交總長ヨリ八日附公文ヲ以テ交通部ニ於テハ既ニ顧問ヲ選任シ日本側委員ノ着京ヲ待ツテ直ニ商議ヲ開始セラルル

コトトナリ居レル旨回答アリタリ（九日）

（附記二）

七三二 一月九日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

九 対中国借款善後策ニ閔スル件（二）七三二

七四五

件）ニ就テハ接電ノ當時三銀行間ニ一応ノ協議ヲ試ミタ

ル處何レモ氣乘リセス其儘ニ為シ置キタル折柄昨日（九月十八日）福田參謀次長ヨリ呼出サレ出頭シタルニ次長ヨリハ本件統借ニ閔スル支那側ノ希望ハ可成厚意ヲ以テ応スルコトセラレタシトノコトナリシニヨリ自分ヨリハ目下三銀行共金融緊迫ノ折柄到底民間ノ資金ニテハ之ニ応ズルノ余裕ナキニヨリ若シ政府ノ命トアラバ預金部ヨリ融通ヲ受クルノ外ナキ旨ヲ答ヘタルニ次長ハ能ク外務大藏兩当局ヘモ事情申出置クヘキヲ命セラレタリ右様ノ次第ニテ銀行トシテハ不確実極マル支那ノ現状ニ顧み自ラ進シテ統借ニ応スルノ意図ヲ有セズ此儀諒知置アリ

電報第一一二六号

吉会鉄道借款善後措置ニ関スル交渉開始ノ期日ヲ中国側ニ通告  
其他ニ付指示ノ件

### 第一一二六号

貴電第一六九八号ニ閲シ

吉会鉄道借款善後処分ハ期限ノ関係上急速決定ヲ要スルニ付今回大蔵省ト協議ノ上(一)先般締結ノ本鉄道予備契約規定ノ借款本契約締結期限ハ十二月十七日ヲ以テ満了スルニ付一面不取敢貴官ヨリ支那外交部若ハ交通部ニ対シ本鉄道借款本契約締結ノ為メ十二月某日頃ヲ以テ北京ニ於テ我関係当事者ヨリ支那当局ニ交渉開始ノ手筈トナルヘキ旨通告スルコト又右期日ハ六箇月ノ期限内トシ且ツ實際右期限内ニ交渉ニ着手スルコト(二)本鉄道借款本契約ハ三銀行ニ於テ締結スルモ三銀行ハ唯借款資金ノ閑スル限り閑与スルコトトシ其他技術運輸等鉄道ノ実務ニ関スルコトハ満鉄側ニ於テ担任スルコト(從テ技師長運輸主任会計主任等ハ満鉄側ヨリ推薦スルコトトナルヘシ)又右ノ如ク三銀行ノ契約上有スル権利義務ノ一部ヲ満鉄ニ於テ担任スルニ付テハ從来ノ鉄道借款ノ例ニ倣ヒ本契約中ニ四鄭鐵道借款契約第二十三

(附記二)  
大正七年十二月十日内田外務大臣發在中国芳沢臨時代理公使宛  
電報第一一三八号  
吉会鉄道借款契約案確定ノ旨通報並右ニ付注意スペキ事項指示  
ノ件

### 第一一三八号(至急)

往電第一一二六号及貴電第一七一四号ニ閲シ

十二月九日本省ニ於テ關係者協議ノ上興業銀行提出案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ之ヲ可決セリ

尚右確定<sup>(註)</sup>案ハ委細興業銀行ヨリ貴地出張員ニ通報済ニ付右御取寄御閱覽アリ度契約原案全文ハ為念郵送ス右契約案中(一)会計主任運輸主任ノ件ハ鉄道ノ經營上及資金ノ監督上ヨリ云フモ將又公債募集ノ成蹟ヲ拳クル上ヨリ云フモ極メテ緊要ニシテ本借款契約ノ標準トナルヘキ津浦鉄道契約ニハ之ニ該当スル規定ナキモ右ハ支那借款鉄道普通ノ例ナルノミナラス津浦鉄道モ實際ニ於テハ南段北段ノ各会計及運輸両主任ハ債権者側ヨリ傭聘シ居レル次第ニ吉会鉄道ニモ是非共此等ノ傭聘ヲ求メザルヘカラズ尤モ場合ニヨリ

テハ借款契約ヨリ削除シ附屬文書ニ譲ルモ差支ナキ内意ナリ(二)借款期限ハ予備契約ニ基キ四十年トナシアルモ前項主任ノ件ノ交渉次第ニハ津浦鉄道通り三十年トスルモ差支ナキ意向ナリ(三)銀行ノ債務ニ対スル報酬二百万円ノ件ハ公債発行価格ヲ適當ニ定ムルコトトシ之ヲ要求セザルコトニ決シタリ尤モ前項両主任要求ノ懸引上一応存置スヘシトノ説アリタルモ我方トシテハ之ヲ要求スヘキ根拠薄弱ニ付

諸般ノ措置ヲ了シタル上三銀行代表者ハ直チニ北京ニ赴キ支那側ト交渉ヲ開始スヘキコト若シ能フベクンバ満鉄ヨリモ臨時社員ヲ北京ニ出張セシメ裏面ニ於テ交渉ニ参与スルコト(五)万一南北妥協成立前本借款契約成立シタル場合ニハ資金ノ使途ニ付テハ嚴重ニ監督ノ途ヲ設クルカ若ハ適當ノ方途ヲ講シ苟モ事ニ害ナカラシムルコトニ決定シ當省ヨリ満鉄及三銀行ニ対シ右ニヨリ至急措置方夫々通達セリ尚且下満鉄ヨリ関東都督ノ意見ヲ求メ居レリ將又本件ニ関シテハ追テ何分ノ義訓令ノ筈ナルモ右不取敢貴官限リ御含迄申進ス

条ノ如キ適當ノ規定ヲ設ケ右ニヨリ三銀行ヨリ満鉄ニ譲渡若ハ委任スルノ形式トスルコト(三)本契約案ハ成ルヘク先般締結ノ吉会鉄道予備契約ノ範囲ヲ脱セズ且ツ日支兩国双方ノ利益ヲ考慮ノ上関係者間ニ至急協議作成スルコト(四)以上諸般ノ措置ヲ了シタル上三銀行代表者ハ直チニ北京ニ赴キ支那側ト交渉ヲ開始スヘキコト若シ能フベクンバ満鉄ヨリモ臨時社員ヲ北京ニ出張セシメ裏面ニ於テ交渉ニ参与スルコト(五)万一南北妥協成立前本借款契約成立シタル場合ニハ資金ノ使途ニ付テハ嚴重ニ監督ノ途ヲ設クルカ若ハ適當ノ方途ヲ講シ苟モ事ニ害ナカラシムルコトニ決定シ當省ヨリ満鉄及三銀行ニ対シ右ニヨリ至急措置方夫々通達セリ尚且下満鉄ヨリ関東都督ノ意見ヲ求メ居レリ將又本件ニ関シテハ追テ何分ノ義訓令ノ筈ナルモ右不取敢貴官限リ御含迄申進ス

紙<sup>(注)</sup>号写ノ通リニ有之候尚右契約案規定事項ニ付二、三御参考迄申進スヘキ点アルモ右ハ別信ニ譲リ候將又往電第一一二六号ノ通リ大藏省ト協議ノ上本件借款善後方針確定ノ結果三銀行及満鉄ニ致セル指達ハ別紙乙号写ノ通リニ有之候委細右ニテ御了知相成度此段申進候也

追テ貴電第一一七一四号ヲ以テ往電第一一二六号写郵送スヘキ旨御申越アリタル處右往電第一一二六号ハ別紙乙号三銀行及満鉄宛本省指達ノ要旨ニ外ナラサルニ付右送付ハ差控候

註 別紙甲号省略、前掲附記二ノ註参照

(別紙)

乙号写  
吉会鐵道借款問題善後方針ニ関シ大正七年十二月五日附ヲ以テ興銀鮮銀台銀ノ三銀行及満鉄ニ付ヘタル指達

吉会鐵道借款問題善後方針

一、大正七年六月十八日調印吉会鐵道予備契約規定ノ借款本契約締結期限タル六ヶ月ハ十二月十七日ヲ以テ満了スルニ付不取敢在支帝国公使ヨリ支那外交部ハ交通部ニ對シ本鐵道借款本契約締結ノ為メ十二月某日頃ヲ以テ北京ニ於テ我關係当事者ヨリ支那當局ニ交渉開始ノ手書ト

備契約ノ範囲ヲ脱セザルコト然ルヘク且ツ日支兩國双方ノ利益ヲ考慮スルコト  
一、以上諸般ノ措置ヲ了シタル上三銀行代表者ハ直チニ北京ニ赴キ支那側ト交渉ヲ開始スヘキコト且若シ能フベクソハ満鉄ヨリモ臨時社員ヲ北京ニ出張セシメ裏面ニ於テ交渉ニ參與スルコト尚右交渉開始ニ付テハ日本公使館ニ於テ適宜援助ヲ与フルコト勿論ナリ

一、万一千南北妥協成立前本借款契約成立シタル場合ニハ資

金ノ使途ニ付テハ嚴重ニ監督ノ途ヲ設クルカ若ハ適當ノ

方途ヲ講シ苟モ事ニ害ナカラシメムコトヲ要スルコト

(附記四)  
大正七年十二月十二日内田外務大臣發在中国芳沢臨時代理公使

宛電報第一一四四号

吉会鐵道借款契約案第一条中ノ金額ハ空白トシテ提出スベキ様

興銀ニ示達セル旨通報ノ件

第一一四四号(至急)

往電第一一三八号ニ關シ

満鉄申出ニヨレハ吉会鐵道借款ハ八千万円(前渡金一千万円ヲ含マズ)ヲ要スル趣ニ付旁々十二月十六日頃興業銀行代表者ヨリ支那側ニ提出スル借款草案第一条中金額「五千

ナルヘキ旨通告スルコト尤モ右期日ハ六ヶ月ノ期間内トシ且ツ實際右期限内ニ交渉ニ着手スルコト

一、本鐵道借款本契約ハ三銀行ニ於テ締結スルモ三銀行ハ唯借款資金ノ閑スル限り開与スルコトトシ其他技術運輸等鐵道ノ実務ニ關スルコトハ満鉄側ニ於テ担任スルコト政府ニ於テ異議ナシ(從テ技師長運輸主任会計主任等ハ満鉄側ヨリ推薦スルコトトナルヘシ)又右ノ如ク三銀行ノ契約上有スル権利義務ノ一部ヲ満鉄ニ於テ担任スルニ付テハ先般興業銀行側提出ノ本契約草案第二十四条ノ如キ規定ヲ設ケ右ニヨリ三銀行ヨリ満鉄ニ譲渡若ハ委任スルノ形式トスルコト亦政府ニ於テ異存ナシ

一、本鐵道予備契約成立ト同時ニ支那側ニ交付セル千万円ノ前貸問題ニ付テハ外務省大藏省三銀行及満鉄各關係者間ニ適當ノ方途ヲ協議決定スルコト右ハ大藏省ニ於テモ同意ナリ

一、三銀行ニ於テ支那政府トノ間ニ締結スヘキ借款本契約案ニ付テハ先般興業銀行提出ノ同行案ヲ基礎トシ外務大臣ニ付スル吉会鐵道借款契約案ノ条項中注意ヲ要スル点ニ付補足説示ノ件  
政機密送第一八二号  
吉会鐵道借款契約ノ件  
十二月十日政機密送第一八〇号ヲ以テ及御送付置候吉会鐵道借款契約案ノ条項中特ニ注意ヲ要スル点ハ往電第一一三八号ヲ以テ申進シタル通ナルカ尚左ノ諸項ヲモ御承知置相成度此段申進候也

(附記五)  
大正七年十二月十二日附内田外務大臣發在中国芳沢臨時代理公使宛政機密送第一八二号  
吉会鐵道借款契約案ノ条項中注意ヲ要スル点ニ付補足説示ノ件

政機密送第一八二号  
吉会鐵道借款契約ノ件

(一) 契約案第一条第一項借款金額ハ一応五千万円ト計上シタルニ止マリ從テ實際ノ工事費ノ見積如何ニヨリテハ或ハ増減スルコトアルヘシ尤モ右金額ハ実ハ支那側ヨリ申出ヅヘキ筈ナリ(予備契約参照)又満鉄ニ於ケル本鐵道ノ調査ヲ了シ貴館ヘモ右調査書提出シアル趣ナリ

九 対中国借款善後策二閥スル件（二）七三三

七五〇

（二）契約案第二条第二項「着手」ナル語ハ鐵道敷設ノ為メ

単ニ測量ニ着手スル場合ヲモ含ムモノト解釈シ得ル余地

ヲ存シ置ク意向ナリ

（三）契約案第十三条第三項但書ハ本契約ニ挿入スルニハ聊

カ妙ナラズト認メ之ヲ削除シタリ尤モ我金融ノ許ス限り

支那側ノ利益ヲ考慮スヘキハ勿論ニテ場合ニヨリテハ此

ノ意味ヲ本条ニ追加スルモ差支ナキ内意アリ

（四）第十六条技師長会計主任及運輸主任各傭聘契約ハ督弁

之ヲ定ムル旨規定シアル處右傭聘契約締結ノ際ハ苟モ本

契約規定ノ権限等ヲ制限スルコトナキ様注意ヲ要スルハ

勿論ナリ

（五）第十六条第十三項工事請負人推薦ノ件ハ津浦鐵道借款

ニハ之ニ該當スル規定ナキモ右ハ工事費ノ節約ヲ期シ之

ニヨリ日支兩國共ニ均シク利益ヲ受ケムコトヲ図ルニ外

ナラズ

（附記六）

大正七年十二月十三日在中國芳沢臨時代理公使翁内田外務大臣

宛電報第一七三六号

吉会鐵道借款善後措置ニ關シ一月十四日頃交渉開始ノ旨中國側

ニ通告ノ件

（附記）

機密第一七号

大正八年一月十日

（一月十五日接受）

吉会鐵道借款本契約締結方申入ニ対スル中國

側回答文送付ノ件

附記

吉会鐵道借款契約案

在支那

第一七三六号

（十二月十四日接受）

貴電第一一二六号、第一一三八号及第一一四四号ニ閑シ

御訓示ニ依レハ十六日頃通告スヘキ苦ナルモ興業銀行ヨリ

当地代表者ニ對スル電訓ニ依レハ十四日契約案ヲ交通總長

ニ提出スヘントノコトニ有之実ハ十六日ハ余リニ切迫シタ

ル日取ニモ有之寧ロ十四日ノ方宜シカルヘク又興業銀行代

表者通告ノ日取ヲ十四日トセバ本官ノ通告ハ晚クトモ十四

日又ハソレ以前ナラザルベカラザルニ付本官ヨリモ同日附

ヲ以テ外交總長ニ対シ本契約締結ノ為メ我關係当事者ヨリ

同日頃交渉開始ノ筈ナル旨通告スルコトニ取計フヘキニ付

右様御承知置キアリタシ（十三日）

七三三 一月十日 在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛

特命全權公使 小幡西吉（印）

（附記）

吉会鐵道借款契約案

（大正七年十二月九日作成）

吉会鐵道借款契約案

（大正七年十二月九日作成）

大正七年六月十八日即チ中華民国七年六月十八日締結セラ

レタル吉会鐵道借款予備契約ニ基キ中華民国政府（以下政

府ト称ス）ト日本國株式會社日本興業銀行、株式會社台灣

銀行及朝鮮銀行ノ三行（以下銀行ト称ス）ノ代表者タル株

式會社日本興業銀行トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第一条 政府ハ吉林省吉林ヨリ延吉南境ヲ經テ圖們江ニ至

リ会寧ニ於テ日本國鐵道ト聯絡スル鐵道ヲ建設スルニ必

要ナル経費ニ充ツル為メ銀行ニ五分利付政府金貸公債五

千万円ヲ發行スルコトヲ承諾ス

本公司債ハ中華民国政府五分利付吉会鐵道公債ト称シ發行

ノ日ヲ以テ其日付トス

第二条 本公司債募集金ハ専ラ本鐵道線路ノ建設費（土地、

車輛其他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム）開通費及建設

中ニ於テ支払フヘキ本公司債利子ニ充ツ

本鉄道ノ建設ハ本契約調印後六箇月以内ニ着手シ速成ヲ  
図リ實際着手ノ時ヨリ五ヶ年間ニ完成スヘシ

第三条 本公債ノ利率ハ額面金額ニ対シ一箇年百分ノ五ト  
シ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支払フモノトシ公債發行ノ  
日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ本鉄道建設中ハ公債募集金又ハ其他ノ財  
源ヨリ完成後ハ先ツ本鉄道收入ヨリ次ニ政府ノ適當ト認  
ムル他ノ収入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ支払フモ  
ノトス

第四条 本鉄道ノ利益ヲ増進シ併セテ朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ  
十分ナラシメンカ為メ政府及銀行ハ左記ノ事項ヲ約定ス  
一、本鉄道ト朝鮮鐵道トノ相互ノ運輸ノ發達ト円満ナル  
聯絡ヲ期スルノ趣旨ヲ以テ政府ハ日本國當該官憲ト聯  
絡運輸方法ニ付協定スルコト

二、政府ハ日本國朝鮮總督府ト共同シテ岡門江ノ鐵橋ヲ  
架設シ政府ハ其経費ノ半額ヲ負担スルコト

第五条 本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置其翌年  
ヨリ向フ三十箇年内ニ本鉄道ノ収入又ハ政府ノ適當ト認  
ムル其他ノ収入ヲ以テ第六条ノ場合ヲ除キ本契約附表所

載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ償還スルモノトス  
第十三条ニヨリ数回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ第二回  
以後ノ据置期間及償還期間ハ第一回發行ノ日ヨリ起算ス  
ルモノトス

第六条 本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ経過シタル後ハ何時  
タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債  
未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得此場  
合ニ於テハ第二十年目迄ハ額面百分ノ二半ノ割増即チ金  
壹百円ニ付金壹百零弐円五拾錢ヲ支払ヒ第二十一年目以  
後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ書面ヲ  
以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ  
臨時償還ハ本公債募集日論見書ニ定メタル普通償還抽籤  
ノ当日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七条 政府ハ銀行ヲ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ  
付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前ニ第三条  
及第五条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ  
政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日  
十四日前ニ必要ノ元利金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘシ

銀行ハ本公債元利金支払ノ費用ニ充ツルカ為メ其取扱金  
額ニ対シ毎回千分ノ二半ノ手數料ヲ受クルモノトス

第八条 政府ハ本公債ノ元利金支払ヲ無条件ニ保証シ本鉄  
道収入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支払ニ不足  
ヲ告クルトキハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足スルモノトス

第九条 本公債全部竝ニ之ニ關聯シテ交付セラレタル前貸  
金ハ其元利ニ付テ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ屬スル一切  
ノ動産及不動産竝本鉄道一切ノ収入ニ依リテ第一位ニ担  
保セラル

第十五条ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前項ノ動

産不動産及収入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル  
政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ前二項ニ定ムル財

産又ハ収入ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス  
第十一条 銀行ハ本公債全額ニ対シ銀行ニ於テ適宜定ムル額  
面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得其様式ハ銀行ニ於

テ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ト之ヲ協定スルモ  
ノトス公債証書ハ日華兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シ交通總長  
ノ署名及交通部印ヲ印写ス又日本駐劄中華民國公使ハ公

債証書發行ニ先タチ各証書ニ署名及官印ヲ印写セシメ以  
テ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ト之ヲ協定スルモ  
ノトス公債証書ハ日華兩國語ヲ以テ之ヲ印刷シ交通總長  
ノ署名及交通部印ヲ印写ス又日本駐劄中華民國公使ハ公

本駐劄中華民国公使ト協定スヘシ

第十三条 銀行ハ工事ノ計画並其進行ノ程度及市場ノ状況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得

政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

本公債ノ發行価格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ状況ニ依リ別ニ協定スルモノトス

第十四条 政府ハ本公債募集金ヲ以テ第一二吉会鐵道借款予備契約ニ依ル前貸金ノ支払ニ充当スヘク其残余ハ政府勘定トシテ銀行ニ預入ルモノトス

銀行ハ前項預金中日本ニ於ケル残高ニ對シテハ本公債払込期日ヨリ起算シ年三分ノ利子ヲ附シ中華民国ニ送金セラレタルモノノ残高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ従ヒ利子ヲ附ス

右預金及利子ハ其中ヨリ鐵道建設中ニ於ケル本公債利子支払及其取扱手数料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ

之ヲ保管シテ督弁ノ指図ヲ待ツモノトス督弁ニ於テ一時ニ金貳拾万円以上ヲ引出サントスキハ其引出期日十日前ニ之ヲ銀行ニ通知スルモノトス

保管金ノ引出ハ鐵道建設ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ性質及費額記載ノ証明書ヲ添付セル督弁及会計主任連署ノ銀行宛支払命令ニ依リ之ヲ為スモノトス  
建設費毎月見積高ニ對スル資金ハ政府ノ請求次第中華民国ニ送金セラルルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ本鐵道ノ用途ニ供セラル迄在中華民国銀行ニ於ケル預金ト為シ置クモノトス

鐵道ノ計算書ハ日華両文ニテ協定済新式方法ニ依リ記載シ且一切ノ必要ナル証憑書ヲ添付スヘシ

鐵道局ハ營業開始後毎会計年度ノ終了ニ際シ日華両文ヲ以テ記載セル本鐵道ニ関スル決算書ヲ公表スヘシ

第十五条 本公債募集金竝其利子ニシテ建設中ニ要スル本公債利子ヲ控除シタル後本鐵道ノ建設及設備ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス若シ尚不足ナルトキハ銀行ニ於テ發行スル公債募集金ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ其都度銀行ト協議スルモノトス

第十六条 本鐵道ノ建設及管理ハ政府ニ於テ之ヲ行フ  
政府ハ本鐵道督弁及總弁各一名ヲ任命ス督弁ハ常ニ本鐵

道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ依リ本鐵道ニ關スル事務ヲ行フ全權ヲ有ス總弁ハ督弁ヲ補佐シ督弁事故アルトキハ之ヲ代理ス

督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ會計主任ニ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム技師

會計主任ハ會計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ會計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

會計主任ハ本公債期間内督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ本鐵道ニ闕スル一切ノ收支ヲ管理シ且本鐵道ニ關スル支出ニ付一切ノ書類ニ督弁又ハ總弁ト連署ス  
銀行ハ本公債期間中監查人一名ヲ任命ス其俸給ハ銀行ノ負担トス

監查人ハ本鐵道ノ計算書及証憑書ヲ検査スルモノトス  
監查人ハ銀行ニ對シテ本契約第二条ニ依ル公債募集金ノ支出ノ正当ナルコトヲ證明シ且本契約第十八条ノ規定ニ基ク鐵道局外國材料購入ニ關スル毎月明細書ヲ證明スルモノトス

監查人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ有効ニ遂行スルニ足ル

ヘキ時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキコトヲ鐵道局ト協定スヘシ

技師長ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督弁ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ本鐵道線路ノ測量設計及見積ヲ為シ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ並鐵道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ヲ註文ス

技師長ハ技術部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ技師長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム  
技師長ハ督弁又ハ總弁ヨリ内外専門技術員ノ任免及其事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ附与セラルヘシ

技師長ハ工事請負人ヲ推薦ス

本鐵道ノ各区域ハ其完成スルニ隨ヒ技師長ヨリ之ヲ督弁ニ引渡シ督弁ハ事情ノ許ス限り速ニ當該区域ノ運輸ヲ開始スルモノトス  
督弁ハ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス運輸主任ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合ニハ督

## 九 対中国借款善後策二関スル件（二）七三三

七五六

弁ハ更ニ日本人一名ヲ保線技師ニ任命シ技師長ノ職ヲ解クヘシ保線技師ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ鉄道ノ保存ヲ掌ル

運輸主任及保線技師ハ督弁ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

第十七条 本鐵道收入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鐵道局勘定ニ拵込ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座勘定トシ其利率ハ隨時銀行ト協定スルモノトス

本鐵道收入ハ先ツ本鐵道營業費及保存費ニ充テ其殘額中ヨリ本公債利子支払並本契約附表ニ依ル元金償還ニ付スル必要額ヲ各期日六箇月前ニ銀行ニ預託シ尚剩余アルトキハ政府ハ本鐵道督弁ノ決スル方法ニ従ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第十八条 銀行ハ本鐵道建設中外國ヨリ輸入スヘキ一切ノ材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其品質價格同トス右購買中其重要ナルモノニ付テハ本鐵道督弁ニ於テ之ヲ入札ニ附ス

取扱者ハ本鐵道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ

最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ手數料ヲ支給セス取扱者ハ本鐵道建設完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スルモノトス

第十九条 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約所載鐵道線路ノ支線ヲ建設セントスル場合ニハ政府ハ中華民国ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リテ之ヲ建設セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

第二十条 銀行ハ公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從テ本公債ニ關スル事項ニツキ本鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タルヘシ

第二十一条 本公債募集金ノ交付本公債元利金ノ支払其他

総テ金額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スモノトス

第二十二条 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市場及中華民國政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事変發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本

入札約定又ハ註文ノ取扱ヲ為シ購買代金及其百分ノ五ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民國ニ到着ヨリ督弁ニ申請シ其認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ鐵道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ價格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民國ニ到着註文明細書ニ符合セサルトキハ本鐵道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

外國材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其品質價格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ

送狀及監查人證明書ハ之ヲ督弁ニ提出シ各種ノ割戻及割引ハ鐵道局ニ帰ス取扱者カ鐵道ノ為ニスル購買ニ付テハ

総テ製造者ノ送狀及監查人證明書ヲ以テ証憑ト為ス取扱者ニ付シテハ前記取扱手數料ノ外別ニ手數料ヲ支給セス但シ購買ニ關シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鐵道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ若シ中華民國產材料及中華民國製品ニシテ其品質價格カ日本品又ハ他ノ外國品ト同一ナルトキハ中華民國產業獎勵ノ為メ

日本帝国大正七年 月 日

日本帝国大正七年 月 日

中華民国七年

月 日

公第三五号

(一月五日接受)

財政総長 印 印

交通総長 印 印

日本興業銀行総裁 印 印

外務大臣子爵 在支那

特命全権公使 小幡酉吉 (印)

吉会鐵路督弁任命ノ件

(欄外註記)

一 「襄ニ本省ニ於テ決定セル修正意見通り決定セルモノナリ」

二 「大正七年十二月九日大蔵省ヨリ富田國庫課長興業銀行ヨリ小野副総裁朝鮮銀行ヨリ美濃部総裁及木村理事台灣銀行ヨリ山成理事満鉄ヨリ竜居理事外務省ヨリ栗野事務官參集協議確定ス (栗野印)」

一 「襄ニ本省ニ於テ決定セル修正意見通り決定セルモノナリ」

二 「大正八年一月三十日」

交通部顧問權量令般吉会鐵路督弁ニ任命セラレタル趣ハ不取敢往電第一一四号ヲ以テ及電報置候處右ニ閑シ外交總長ヨリ正式ニ別紙写ノ通知有之候此段及報告候也

一 「襄ニ本省ニ於テ決定セル修正意見通り決定セルモノナリ」

二 「一月二十四日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛 (電報)

吉会鐵路督弁ニ權量ヲ任命公布ノ件

第一一四号 (一月二十五日接受)

權量ヲ吉会鐵路督弁ニ任スル旨一月二十三日附大總統令ヲ

以テ公布セラル 長春吉林へ転電セリ

一月三十日 在中國小幡公使ヨリ 内田外務大臣宛

吉会鐵路督弁ニ權量ヲ任命ノ旨通知ノ公文写

送付ノ件

照会心字第十四号  
外交次長代理部務陳 照会事准交通部咨稱本部呈請遴員簡任吉会鐵路督弁已於本年一月二十三日奉為  
貴公使查照可也須至照会者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡  
吉会其他各鐵道借款契約案ニ對スル満鉄側修  
正意見ノ取扱方ニ關シ稟申及請訓ノ件

第一一五七号 (二月一日接受)

吉会其他各契約案ニ對シ其後満鉄出張員ヨリ種々修正意見ノ提出アリ爾來三銀行側トノ間ニ意見ノ交換ヲ試ミタルガ岩佐理事ニ於テハ満鉄側修正案ニ對シ強テ異存アルニ非ザルモ已ニ東京ニ於テ各關係者會議ノ末得タル成案ニ對シ今日ニ至リ多クノ修正ヲ加フルハ如何カトモ思考セラレ旁関係者ニ於テ是非共修正ヲ必要トスルニ於テハ一応満鉄本社ヨリ三銀行其他關係ノ筋へ提議セシメラレタントノ意見ヲ有シ一応本使ノ意向ヲ承知シタキ旨申出タリ依テ篤ト考慮ヲ遂グルニ満鉄側ノ修正案ナルモノナキガ如キモ中ニハ技師長等ノ権限問題其ニ觸ルモノナキガ如キモ中ニハ技師主トシ特ニ根本問題ニ觸ルモノナキガ如キモ中ニハ技師長等ノ権限問題其ニ觸ルモノナキガ如キモ中ニハ技師難ト認メラルモノナキニアラザルノミナラズ右ノ如ク今ヨリ多ク支那側ニ提出スルハ本件商議ヲ促進セシムル

日ニ至リ多ク支那側ニ提出スルハ本件商議ヲ促進セシムル

吉会鐵道借款契約善後交渉ニ關連シ満鉄修正  
意見ニ付請訓ノ件

第一一八三号 (二月七日接受)

吉会鐵道借款契約ニ關スル會議ハ支那側委員旅行等ノ事情ニ依

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七三六 七三七

七五九

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七三八

七六〇

リ遷延シタルカ愈々來ル十日第一回會議ヲ開クコトト成レ  
ル趣ナリ就テハ往電第一五七号満鉄側修正意見ニ対シ至急  
關係者ノ議ヲ纏メラレ何分ノ義御電報ヲ請フ

吉会鐵道借款契約案ニ関スル満鉄ノ修正意見書送付ノ件  
第弐号写

大正八年一月三十日

在北京 理事 岩佐程蔵

土方總裁殿

土方興銀總裁ヨリ

吉会鐵道借款契約案ニ関スル満鉄ノ修正意見書送付ノ件

書送付ノ件

附屬書 一月三十日付在北京岩佐興銀理事ヨリ土方興銀

総裁宛書信第二号写

右修正意見書送付ノ件

秘第二号

大正八年二月六日

(二月七日接受)

日本興業銀行

総裁 土方久徴

政務局長 増原正直殿

拝啓一月三十日付岩佐理事ヨリ送付有之候吉会鐵道借款契

約案ニ關スル満鉄意見書写御送付申上候間御査取被下度候

敬具

(附屬書)

第四条

吉会鐵道借款契約案ニ關スル満鉄意見書

第二条

「開通費」ヲ「建設中ノ營業費」トス

理由、開通費トセハ開通準備費ト誤解セラル恐アレ

バナリ

第三条

「開通費」ヲ「建設中ノ營業費」トス

理由、其ノ傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

第三項及第十項「其ノ傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム」  
ヲ「其ノ傭聘契約ハ督弁ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定  
ム」トス

理由、予備金トナス

理由、剩余金ノ使途ヲ制限シ鐵道及債権者ヲ確保ス

第十六条

「並ニ之ニ關聯シテ交付セラレタル前貸金」ヲ削除ス

理由、契約案第十四条ニ依リ前貸金ハ公債募集金ヨリ

最先ニ償還セラレ前貸金トシテノ存在ヲ失ヘハ  
ム」トス

理由、銀行ヲ傭聘者ノ後援タラシムコトヲ期ス

第十七条

「督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得技師長ノ稟申シタ

ル時期ニ於テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス其

ノ傭聘契約ハ督弁ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定  
ム、運輸主任ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ運輸ヲ

掌ル」ト改ム

理由、運輸主任ノ任命時期ヲ技師長ノ意思ニ一任スル

ハ工事着手ニ當リ諸般ノ設計計画上何時其ノ必

要アルヤ知レサレハナリ、「運輸ノ必要アルト  
キ」ナト客觀的ニ定ムレハ督弁又ハ總弁ニ任命

タル以上為シ難シ

第十四条

第四項「督弁」ノ次ニ「技師長」ヲ加フ

理由、實際上建設中ノ費用ノ支出ハ其内容ニ通曉セル

点ニ於テ技師長ニ如クモノナシ然モ会計主任ヲ

除外スルハ会計主任カ鐵道会計ノ主タル責任者

タル以上為シ難シ

第十五条

「本鐵道ノ建設及設備完成後本借款金額中使途ヲ有セナ

ル剩余金ヲ生シタル場合ニハ之ヲ銀行ニ預入シ政府カ本

契約ニ依リテ負担スル債務ノ弁済及本鐵道改良費支弁ノ

第十六項 「本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場

九 対中國借款善後策ニ闇スル件(二) 七三八

七六一

合ニハ督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ更ニ日本人一名ヲ工務主任ニ任命シ技師長ノ職ヲ解クヘシ其ノ傭聘契約ハ督弁ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム工務主任ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ鉄道ノ保存ヲ掌ル」ト改ム

理由、「工務主任」トセシハ吉長鉄道ト用語上ノ統一ヲ期シタルニ由ル尚保線技師ナル語ハ原語ノ直訳ヲ誤リタルニヨリ訂正スルヲ至当ト認ム  
「銀行ト協議ノ上」トセシハ運輸主任ノ場合ト同シク会計主任技師長ノ任命ノ場合ト同シカラシメム為ナリ

「銀行ノ承諾ヲ得テ」亦同シ  
第五項削除之ヲ第三項ニ統ク

理由、技師長運輸主任及工務主任ノ権限ノ規定ト体裁ヲ統一セシム為ナリ  
第一項「本鐵道線路ノ測量、設計及見積ヲ為シ」ノ次ニ「工事ノ施行方法ヲ決定シ」ヲ加フ

理由、技師長ノ權限ヲ大ナラシメム為ナリ即工事區間ノ決定、請負ノ方法ヲモ決定セシメムコトヲ期ス  
ス

第四項、第十一項、第十二項削除  
第十五項ノ次ニ左ノ三項ヲ入ル

「技師長、会計主任運輸主任及工務主任ハ各其ノ所管事務ノ分担ヲ定メ之ニ必要ナル内外人員表ヲ督弁ニ提出シ弁ヨリ各其ノ所管事務所要内外人員ノ任免、給与及其他ノ一般人事並ニ其ノ事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲトルノ權限ヲ付与セラルヘシ」  
「本鐵道工事完成前会計主任及運輸主任ハ技師長ノ指揮ヲ受クルモノトス」

理由、第一項ハ運輸主任及工務主任ニモ会計主任及技師長ト同等ノ權限ヲ付与セン為ナリ  
第二項亦同シ而シテ四者ノ權限ヲ大ナラシメム  
第三項建設中ハ技術本位ナルニ鑑ミ会計主任及運輸主任ヲ技師長ノ節度ニ服セシメ以テ其ノ統制ヲ圖ラムコトヲ期ス

第十六条ノ次ニ第十七条トシテ左ノ規定ヲ加フ  
貴電第一五七号ニ閔シ  
吉会鐵道借款善後交渉ニ閔シ満鉄修正意見不採用ノ旨回訓ノ件  
第一六一号  
内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

四 鄭鐵道第十七条ト同文

理由、担保権目的物ノ確保ノ為メ

第十七条ヲ第十八条トシテ以下一条宛綫下ク

第十八条ト閔聯シ往復文書其ノ他ノ方法ニヨリ左文ノ文意ニヨリ外國貨幣ノ収納ヲ約セシム

「政府ハ其ノ確実ト認メタル外國貨幣ヲモ收入トシテ受入ルルコトヲ約ス其ノ換算率ハ時々督弁ニ於テ之ヲ公表スルモノトス」

理由、双方ニ便利ナリ

第十九条

第二項削除

第三項ヲ「取扱者ハ督弁ノ代理人トシテ本鐵道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ云々」ト改ム

第四項「監督」ヲ「管理」ト改ム

理由、第二項ノ削除ト相俟テ取扱者ノ地位ヲ明瞭ニシ併セテ其ノ活動ヲ自由ナラシメム為ナリ

監督トセハ第三項「右購買ノ入札約定又ハ註文ノ取扱ヲ為シ云々」ト意義抵触ノ氣味アリ

ニテ可然説得スル意図ナリ

右ハ大藏省トモ打合済ナリ

側ヨリ直接本省ニ提出スル様示達シタル件

吉会鐵道借款契約交渉ノ會議議事録ハ三銀行

七四〇

二月十五日

在中國小幡公使ヨリ

内田外務大臣宛

吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事録第一回  
送付ノ件

機密第八号

大正八年二月十五日

(一月二十日接受)

在支那

大正八年二月十五日

(一月十八日接受)

大正八年二月十七日

特命全権公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

吉会鐵道借款本契約締結交渉ニ關スル件

吉会鐵道借款本契約締結交渉ハ予定ノ通り本月十日ヲ以テ  
第一回會議ヲ開キ議事進行ニ關スル大体ノ打合セラアシ今  
後會議ヲ統行シテ追々逐条討議ニ入ル筈ニ有之候處毎回ノ  
會議ニ於テ討議セラレタル事項中重要ナルモノニ付テハ臨

機本使ヨリモ請訓又ハ具報ニ及フヘク候得共會議ノ一般経  
過ニ關シテハ三銀行側ヨリ直接貴方へ議事録ヲ提出シテ查  
閱ニ供スヘキ旨示達致置候間委細ハ右議事録ニ就キ御了悉

相成様致度右予メ為念申進候也

秘第二六号

大正八年二月十七日

日本興業銀行

政務局長 増原正直殿

總裁 土方久徴

拝啓吉会鐵道借款契約締結交渉會議々事録(第一回)岩佐  
理事ヨリ送付有之候間別紙写一部御送付申上候 敬具  
(附屬書)

第三号

大正八年二月十日

北京 理事 岩佐理蔵

土方總裁殿

議ヲ開催シ午後四時半終了ス出席者ハ日本側岩佐委員、松  
本、牛島、末広ニシテ、支那側權量委員、陸夢熊、汪廷  
襄、康誥ナリ

本議事録中岩ハ岩佐委員、谷ハ谷委員、松ハ松本、牛ハ  
牛島、權ハ權量委員、陸ハ陸夢熊、汪ハ汪廷襄ニシテ次  
回以後モ亦同シ

一、委任状ノ提示

日本側岩佐委員、支那側權量委員ハ互ニ委任状ヲ提示シ  
双方ヨリ写ヲ先方ニ送達ノ事ニ約定ス

二、委員ノ權限

權、日本側委員ハ二人ナルカ權限ノ範囲如何  
岩、日本側委員一人ハ委任状ノ文言ハ同一ナルモ實際上  
岩佐力主タル委員ニシテ谷ハ岩佐ノ補助ナルヲ以テ岩  
佐ノ發言ヲ主ナルモノト承知アリタシ

權、支那側ノ委員ハ權量一人ナリ他ノ者ハ權量ノ指図ニ  
ヨリテ發言スヘク右發言ハ權量ニ於テ責ヲ負フヘシ

三、會議ノ用語

權、本會議ノ使用語ハ日本語ニテハ不便ナル故支那語ニ  
シテハ如何

吉会鐵道借款契約締結交渉會議々事録

大正八年二月十日午後三時交通博物館ニ於テ第一回正式会

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七四一

（別  
紙）

吉会鐵道借款契約締結交渉會議々事録

大正八年二月十日午後三時交通博物館ニ於テ第一回正式会

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七四一

岩、権量ハ日本語ニ自由ナル故日本語ヲ以テ交渉ノ積リ

ニテ人員ヲ取組ミ來レリ從来ノ慣例モアリ日本語ニシ度シ

権、必ズシモ日本語ヲ用フベキモノニアラザルモ便宜日本語ヲ用フルコトトスヘシ但シ時々支那語ヲ用フル事

モアルヘキニ付含ミ置カレタシ

岩、日本語ニテ困難ナル場合支那語ヲ用ヒラルハ差支ナシ

#### 四、議事録

権、議事録ハ各自ノ参考ニ供スルニ止ムル事トシ各自要點ヲ記録作成シ特ニ必要ト認ムル箇所ノミニ限り協議ノ上双方ノ記事ヲ照合スルコトシテハ如何

岩、議事録ハ要点ノ記録ニテ充分ナルヘク双方一々照合スルハ不便ナル故各自ニ作成シ特ニ必要ナル場合ノミ相談ノ上照合スルコトニシテ差支ナシ

権、右ノ通りニ定ムヘシ

#### 五、会議日時

権、会議ヲ定期ニ開ク事ハ困難且不可能ナリ双方協議ノ上隨時開ク事トシ度シ尤モ逐条審議ノ如キ場合ニハ引

#### 六、線路ノ測量

岩、線路測量ニ関スル事ハ谷委員ノ出席迄延期シ度シ  
権、吉会線ハ前清時代ニハ測量シタル事アルモ民国ニ入リテハ測量セシ事ナシ、借款金額ノ決定ニハ測量ノ必要アルニ付兩三日中ニ二組ノ人員ヲ派シ測量セシメ談判中ニ建設費ノ見積ヲ為サシメタル上満鉄ノ見積書ト比較研究シ借款額ヲ決定シタシ

岩、借款額ハ本契約ニハ大体何千万円位ノ見積ニテ宜シカルヘシ、不足ヲ生シタル場合ニ付テハ夫々規定ヲ設

#### ケアリ談判中ニ測量ノ上金額ヲ決定スル参考ニ供セラルルニハ異議ナシ

#### 七、契約案ニ付テ

権、昨年十二月十四日興業銀行ヨリ交通總長ニ提出セラレタル契約案ハ三銀行ノ決定案ナリヤ將又希望案ナリヤ

岩、三銀行ノ決定案ナリ

権、本契約ハ予備契約ニ依ルヘク又予備契約締結當局者ノ一人タル曹交通總長ノ言ニヨレハ當時日本側當局者トノ間ニ吉会鐵道借款契約ヲ以テ可成模範的鐵道借款

契約ヲ作リ日支親善ヲ事実ニ表ハシ且支那ニ対シ利權ヲ要求スルコトナク單ニ經濟上ノ連絡發達ヲ期スルコトニスヘシトノロ約アリ且予備契約中ニハ「津浦鐵道ノ例ニヨリ云々」及ヒ「政府ニ有利ナル云々」等ノ文字アリ然ルニ貴方提出ノ草案中ニハ往々右ノ趣旨ニ相違セル点アリ貴方ニ於テ再考修正セラレテハ如何

岩、予備契約ノ趣旨ハ御話ノ如クナルモ予備契約日本側当局者トノ右様ノ話ノ事実ハ知ラズ且三銀行モ知ラズルヘシ但シ右ノ趣旨ハ同意見ナリ即チ今回ノ契約案モ

統キ開催スヘキハ勿論ナリ

岩、牛島ニ從来ノ慣習ヲ問フ

牛、会議ハ便宜毎回双方ノ都合良キ日ニ開ク慣習ナリ申出ヅルコトヲ得ル事トスベシ

権、本日ヲ第一回正式会議トスヘシ

岩、会議日時ハ數日前、妙ク共前日ニハ打合セヲ為スヘキ事トシ度シ

#### 四、議事録

権、議事録ハ各自ノ参考ニ供スルニ止ムル事トシ各自要點ヲ記録作成シ特ニ必要ト認ムル箇所ノミニ限り協議ノ上双方ノ記事ヲ照合スルコトシテハ如何

岩、議事録ハ要点ノ記録ニテ充分ナルヘク双方一々照合スルハ不便ナル故各自ニ作成シ特ニ必要ナル場合ノミ相談ノ上照合スルコトニシテ差支ナシ

権、右ノ通りニ定ムヘシ

#### 五、会議日時

権、会議ヲ定期ニ開ク事ハ困難且不可能ナリ双方協議ノ上隨時開ク事トシ度シ尤モ逐条審議ノ如キ場合ニハ引

#### 六、線路ノ測量

岩、線路測量ニ関スル事ハ谷委員ノ出席迄延期シ度シ  
権、吉会線ハ前清時代ニハ測量シタル事アルモ民国ニ入リテハ測量セシ事ナシ、借款金額ノ決定ニハ測量ノ必要アルニ付兩三日中ニ二組ノ人員ヲ派シ測量セシメ談

判中ニ建設費ノ見積ヲ為サシメタル上満鉄ノ見積書ト比較研究シ借款額ヲ決定シタシ

岩、借款額ハ本契約ニハ大体何千万円位ノ見積ニテ宜シカルヘシ、不足ヲ生シタル場合ニ付テハ夫々規定ヲ設

#### 七、契約案ニ付テ

権、日本側ノ予備契約締結當局者ハ向人ナリヤ

岩、予備契約締結日本側當局者ハ契約署名者タル興業銀行吉川ナリ

権、吉川ハ形式上ノ當局ナルモ實際交渉ニ当リシ者ガ右ノ如キ話ヲ為サザリシヤ

岩、何人ガ右ノ如キ話ヲ為シタリヤハ知ラズ

権、當時三銀行ノ代表者ハ西原ニアラズヤ

岩、西原ノ事ハ聞キ居ルモ三銀行トハ委任等ノ關係ナシ周旋位ハシタルヤモ知レザルモ承知セズ又右様ノ話ハ

引繼キヲ受ケ居ラズ

権、草案中ニハ予備契約中ニアラザル事項即チ予備契約ノ範囲以外ノ事項アリ

岩、本契約ニハ予備契約以外細目ノ規定ヲ必要トス又当方ニテハ予備契約ノ範囲以内ノ事項ノミト考ヘ居レリ、是ハ双方ノ意見ノ相違ナル故大体論ニセズ具体的ニ話サレタシ

権、例へハ第十六条ノ如キハ明ニ予備契約ノ範囲以外ニ

出デタルモノナリ、津浦鉄道ノ契約ニハ右ニ該当スルモノナシ

岩、文字ニ就テハ各々考ヲ異ニスヘキ点アルヘキモ意味ニ於テハ同一ナリト信ズ津浦契約ニハ表面ニ表ハレ居ラザルモ同一ノ取扱ヒヲ為シ居ルニ付實際上ハ同一ナリ、逐条審議以前ニ全体トシテ再考修正ノ余地無シ、具体的ニ異議アル点ヲ全部示サレタシ

権、何レ予備契約ノ日本側ノ當局者及其談話ヲ詳細ニ曹

交通総長ヨリ聞キ取り次回ニ御話スヘシ

契約案ハ双方ヨリ提出シ得ルモノ故當方ノ意見ヲ次回

ニ提出シ且其理由ヲ説明スヘシ又貴方案ニ就テモ説明

ヲ求ムルコトトスヘシ

本日ノ會議ハ右大体ノ意見交換ニ止メ之ニテ散会ス

七四二 二月十七日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道予定線ノ中國側測量隊ニ便宜供与方

ニ付満鉄ニ依頼シタル件

(一月十八日接受)

本使堯國沢南満鉄道會社理事長宛二月十五日電報左ノ通り

第二四二号

(二月十八日接受)

吉会契約案第十六条ニ關連シ津浦鉄道ノ運

輸監視人ノ職權ニ付問合ノ件

七四三 二月十八日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

今般交通部ヨリ派遣スヘキ吉会鐵道予定線測量隊ハ目下進行中ノ吉会鐵道借款ニ關スル商議ノ促進ト密接ナル關係アル故右一行ニ対シ十分便宜ヲ与へ出来得ル限り速ニ満足ナル測量ヲ遂行セシムルコト得策ナリト思考セラルニ付朝鮮總督府ニ一応御通知ノ上場合ニ依リテハ同方面ノ事情ニ精通スル貴社員ヲシテ何等カノ名義ヲ以テ案内ノ為同行セシメテハ如何ト思料ス御一考ノ上然ル可ク御取計アリタシ

ル処右ニ於テモ上記 Inspector ノ職權等ニ關シ貴方ニ於テ篤ト御調査済ノ義ト被存ニ付何分ノ御回電アリタシ

七四四 二月二十日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛

交通總長ヨリ吉会鐵道予定線測量隊派遣ニ關シ便

宜供与方依頼並右派遣隊員氏名通知越ノ件

附屬書 二月十五日付曹交通總長ヨリ在中国小幡公使宛

照会

公第六九号

大正八年二月二十日

(一月二十五日接受)

(別紙)

吉会鐵路測量隊職員名單

第一隊

主任 周 良 欽

副主任 李 壮 慶

工程司 韋 允 裕

測量員 王 耀 光

同 上 沈 培 隆

調查員 石 智 覚

收文兼務員 劉 德 芬

本信送付先

朝鮮總督、南満鉄道國沢理事長宛

(附屬書)

九 対中国借款善後策ニ關スル件(一) 七四四

七六九

副主任 曹 壢  
工程司 施 恩 曜  
測量員 周 紹 昌  
同上 梁 劲  
調查員 陳 葆 初  
收支兼務員 楊 啓 曜  
土方興銀總裁ヨリ  
埴原政務局長宛

一月二十二日土方日本興業銀行總裁ヨリ在北京岩佐理事宛電報  
特第四号写

## 特第四号

貴電見タ御問合ノ件大蔵省ニ同ヒタルニ當時予備契約当事者力曰支親善ノ主義ニヨリタルハ勿論ナレドモ予備契約以外特ニ具体的条件ヲ口約シタル事実ナシ尤モ今回提出シタル契約ハ日支親善ノ根本趣意ニ基キ作成セシハ勿論支那側対案ニ對シテモ此趣意ニテ交渉スヘキニ付キ其御含ニテ交渉進行アリ度シ

七四五 二月二十四日 吉会鐵道ニ闕シ予備契約以外ニ特別ノ口約ナ

キ旨及日中親善ノ趣意ニ基キ交渉方岩佐ニ指

示シタル件

秘第二七号

大正八年二月二十四日

株式会社日本興業銀行

總裁 土方久徵

政務局長 塙原正直殿

拝啓在北京岩佐理事ニ對シ本日別紙ノ通り架電致候間写御

敬具

送付申上候

(別紙)

七五六 二月二十七日 富田大蔵書記官ヨリ

栗野外務書記官宛

吉会及他諸鐵道借款契約案ニ對スル滿鉄修正意見ニ闕

吉会其他ノ諸鐵道借款契約案ニ對スル滿鐵側改正意見ノ採否決定ニ付興業銀行ヨリ在北京岩佐理事宛通知案ノ件ニ闕

シ御照会ノ次第有之候處當省意見トシテハ大体左記ノ通ニ有之其中丙ニ付テハ支那側ヲシテ容易ニ之ヲ承諾セシメ得レハ固ヨリ當方ノ好都合トスル処ナルモ成功甚タ覚束ナク

國秘第一一九号

吉会其他ノ諸鐵道借款契約案ニ對スル滿鐵側改正意見ノ採

否決定ニ付興業銀行ヨリ在北京岩佐理事宛通知案ノ件ニ闕

丙、支那側承諾ノ見込ナキモノ

一、技師長其他ノ傭聘契約ハ「督弁ニ於テ銀行ト協議ノ上之ヲ定ム」ト改ムルコト

二、会計主任、運輸主任、保線技師ニ技師長同様所管事務ノ分担ヲ定メ内外人員表ヲ作成セシムルコト

三、会計主任、技師長、運輸主任及保線技師ニ各其所管事務所用内外人員ノ配置給与等ニ付必要ナル処置ヲ採ルノ權ヲ与ヘシムルコト

栗野外務書記官殿

記

甲、可トスルモノ

一、第十五条ニ第二項ヲ加フルコト  
二、四鄭鐵道第十七条ト同文ノ規定ヲ加フルコト

三、外國貨幣ノ收納ニ闕スル取極ヲナスコト

乙、必要ナシトルモノ

一、第十四条第四項督弁ノ次ニ技師長ヲ加フルコト  
二、運輸主任ノ任命時期ヲ技師長ヨリ稟申セシムルコト  
三、技師長ノ權限ニ「工事ノ施行方法ヲ決定シ」得ルコト  
トヲ加フルコト

四、取扱者ハ督弁ノ代理人タルトノ規定ヲ設クルコト

九 対中國借款善後策ニ闕タル件(二) 七四七

七四七 二月二十七日

土方興銀總裁ヨリ  
埴原政務局長宛

附記 吉会鐵道借款契約本邦案ト中國側対案トノ対照表

秘第二八号 (二月二十八日接受)

大正八年二月二十七日

株式会社日本興業銀行

政務局長 境原正直殿

総裁 土方久徵

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送付申上候

(附屬書) 敬具

別紙写

二月二十六日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛電報特第六号

特第六号

昨二十五日吉会鐵道借款契約案ニ閲シ第三回會議ヲ開キ支

那側ヨリ<sup>(註)</sup>対案ヲ受領シタリ

対案ハ二十三条ヨリ成立シ日本案第八条第二十条第二十四条ヲ削リ新ニ第九条トシテ四鄭鐵道借款契約第十七条中ヨリ其第二項ヲ除キタルモノニ相当スル鐵道警察ニ閲スル事

ヲ加ヘタリ

対案ハ書面ニテ送附スベク大体津浦鐵道借款契約ニ準拠シタルモノニシテ変更ノ大略ハ左ノ通

銀行案第七条第三項手數料同第十三条第二項發行手數料同

第十八条第三項取扱手數料ノ率ヲ空白トシテ委員ノ協議ニ

残シタリ

銀行案第六条第一項末尾(此場合ニ於テハ)以下ヲ削り銀行案第七条ニ左ノ通り二項ヲ加ヘタリ  
第二項記載交付金額ハ政府或ハ督弁ヨリ天津或ハ上海支店ニ於テ銀行ニ交付シ其相場ハ交付ノ当日銀行ト約定スヘキモノトス並ニ元利金交付期日前六箇月以内ハ何時ニテモ其約定ラナス事ヲ得ルモノトス

政府所有日本金貨ノ日本ニ於ケル預金アル場合モ亦期日十四日前ニ此ノ日本預金ヲ以テ元利金ノ交付ヲナシ得ルモノトス

右ハ募集目論見書發行以前ニ申込ムヘキモノトス

銀行案第十四条第二項ノ利子八年四分ト変更セリ

銀行案第十六条第三項第四項第五項会計主任ニ閲スル規定

第十三項工事請負人ニ閲スル規定第十五項運輸主任ニ閲スル規定ハ全部削除セリ

銀行案第二十一条末尾ヲ左ノ通り変更セリ  
銀行案第二十二条末尾ヲ左ノ通り変更セリ

其他總テ金額ノ受渡ハ便宜上天津上海或ハ日本東京ニ於テ是ヲナスモノトス

銀行案第二十五条ヲ左ノ通り変更セリ

本契約書ハ日支両文ヲ以テ各四通ヲ作成シ政府ニ三通ヲ保存シ銀行ニ壹通ヲ保存シ双方一致セシメ置クモノトス

註 中國側対案ニ閲シテハ後出七五五文書ノ附屬書參看

(附記)

吉会鐵道借款契約本邦案

對案

支那側

對照表

第六条 日本側案

第六条第一項末尾ノ「此ノ場合ニ於テハ」以下ヲ削除、(但第七条ニ二項ヲ加フ)

ハ額面百分ノ二半ノ割増即チ金壱百円ニ付金壱百零貳円五拾錢ヲ支払ヒ第二十一

年目以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

第七条

第七条第三項(手數料)ヲ

政府所有日本金貨ノ日本ニ於ケル預金アル場合モ亦期日十四日以前ニ此ノ日本預金ヲ以テ元利金ノ交付ヲ

## 第八条

政府ハ本公債ノ元利支払ヲ無条件ニ保証シ本鐵道收入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支払ニ不足ヲ告クルトキハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足スルモノトス

ナシ得ルモノトス

## 第八条全文削除

(但第九条トシテ新ニ四鄭鉄道借款契約第十七条中ヨリ其第一項ヲ除キタルモノニ相当スル鐵道警察ニ閣スル事項ヲ加フ左ノ如シ)

第十三条

## (第二項) 政府手取額ハ發行手數料トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス

第二項ヲ空白トシテ委員ノ協議ニ残ス

左ノ一項ヲ加フ  
ノン得ルモノトス

## 第九条、鐵道警察

一、本鐵道全線ノ保護ノ為メ設クヘキ巡警隊ハ督弁ニ直屬シ警官及警兵ハ總テ中華民国人ヲ以テ之ニ充テ其ノ給与及経費ハ本鐵道收入ノ中ヨリ支給スベシ

二、鐵道保護ノ為メ軍隊ヲ要スル時ハ其給与等ハ政府ヨリ支弁スヘシ

## 第十四条

(第二項) 一年三分ノ利子ヲ附シ云々

年四分ト変更

中華民國政府ニ於テ購買ノ申込ヲナス時ハ第一ニ是ニ應スベシ但シ右ハ募集目論見書發行以前ニ申込ムベキモノトス

## 第十六条

## 第十六条规定

(第三項) 督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ会計主任ニ任命ス其僱聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

## 第四項削除

(第四項) 会計主任ハ会計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ会計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

## 第五項削除

(第五項) 会計主任ハ本公債期間内督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ運輸ヲ掌ル

## 第十三項削除

(第十三項) 技師長ハ日本人請負人ヲ推薦ス

## 第十五項削除

(第十五項) 督弁ハ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス

九 对中国借款善後策三関スル件(二) 七四七

銀行ハ公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從テ本公債ニ關スル事項ニ付本鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債

証書所持人ノ代理人タルヘ

シ

第二十一条

本公司債募集金ノ交付、本公司

債元利金ノ支払其他總テ金

額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ

之ヲ為スモノトス

第二十四条

本契約ハ大正七年月日

即チ中華民国七年月日

大總統令ニ基キ調印シタル

モノニシテ右大總統令ハ外

交部ヨリ公式ニ中華民国駐

劄日本公使ニ通告ヲ經タリ

第二十五条

本契約書ハ日華両文ヲ以テ

各四通ヲ作成シ其内各参通

ヲ政府ニ各一通ヲ銀行ニ保

存ス若シ本契約ノ解釈ニ關

(第二十一条末尾ヲ左ノ通

リ変更)

其他總テ金額ノ受渡ハ便宜

上天津上海或ハ日本東京ニ

於テ是ヲナスマノトス

第二十四条

全文削除

公第二十九号

大正八年二月二十八日  
吉会鐵道ニ閲スル吉長日報社説訳報ノ件

附屬書 一月二十三日付吉長日報社説和訳文

(三月十三日接受)

在吉林

領事 森田寛蔵(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

吉会鐵道ニ閲スル吉長日報論評送附ノ件

吉長日報ハ客月二十三日其社説欄ニ於テ「吉会鐵道ニ閲シ

吉林省民ニ警告ス」ト題シ別紙ノ通論評致居候間為御参考

御查閱相成度茲ニ同切抜<sup>(註)</sup>キ並訳文相添ヘ此段御報告申進候

御査閱相成度茲ニ同切抜<sup>(註)</sup>キ並訳文相添ヘ此段御報告申進候

敬具

註 切抜省略

(附屬書)

別紙 吉長日報社説和訳文

吉会鐵道ニ閲シ吉林省民ニ警告ス

吉会鐵道ハ吉林省城ヨリ朝鮮ノ会寧ニ至ル鐵道ニシテ前清宣統元年七月二十日日支両國政府締結ノ因<sup>(註)</sup>們江界務條約ニ基ク其第七条ニ曰ク

支那政府ハ将来吉長鐵道ヲ延吉ノ南方迄延長シ朝鮮会寧地方ニ於テ朝鮮鐵道ト連絡ス其一切ノ弁法ハ吉長鐵道ト同様ニ弁理ス其起工期ハ支那政府ニ於テ事情酌量ノ上日本政府ト改メテ商議決定ス

トアリ然ルニ本鐵道ニ閲シテハ單ニ當時ニ於ケル両國政府間ノ一空談タルニ止マリシヲ以テ吉林官吏ハ何レモ悲憤激昂セザルハナカリキ記者モ亦以為ラク木朽チ蛀生ス中央政府既ニ我吉林ヲ棄テ日本ノ謬リテ間島ト指称スル我カ固有ノ邊境ニ一区域ヲ画定シテ縱マニ朝鮮人ヲ雜居セシメ且ツ七八百里ノ線路ヲ輕々ニ他人ニ与フ洵ニ憤懣スヘキナリ、然レドモ起工期ノ決定權ハ我政府ニ有ルヲ以テ主權ハ猶ホスル記事ノ日本新聞ニ掲載セラレタルニ際シ本紙ハ極力其不合理ヲ闢クニ力メタリ詎シゾ料ラン段祺瑞政ヲ執リ武力其不合理的ヲ闢クニ力メタリ詎シゾ料ラン段祺瑞政ヲ執リ武力

我政府ニ存ストココヲ以テ民国ノ初日本人ノ線路調査ニ関スル記事ノ日本新聞ニ掲載セラレタルニ際シ本紙ハ極力其不合理的ヲ闢クニ力メタリ詎シゾ料ラン段祺瑞政ヲ執リ武力其不合理的ヲ闢クニ力メタリ詎シゾ料ラン段祺瑞政ヲ執リ武力

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七四九 七五〇

七七八

國ノ主義タル公理平等ト符合セザルナン願クハ吉林省五百

万ノ同胞起チテ之ヲ因レヨ

第一冊四六三文書ノ別電(明治四十二年九月二日小村外務

大臣發曾禱韓國統監宛電報第一〇六号)参照

吉会鐵道公債証書ノ製造費等是ヲ發行スル為メ必要ナル費用ハ銀行ノ負担トシ銀行ハ吉会鐵道借款契約案第十三条第二項發行手數料中ヨリ支出スヘキノ趣意ナルヤ又ハ右費用ハ發行手數料以外支那政府ノ負担トスヘキヤ

七四九 三月一日 塙原政務局長宛

(土方興銀總裁ヨリ)

吉会鐵道借款契約案中ノ疑義ニ關シ岩佐理事

トノ往復電報写送付ノ件

(土方興銀總裁ヨリ)

大正八年三月一日

秘第二九号

大正八年三月一日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

埴原政務局長殿

拝啓在北京岩佐理事ヨリ別紙甲号ノ通り來電有之候ニ付之

ニ対シ乙号ノ通リ發信致候間写御送附申上候 敬具

(別 紙)

甲号写

二月二十八日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛電報

特第五号

特第七号落手吉会鐵道公債証書製造費等發行ニ必要ナル費用ハ銀行ノ負担トシ發行手數料中ヨリ支払フ筈

乙号写  
三月一日土方興銀總裁ヨリ在北京岩佐理事宛電報

三月一日土方興銀總裁ヨリ

吉会鐵道借款契約交渉ノ第四回會議事錄送付ノ件

七五〇 三月一日 在北京岩佐理事ヨリ

土方興銀總裁宛

付ノ件

吉会鐵道借款契約交渉ノ第四回會議事錄送付ノ件

第六信

大正八年三月一日

在北京 理事 岩佐程蔵  
土方總裁殿

拝啓昨二月二十八日第四回會議ヲ相開キ申候詳細ハ別紙會議録ニ依リ御承知被下度候

註 右ハ第四回會議録ト共ニ三月八日附秘第三五号ヲ以テ土方興銀總裁ヨリ埴原政務局長宛送付越サレタルモノナリ

(附屬書)

吉会鐵道借款契約締結交渉會議々事録(第四回)

松、日本案第十八条第六項ニ「監査人」トアルハニツ共  
誤リニ付「検査人」ト改ム  
岩、尚支那案第十八条第六項モ「監査人」トアルヲ「検

査人」ト改メラレ度シ

三、支那案第十八条第二項ノ意味

岩、支那案第十八条第二項中「政府ノ指定ニ依リ」ハ日本案ニ無シ其ノ意味如何

權、右条項中日本訳文ノ「其他ノ物件」ハ原文ニ無キニ  
付削ラルル事

但シ「切材料機器」ノ文字ニテ概括シアルヲ以テ意味  
ハ同一ナリ「政府ノ指定」トハ政府ハ相手方トシテ銀行  
ヲ指定スルノ意味ニシテ銀行ハ随意ニ更ニ取扱人ヲ  
指定スルノ意ナリ

岩、政府ハ銀行ヲ指定シ、銀行ハ更ニ取扱人ヲ指定スル  
ノ意味ト了承セリ

一、支那案日本訳文一通ヲ参考ノ為メ權量ニ交付ス  
二、日本案ノ誤字訂正

岩、「支那案日本訳文一通ヲ参考ノ為メ權量ニ交付ス」  
「支那案日本訳文一通ヲ参考ノ為メ權量ニ交付ス」

スヘシ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五〇

七七九

料ヲ控除シタル実数トストノ意ナリ

岩、右ニテ明瞭セリ支那案日本訳文ヲ其意味ニ訂正スヘシ

五、日本案第十六条会計主任及運輸主任備聘ノ件

岩、逐条審議以前ニ双方草案ノ相違セル重要点ニ付キ協議スルコトニスヘシ

岩、日本案第十六条会計主任及運輸主任ノ事項ハ支那案ニ無シ

貴方削除ノ趣旨ハ予備契約ニ記載ナク且津浦契約ニモナキ為メナリト推測ス、然シ乍ラ日本案ニ右両主任備聘ノ条項ヲ加ヘシハ不得止ニ出ツルモノニシテ其理由次ノ如シ

イ、津浦契約ハ三種ノ確実ナル税金ヲ担保トセルヲ以

テ鉄道經營ノ良否ハ直接債権保全ニ關係ナシ反之吉会ハ先ソ無担保ニテ資金ヲ弁達シ其資金ニヨリテ建設セラレタル鉄道力唯一ノ担保トナリ其鉄道収入ニヨリテ元利金ヲ支払ハントスルモノニシテ鉄道建設ノ適否、鉄道經營ノ良否ハ直接債権者ニ利害ヲ及ボ

ラズヤ

二、仮令両主任ヲ備聘スルコト無クシテ募債シ得ルト仮定スルモ頗ル貴国ニ不利ナル発行条件トナルヘント信ス

要之鉄道ノ建設經營ノ良好ナルハ債権ノ確保ニ必要ニシテ且貴國ノ利益ナリ、貴國ニモ適當ノ人物ハ有

谷、技師長連署ノ事ハ支那案ニ無シ

ルモノナル故両主任ヲ日本人トセズ共可ナリト思フ

スル者ヲ参加セシムルニ非ザレハ安心シテ投資スル能ハズ

谷、監查人アリ会計主任ノ要ナシ

權、両主任ニ日本人ヲ用ヒズ共支那政府ニテ責ヲ負ヒ充

分良ク經營スヘシ

岩、吉会ト津浦トノ根本ノ相違ハ担保力悪シト云フニアラズ又税金等ノ担保ノ追加ヲ望ムニモアラズ只津浦ニテハ鉄道ノ盛衰ト債権ノ確保トニ直接ノ關係無キニ反シ吉会ハ債権ノ確保、一二鉄道ニヨルノ点異レリ、從ツテ債権者側ヨリ適当ト信ズル者ニ運輸会計ヲ掌ランメ督弁総弁ノ下ニ働くシムルニアラザレバ公債応募者ヲ安心セシムルコト能ハズ

ハ、津浦ニテ歐戰以前ニハ欧米人ヲ使用セシハ事實ナレドモ自ラ必要ト認メテ使用スルト契約上ノ義務トシテ備聘スルトハ同シカラズ吉会ニ於テモ必要ト認ムレハ日本人ヲ使用スルコトモアルヘシ

二、若シ両主任ニ日本人ヲ用ヒザレハ公債發行ノ条件支那ニ不利益ナルヘシトノ事ナルモ余ハカク信ゼズムレハ日本人ヲ用フル以上督弁ニ於テ獨断ニテ仕事出来ズ凡テ相談ノ上書類ニモ連署ス

ホ、技師長及保線技師ニ日本人ヲ用フル以上督弁ニ於テ

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五〇

スコト、而シテ日本人ヲ備聘セラルニアラザレバ債権者トシテ安心出来ズ

口、何億円ト云フ資金ヲ調達スルニハ三銀行自身ノ金ヲ要ス之カ為メニハ応募者ノ安心シ得ル様三銀行ノ信用スル者ヲ建設及經營ニ参加セシムルヲ必要トス

日本ニ於ケル支那鐵道公債ノ募集ハ四鄭ニ初マリ日本ノ金融市場ニ有力ナル先例ヲ示セリ故ニ四鄭同様

会計、運輸両主任ニ日本人ヲ入ルルニアラザレバ応募者ヲ得ルコト困難ナルヘン

ハ、津浦契約ニハ両主任備聘ノ条項コソナケレ歐戰以前ニハ實際上両主任ハ債権者ノ指定セル歐州人ヲ用ヒ居ラレタリ夫ハ其必要ヲ認メラレタルカ為メニアラズヤ

谷、監查人アリ会計主任ノ要ナシ

權、両主任ニ日本人ヲ用ヒズ共支那政府ニテ責ヲ負ヒ充

分良ク經營スヘシ

岩、吉会ト津浦トノ根本ノ相違ハ担保力悪シト云フニアラズ又税金等ノ担保ノ追加ヲ望ムニモアラズ只津浦ニテハ鉄道ノ盛衰ト債権ノ確保トニ直接ノ關係無キニ反シ吉会ハ債権ノ確保、一二鉄道ニヨルノ点異レリ、從ツテ債権者側ヨリ適當ト信ズル者ニ運輸会計ヲ掌ランメ督弁総弁ノ下ニ働くシムルニアラザレバ公債応募者ヲ安心セシムルコト能ハズ

權、満鉄ハ多額ノ外債アルモ外国人ノ会計主任モ運輸主任モ無キニアラズヤ

谷、監査人アリ会計主任ノ要ナシ

權、満鉄ハ二億円ノ資本ヲ有シ之ニテ鉄道ヲ建設シテ後

外債ヲ募集シタルモノナリ外債ニヨリテ初ヨリ鉄道ヲ

建設スル吉会トハ同ジカラズ

權、貴方ノ理由ハ余箇人トシテハ尤モナリト思フモ予備

谷、監査人アリ会計主任ノ要ナシ

## 九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五〇

七八二

契約及津浦契約ニ無キ事項ヲ契約スルコトハ委員トシ  
テハ権限外ニテ商議シ得ズ

岩、予備契約及津浦契約ニハ備聘ノ項無キト同時ニ又反

対ニ備聘シ得ズトノ項モ無シ津浦ト吉会トハ前述ノ根

本ノ相違アルニ付単ニ文字ノ末ニ走ラズ根本精神ヨリ  
見テ相当ノ理由アル事項ハ記入スルニアラザレバ実行

不可能トナル  
権、吉長線ハ從前日本人ノ技師長会計主任アリシニモ不  
拘腐敗セシ事アリ又如此事項ヲ記入スルニハ予備契約  
ヲ改ムルヲ要ス

岩、日本人支那人何レニテモ可ナルヤモ知レズ、只債權  
者ヲ安心セシムル為メニハ日本人タルヲ要スルナリ又  
本契約ニテ契約スレハ充分ニシテ予備契約ニ遡リテ改  
正スルノ要ナシ

権、予備契約ノ時ニハ債權者ハ安心シテ前貸ヲ為シタリ  
又支那ノ鉄道借款ニシテ從来元金ノ不償還、利息不払  
等ノ事実無シ

岩、予備契約ノ前貸金ハ金額大ナラズ且短期ニシテ長期  
ナル本契約トハ同一ニ言フヲ得ズ又從来不償還不払無

### 様取計ハレ度シ

(附)  
権、何レ総長ト相談ハスヘキモ詳細ノ話ハアラザルヘン

予備契約当事者間ノ口約ナリトテ會議終了後權量ヨリ其ノ  
控ヘナルモノヲ参考ノ為メ読ミ上ゲタリ其大要左ノ如シ

イ、吉会、滿蒙及山東諸鉄道ハ均シク從來ノ利權獲得主義  
自利主義ヲ棄テ中國本位主義ニ從フ

ロ、割戻及割引等ハ均シク廢止ス即チ「コムミッショソ」  
ハ取ラズ

ハ、鐵道建設工事ハ支那人間ニ於ケル有力ナル土木請負業  
者ヲシテ土木請負会社ヲ設立セシメ之ニ請負ハシム、支

那ニ於テ希望スル時ハ右会社ハ日支ノ合弁ト為スモ可ナ  
リ

以上ノ趣旨ニヨリ津浦ノ契約事項中左ノ点ヲ改正シテ吉会  
ノ契約ヲ為サントス

イ、津浦契約第十三条銀行ノ發行手數料百分ノ五半ハ支那  
ニ割戻セサルコトシ百分ノ二或ハ百分ノ三ヲ銀行ニ与  
ヘ残リノ百分ノ二半或ハ三半ハ支那政府ノ收入トシ政府  
ハ其内ヨリ更二千分ノ二半ヲ報酬トシテ銀行ニ与フ

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五〇

シトノミニテ債權者ハ安シテ応募スルモノニアラズ両  
主任ノ備聘無クハ募債困難ナリ鐵道ヲ作ル為メニハ募  
債ノ要アリ、募債ニハ尠ク共四鄭ノ先例通り両主任備  
聘ノ要アリ

権、予備契約當時四鄭ヲ例トセズ津浦ノ例ニヨルト明記  
セシニヨリ其趣旨明ナラズヤ、両主任ニ日本人ヲ用ヒ  
ズ共募債ハ不可能トハ思ハレズ、支那案ハ大ナル讓歩  
ノ上作成セシモノ故予備契約ニモ津浦契約ニモ無キ両  
主任ノ事ハ讓歩セラレタシ此件ハ同意出来ザルノミナ  
ラス縦長ニ話シ出ス事ナヘ困難ナリ

尚吉会ハ前清時代ヨリノ沿革モアリ特ニ讓歩シテ対案  
ヲ作リシモノナルモ山東、滿蒙ニ付テハ吉会通リニテ  
ハ協議ニ応ジ得ズ此点明言シ置ク

岩、両主任ノ事ハ債權者ニ安心ヲ与フル唯一ノ方法ナル  
ヲ以テ単ニ予備契約、津浦契約ニナシト云フカ如キ文  
字ニノミ拘泥セズ本鐵道ヲ適當ニ建設シ有利ニ經營ス  
ルノ根本精神ヲ篤ト考慮サレ其ガ為メニ必要ナル以上  
日本案ニ同意サレ度ク貴下ハ委員ニシテ且督弁ナレハ  
此点ニ付特ニ縦長ト充分協議ノ上可成事ノ円滑ニ運フ  
此点ニ付特ニ縦長ト充分協議ノ上可成事ノ円滑ニ運フ

### 口、津浦契約第十四条銀行監査人ノ項ハ削除ス

ハ、津浦契約第十八条外國材料機器購買手數料百分ノ五ヲ  
支給スルノ項ハ削除ス

ニ、津浦契約第十七条技師長備聘ノ項ハ削除スルモ可ナリ  
以上ノ趣旨ハ本契約ニ規定スルモノトス

イ、鐵道財產全部ヲ担保トスル外政府ハ何等ノ束縛ヲ受ケ  
ズ

ロ、技師長、會計、工務、運輸ニ必要ナル補助人員ハ別ニ  
協定シ支那政府ノ委任ニヨリ銀行團ヨリ之ヲ推薦シ其契約  
ハ銀行團ハ單ニ立会人トナリ支那政府自ラ契約

スルノ形式ヲ取ル事

ハ、技術部補助支那人ハ可成日本留学生出身者ヲ採用スル  
事

ニ、外國材料機器購買取扱ハ當時(民國七年)ノ計画ニヨ  
ル中華貿易会社ヲ設立シテ取扱ハシムル事

ホ、建設工事ハ支那土木請負業者ニ分割請負ハシメ其暴利  
ヲ貪ルヲ防ク為メ日本土木請負業者ヲ一名参加セシムル  
モ可ナリ

以上各項ハ中國鐵道界ニ一新紀元ヲ作り将来ノ鐵道建設ニ

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五一 七五二

七八四

付歐米資本家ニ模範ヲ示シ從来ノ利権獲得主義ヲ棄テシメ  
ントスルニアリ日支親善ノ精神実ニ茲ニアリ

註 第二回及第三回會議ノ議事録ニ付テハ後出七五四文書ノ附

風書一及同二參看

七五一 三月二日 在長春森田領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉長線ニ対スル満鉄ノ委託經營權ヲ縮少セん

トスル權量ノ意圖ニ關シ村田満鉄代表者ノ談

話報告ノ件

第二九号

本官發在支公使宛第十六号

昨日本官ヲ來訪シタル吉長線ノ村田満鉄代表者ハ語リテ曰  
ク權量ハ吉長線ニ対スル満鉄ノ委任經營權ヲ少クトモ縮少  
セントスル意圖ヲ有シ居ルモノノ如ク先般同氏大連訪問ノ  
際ノ行動及今回吉長満鐵連絡ニ關スル諸施設ノ取消方電命  
シ來タリタルニ徵スルモ其片鱗ヲ窺フニ足ル而シテ事ノ茲  
ニ至リシ原因ノ一ハ我政府側ニ存ストモ思料セラル即チ大  
隈内閣ハ吉長線ヲシテ日本ノ勢力ノ甚タ濃厚ナルモノタラ  
シメシニ次ノ寺内々閣ハ吉会線ヲシテ日本ノ勢力ノ甚ダ稀

七五二 三月三日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

外務大臣ニ電報セリ

吉会鐵道借款契約案ニ対スル中國側對策ニ關

シ請訓ノ件

第二九二号

(三月四日接受)  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道借款契約締結會議ニ關シ二月二十五日支那側ヨリ  
対案ヲ提出セリ我方提案ト相違ノ点等ニ付テハ岩佐理事ヨ  
リ本店ヘノ報告ニ依リ委細御了悉ノ上本使ニ於テ心得置ク  
内情ヲ聞キ見ルニ權量ニ於テ可成リ札ヲ失シ居ルカ如クニ  
モ思料セラル御参考迄ニ申進ス

ヘキ事項アラバ至急御回電アリタシ只貴聞ニ達シ置キタキ  
ハ支那側ニ於テ果シテ運輸會計兩主任聘傭ニ關スル條項ヲ  
全然削除シ來レルコトニ有以テ同問題ニ關シ意見

ヲ交換セシムルコトシタルガ右折衝ニ當リ客年貴電第一  
一三八号御來示ノ内(三)銀行ノ勞務ニ対スル報酬二百万  
円要求撤回ノ件ハ我方主張ノ有力ナル交換条件ノ一ナルヘ  
キモ卑見ニ依レハ津浦鐵道契約ニ勞務報酬トシテ二十萬磅  
交付ノ規定アルモ債券発売手數料ハ第二回發行ノ分ヨリ申  
受ケ第一回發行ノ際ニハ何等手數料ヲ控除セザルモノナル  
ヤニ認メラルニ反シ今回ノ吉会鐵道契約ニ於テハ第一回  
發行ノ時ヨリ手數料ヲ控除スル次第ニ前記津浦鐵道ノ場  
合トハ頗ル相違致シ居リ從テ勞務報酬ノ件ヲ兩主任要求ノ  
掛引ニ引用スルノ理由極メテ薄弱ナルヤニ思考ス一束御考  
究ノ上往電第二四二号ニ關スル御意見ト共ニ併セテ御電訓  
ヲ乞フ

ニ入ルベキ旨及交渉方針ニ付岩佐ニ指示シタ  
ル件  
(三月六日接受)

第三〇七号

往電第二九二号ニ關シ

其後第四回會議ヲ開キ運輸、會計兩主任問題ニ付キ我方主  
張ノ理由ヲ篤ト説示シタルモ先方ニ於テハ仮契約ヲ締トシ  
尚ホ容易ニ之ヲ應諾スルノ色ナク結局物分レト成リタル趣  
ニテ今後極力説得ニ努ムルモ契約面ニ明記セシムルコト頗  
ル困難ナルカ如ク切メテ附屬書類ニ依リ協定スルコトヲ得  
バ寧ロ大成功ト謂ハザル可カラズト思料セラル處本問題  
ニ対スル先方ノ態度右ノ如ク強硬ニシテ為メニ徒ラニ時日  
ヲ遷延セシムルハ昨今ニ於ケル諸般周囲ノ情勢ニ顧ミ決シ  
テ得策ナラズ旁暫ク同問題ノ決定ヲ後廻シトシ唯ダ逐條討  
議ニ入りタル上双方意見合致ノ条項ヨリ順次確定議ト為シ  
タル末最後ニ意見相違ノ点ニ付出来得ル限り互譲ノ精神ヲ  
以テ懇談ヲ遂ケ場合ニ依リテハ多少難キヲ忍ビテモ我方譲  
歩ノ交換的問題トシテ兩主任ノ聘傭ヲ承諾セシムルノ段取  
ニ出ヅル方可然ト思考シタルヲ以テ大体右ノ方針ニ依リ然  
ルヘク折衝方、岩佐ニ指示シ置キタリ、尤モ我方譲歩ノ可

七五三 三月五日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

運輸會計兩主任ノ問題ヲ後廻シトシ逐條討

九 対中国借款善後策ニ關スル件(一) 七五三

七八五

九 対中国借款善後策二閱スル件（二）七五四

七八六

否程度等ニ閑シ比較的重大ト認ムル事項ニ付テハ其都度一応請訓ノ上措置セシムベキハ勿論ナルモ駆引上即座ニ即決ヲ必要トル場合モ之アルへク其辺ハ一切岩佐ノ裁量ニ一任シタキニ付キ之亦予メ御安置有リタシ（三月五日）

七五四 三月五日 増上 土方興銀總裁ヨリ  
吉会鐵道借款契約交渉第二回及第三回會議事錄

土方興銀總裁ヨリ  
原政務局長宛

事錄ソノ他關係書類送付ノ件

附屬書一 第二回會議議事錄

二

第三回會議議事錄

秘第三〇号 大正八年三月五日

日本興業銀行

総裁 土方久徴

外務省

政務局長 増原正直殿

拝啓吉会鐵道借款會議々事錄其他左記關係書類御送附申上候間御查收被下度候 敬具

一、第二回議事錄写

追テ支那側対案ハ一両日中ニ御送附可申上候  
以上

註 右送付セラレタル書類ノ中二、三及五ノ書面ヲ省略ス

（附屬書一） 吉会鐵道借款契約締結會議々事錄（第二回）

大正八年二月十五日午後三時交通博物館ニ於テ第二回會議ヲ開催シ午後五時終了ス出席者ハ日本側岩佐委員、谷委員、松本、牛島、末広ニシテ支那側權量委員、陸夢熊、汪廷襄、康誥ナリ

一、線路ノ測量 権、満鉄ニテ線路ヲ測量セシハ何時頃ナリヤ

谷、大正二年ト大正七年トニ回踏査測量セリ

権、第一回踏査ト第二回踏査トノ結果ニ大ナル相違アリシヤ

起算スヘキ故既ニ二週間ヲ経過シタル訳ナリ

満鉄ヨリノ案内者ハ昨年ノ踏査者ヲ以テスルコトニ都合出来ルヤ

谷、踏査図等ノ参考書ハ目下電報ニテ取寄中ニ付着次第進上スヘシ

測量ハ二箇月ニテ十分ナリ予定日時以内ト雖モ終了次第可成早ク帰京スル様申付ケラレタシ満鉄ノ案内者ハ可成昨年ノ踏査者ニスヘクノロアリ

権、測量隊ハ可成早ク終了帰京セシムヘシ

二、契約締結ノ趣旨ニ就テ

権、前回ノ約束ニヨリ曹交通總長ニ聞合セタル処昨年予備契約ノ日本側當局者ハ北京ニテハ西原、東京ニテハ勝田氏ニシテ支那側當局者トノ間ニ日支親善ヲ表明スル模範的契約ヲ作ルヘシトノロ約アリ若シ右ノロ約ニ付闇及ヒ無ケレハ東京ニ問合セラレタシ  
岩、西原ハ當地ニテ周旋セシヤモ知レザレトモ蔭ノ周旋者ニシテ銀行トハ委任等ノ關係ナキコトハ前回申セシ如シ勝田氏ハ個人トシテナリヤ又ハ當時ノ大藏大臣トニアラズ

測量ノ予定期間ハ約三個月ナレトモ之ハ會議開始ヨリ

九 対中国借款善後策二閱スル件（二）七五四

二、同岩佐理事書面写

三、吉会鐵道借款契約案ニ対スル満鉄側意見書ニ閑シ岩佐理事宛書面（右附屬書類二通）

四、第三回議事錄写

五、岩佐理事書面写

權、勝田氏ハ大蔵大臣トシテナリト思フ、別ニ此口約ヲ  
証拠トシテ用フルニ非ザルモ當方ノ草案ハ右口約ノ趣  
旨ニヨリテ作リタルモノナル故貴方ニテ御問合セノ返  
事ヲ待チテ後當方草案ヲ提出スヘシ

岩、勝田氏カ大蔵大臣トシテノ約束ナレバ現大蔵大臣ニ  
引継キアルヘキ筈ナリ、自分ハ當地へ來ル前、度々大  
蔵大臣ト面会シ万事ノ打合セヲ為シタルモ右様ノコト  
ヲ聞カザリシヨリ見レハ勝田氏カ大蔵大臣トシテノ約  
束ニ非ザルヘク又日本ノ政界ニテハ退職前前任者ニ事  
務ノコトヲ引合ス様ノ例ナシ聞合セノコトハ當方ノ自  
由ニ一任セラレタシ、當方ハ予備契約ト其他前當局者  
ニ引継カレタル事項トニ基キ交渉スヘキノミ  
尚西原ノ事ニ付一言シタキハ自分ハ西原ナル人ヲ知ラ  
ズ又新聞等ニテ種々見聞セシモ實際如何ナル交渉ヲ為  
シ居リシヤハ銀行團ニ於テ承知シ居ラズ西原モ銀行團  
ノ代理トハ云ハザリシナルヘン當時ノ借款ニ付テモ東  
京ニテ相談ヲ受ケ始メテ取引ヲ為シタル次第ナリ、故  
意ニ知ラヌ振リスル様誤解ナキヲ望ム  
權、西原ノ事ハ直接御承知ナシトノ事ハ或ハ然ルヘシ、

權、只今何日ト申難キモ曹總長ト相談ノ上可成早ク次回  
ノ會議ヲ開クコトニ取計フヘシ  
(附屬書二)

吉会鐵道借款契約締結會議々事錄(第三回)

大正八年二月二十五日午後四時半交通部ニ於テ第三回會議  
ヲ開催シ同五時終了ス出席者ハ日本側岩佐委員、谷委員、  
松本、牛島、末広ニシテ支那側權量委員、陸夢熊、汪廷襄  
康誥ナリ

一、支那側草案ノ提出  
權、「支那側草案ヲ提出ス」

交通部ノ意見トシテハ貴方ニテ予備契約当事者間ノ口  
約ヲ聞キ取ラレタル上當方ノ草案提出ノ筈ナリシカ右  
口約ノ有無東京ニ問合セル事ハ貴方ニ於テ不贊成ニ付  
予備契約当事者ノ口約ノ趣旨ニヨリ當方ニ頗ル有利ニ  
作成シタル草案ヲ提出スル事ハ見合セタリ只今提出ノ  
草案ハ予備契約ノ趣旨及津浦鐵道借款契約ノ範囲内ニ  
於テ少シク双方ニ便利ナリト信スル点ヲ加へ作成シタ  
ルモノナリ

尚(一)空字ノ箇所ハ追テ定メ度キ点ニシテ

九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 七五五

兎モ角参考ノ為メ東京ニ問合セラレン事ヲ請求ス、右  
予備契約締結當時ノ趣旨ヲ承知セラレザレバ當方草案  
ヲ提出シ難シ

岩、右口約ノ有無ハ問合セノ必要ナシト信ズ東京ニ問合  
セタル上ニ非ザレハ貴方草案ヲ提出セラレザレバトテ  
聞合ス訊ニ行カズ只當方ハ日支兩國ノ親善ヲ計リ飽ク  
迄誠実ニ交渉スル積リナリ聞合セノ事ハ不贊成ナリ右  
口約ノ趣旨ニ基キ作成セラレタルモノトシテ貴方草案  
ヲ提出セラレテ宜シキニ非ズヤ

谷、貴方草案ハ右ノ口約ノ趣旨ニテ作成セラレタルモノ  
トシテ提出セラレテ差支ナキニ非ズヤ  
權、右口約ノ有無ニ付東京へ聞合セ方不承知ナリトハ意  
外ナリ當方草案ハ右口約ノ有無ヲ聞合セラレタル上提  
出ノ考へナリシ故只今ハ提出出来ズ何レ曹總長ト相談  
シ、次回ハ明後日開會ノ上草案提出アリ度ク明後日都  
ノ上返答スヘシ

岩、貴方草案ハ自分力來京後最初曹總長ト會見ノ當時ヨ  
リ直ニ提出アルカノ如キ話ナリシニ今ニ至ルモ提出ナ  
シ、次回ハ明後日開會ノ上草案提出アリ度ク明後日都  
合惡シクハ可成早ク開會シ草案提出アリ度シ

(二)取急キタル為メ清書ノ誤リ字句ノ誤リ等アルヤ  
モ計リ難キニ付發見次第當方ヨリモ訂正スヘク貴  
方ニテ發見セラレタルトキハ御通知アリタシ  
岩、貴方案ハ正ニ受取リタリ何レ翻訳ノ上説明ヲ乞ヒ又  
當方ノ意見モ申述フヘシ次回開會日時ハ當方ノ準備済  
次第貴方ヘ通知協定スペシ  
以上

七五五 三月六日 斎藤興銀秘書役ヨリ

吉会鐵道借款契約本邦案ニ對スル中國對案  
文送付ノ件  
附屬書 中國側提出ノ吉会鐵道借款契約案和訳文  
秘第三三号

大正八年三月六日

日本興業銀行  
秘書役 斎藤 力

政務局長 増原正直殿  
大正八年三月六日

拝啓吉会鐵道借款契約支那側對案訳文写一部御送附申上候  
敬具

(附屬書)

## 九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五五

七九〇

吉会鐵道借款契約草案(交通部提出ノ対案)和訳文  
(民国八年二月二十五日第三次會議提出)

### 吉会鐵道借款契約草案

#### 契約締結両当事者名義

中華民国政府(以下政府ト称ス)ハ中華民国七年六月十八日即チ日本大正七年六月十八日締結セラレタル吉会鐵道借款予備契約ニ基キ日本國株式会社日本興業銀行株式会社台灣銀行及朝鮮銀行ノ三行(以下銀行ト称ス)ノ代表者タル株式会社日本興業銀行ト契約ヲ訂結スルコト左ノ如シ

#### 第一条 借款ノ総額及名称

一、政府ハ吉林省吉林ヨリ延吉南界ヲ経テ図們江ヲ過ギ会寧ニ至リ日本國鐵道ト聯絡スル鐵道ヲ建設スルニ必

要ナル資金ニ充ツル為メ銀行ニ於テ五分利付政府金貨

公債 円ノ発行ヲ取扱フコトヲ承諾ス

二、本公債ハ中華民国政府五分利付吉会鐵道公債ト称シ

発行ノ日ヲ以テ其ノ日附トス

#### 第二条 借款ノ用途

一、本公債募集金ハ専ラ本鐵道線路ノ建設費(土地、車輛其ノ他一切ノ設備費ヲ含ム)開通費及吉会鐵道借款

發行ノ日ヲ以テ其ノ日附トス

#### 第四条 運輸ノ聯絡及鐵橋架設

本鐵道ノ利益ヲ増進シ併セテ朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ十分ナラシメンカ為メ政府及銀行ハ左記ノ事項ヲ約定ス

一、本鐵道ト朝鮮鐵道トノ相互ノ運輸ノ發達ト円満ナル当ノ利子ヲ附スヘキモノトス

#### 第五条 借款ノ期限及元金償還

一、本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置キ十一年目ヨリ四十年目ニ至ル向フ三十箇年間ニ第六条ノ場合

架設シ政府ト朝鮮總督府トハ各該鐵橋架設費ノ半額ヲ負担スルコト

#### 第七条 元利金ノ交付手続

一、政府ハ銀行カ本公債事務ノ取扱者タルコトヲ承諾シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前

ニ第三条及第五条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

ヲ除キ本鐵道收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ償還シ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ補足スヘシ但右ハ隨時政府ニ返済シ並之ニ対シテハ相當ノ利子ヲ附スヘキモノトス

二、第十三条ニ依リ數回二分チ發行スル場合ニ於テハ第二回以後ノ据置期間及償還期間ハ第一回發行ノ日ヨリ起算スルモノトス

#### 第六条 期日前ニ於ケル元金償還

一、本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ経過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セザル元金ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

予備契約ニ依ル前貸金元利ノ償還並建設中ニ於ケル本行ハ此期間ニ於テ所要ノ金額ヲ募集シ支出ニ備フルモノトシ実際起工ノ日ヨリ五年以内ニ全部之ヲ完成スヘシ

#### 公債利子支払ノ用ニ充ツヘキモノトス

二、本鐵道ノ建設ハ本契約調印後六箇月以内ニ起工シ銀

ノトシ実際起工ノ日ヨリ五年以内ニ全部之ヲ完成スヘシ

#### 第三条 借款ノ利率及利子支払

一、本公債ノ利率ハ額面金額ニ対シ一箇年百分ノ五トシ利子ハ半ヶ年毎ニ一回之ヲ支払ヒ公債發行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

二、政府ハ右利子ヲ鐵道建設中ハ本公債募集金ヨリ鐵道完成後ハ本鐵道収入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ従ヒ支払フモノトシ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ補足スヘシ但右ハ隨時政府ニ返済シ並之ニ対シテハ相

当ノ利子ヲ附スヘキモノトス

#### 第四条 運輸ノ聯絡及鐵橋架設

本鐵道ノ利益ヲ増進シ併セテ朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ十分ナラシメンカ為メ政府及銀行ハ左記ノ事項ヲ約定ス

一、本鐵道ト朝鮮鐵道トノ相互ノ運輸ノ發達ト円満ナル

#### 第五条 借款ノ期限及元金償還

一、前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ公文ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スルモノトシ臨時償還ハ本公

債目論見書ニ定メタル普通償還抽籤回数ヲ追加シ之ヲ行フモノトス

#### 第六条 期日前ニ於ケル元金償還

一、本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置キ十一年

目ヨリ四十年目ニ至ル向フ三十箇年間ニ第六条ノ場合

架設シ政府ト朝鮮總督府トハ各該鐵橋架設費ノ半額ヲ負担スルコト

#### 第七条 元利金ノ交付手續

一、政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦タルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前

ニ第三条及第五条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

ヲ除キ本鐵道收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ償還シ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ補足スヘシ但右ハ隨時政府ニ返済シ並之ニ対シテハ相

當ノ利子ヲ附スヘキモノトス

二、第十三条ニ依リ數回二分チ發行スル場合ニ於テハ第二回以後ノ据置期間及償還期間ハ第一回發行ノ日ヨリ起算スルモノトス

#### 第八条 期日前ニ於ケル元金償還

一、本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ経過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セザル元金ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

#### 第九条 对中国借款善後策二関スル件(二) 七五五

七九一

毎回千分ノ 即千円ニ付 ノ取扱手数料ヲ  
受クルモノトス

#### 第八条 担保品

一、本公債ノ全部及之ニ關聯シテ交付セラレタル前貸金ハ其ノ元利ニ付現在及将来ニ於テ本鐵道ニ属スル一切ノ動産及不動産並本鐵道ノ収入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

二、第十五條ノ規定ニ基キ公債ヲ發行スル時モ亦前項ノ動産不動産及本鐵道収入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル

三、政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ前二項ニ定ムル財産又ハ収入ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

#### 第九条 鉄道警察

一、本鐵道全線ノ保護ノ為メ設クヘキ巡警隊ハ督弁ニ直属シ警官及警兵ハ總テ中華民国人ヲ以テ之ニ充テ其ノ給与及経費ハ本鐵道収入ノ中ヨリ支給スヘシ

二、鐵道保護ノ為メ政府ノ軍隊ヲ要スルトキハ其給与等ハ政府ヨリ支弁スヘシ

#### 第十条 債券ノ印刷及毀損紛失

一、政府ハ本公債ノ全額ニ對シ銀行カ適宜定ムル額面金額相当ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ承諾シ其様式ハ銀行ニ於テ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ト之ヲ協定スルモノトス本公債証書ハ中日両国文字ヲ以テ印刷シ交通總長ノ署名及交通部印ヲ印写シ且中華民國駐日公使ノ署名及官印ヲ印写シ以テ本公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコトヲ證明シ本公債發行ヲ取扱フ銀行代表者ノ署名及職印モ亦之ニ印写サルモノトス

二、本公債証書ハ其ノ流通ニ便ナラシムル為メ証書ニ中日両国以外ノ外國文字ヲ以テ額面金額其他ノ要項ヲ記載スルコトヲ得

三、銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部或ハ一部ヲ中日両国以外ノ外國ニ於テモ發行スルコトヲ得

四、本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ニ通知シ同証書ノ支払停止ヲ新聞紙上ニ広告シ並関係国ノ法律慣習ニ従ヒ便宜又ハ必要ト認ムル措置ヲ執ルヘシ右公債証書ニシテ銀行ノ定メタル期間ヲ経過シ尚ホ

発見セラレサルトキハ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ハ同額ノ副証書ヲ作成シ銀行ニ交付スヘシ右ニ関スル一切ノ費用ハ總テ銀行ニ於テ之ヲ負担ス

#### 第十一条 税金免除

政府ハ本公債証書及利札並本公債元利金ノ受払ニ關シ本借款期間内一切ノ公課ヲ免除スルコトヲ承諾ス

#### 第十二条 公債募集目論見書及手続細則

本公債募集目論見書及元利金支払其ノ他ニ關スル詳細ノ事項ニシテ本契約ニ明文ノ規定ナキモノハ銀行ニ於テ日本割中華民國公使ト協定スヘシ

#### 第十三条 公債ノ發行回数及政府手取額

一、銀行ハ工事ノ計画並其進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得但政府ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二、本公債ノ發行價格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ狀況ニ依リ政府ト銀行トニ於テ協議決定スルモノトス但出来得ル限り政府ニ有利ナラシムヘシ

三、銀行ハ日本或ハ中華民國ニ於テ其募集ヲナス場合ニ在リテハ中華民国人タルト日本人タルトヲ問ハス同様

トス

四、督弁ニ於テ銀行ノ預金ヲ引出サントスルトキハ銀行ニ對シ支払命令ヲ出シ並其金額ノ費途証明書ヲ送附スヘキモノトス

五、建設費ハ毎月督弁ヨリ通知スル見積額ニ依リ銀行ニ於テ順次天津或ハ上海ニ送金シ本鐵道ノ用途ニ供セラルル迄預金ト為シ置キ其引出ヲ待ツモノトス

六、鐵道ノ諸勘定ハ日華兩文ニテ協定済新式方法ニ依リ記載シ且一切ノ証憑書類ヲ添付スヘシ

七、鐵道局ハ其ノ營業開始後毎会計年度ノ終了ニ際シ日華兩文ヲ以テ記載セル本鐵道ニ閑スル決算書ヲ公表スヘシ

第十五条 借款金額不足ノ場合ニ於ケル資金調達

本公債募集金並其利子ニシテ本鐵道建設中ニ支払フヘキ本公債ノ利子ヲ控除シタル後本鐵道ノ建設及設備ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ右不足額ヲ支出ス或ハ銀行ニ於テ更ニ發行スル公債募集金ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其ノ他ノ条件ハ本契約ニ準拠スヘシ

第十六条 建設管理権及督弁以下人員ノ規定

測量設計製図及見積等ヲナシ並一切ノ工事ヲ指揮監督ス

八、技術部所要ノ日華人員ハ技師長ヨリ人員表ヲ作成シ督弁ニ呈出シ督弁ニ依リテ任命ヲ行フ右人員各自ノ分担事務ハ技師長之ヲ定メ督弁ニ通告スルモノトス

本鐵道ノ各區域ハ其完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ督弁ニ通告シ督弁ハ事情ノ許ス限り速ニ當該區域ノ運輸ヲ開始スルモノトス

九、本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタル場合借款期間内ニアリテハ督弁ハ更ニ日本人一名ヲ選定シ銀行為ノ承諾ヲ得タル上保線技師ニ任命シ技師長ノ職ヲ解掌ル其契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

クヘシ保線技師ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ保線事務ヲ掌リ

十、工務或ハ其他ノ事務ニ從事スル一般中華民国人ニ對シテハ督弁ニ於テ任用ノ全權ヲ有シ更ニ之ヲ技師長ニ配屬セシムヘシ中華民国人タルト外国人タルトヲ問ハス督弁ニ申請シ承諾ヲ得ルニアラザレバ任用スルコトヲ得ズ

十一、鐵道從事員ニシテ過失アリタルトキハ技術部員ニ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五五

一、本鐵道ノ建設及管理ハ政府ニ於テ之ヲ行フ

二、政府ハ本鐵道ノ督弁及總弁各一名ヲ任命ス督弁ハ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ依リ本鐵道ニ閑スル事務ヲ行フノ全權ヲ有ス總弁ハ督弁ヲ補佐シ督弁事故アルトキハ之ヲ代理ス

三、銀行ハ本公債期間中監查人一名ヲ任命ス其俸給ハ銀行ノ負担トス

四、本監査人ハ本鐵道ノ諸勘定及証憑書ヲ検査スルコトヲ得

五、監査人ハ銀行ニ對シテ本公債ノ募集金額カ本契約第二条ニ依ル正当ノ支出ナルコトヲ証明シ且本契約第十八条ノ規定ニ基ク鐵道局外國材料購入ニ閑スル毎月明細書ヲ證明スルモノトス

六、監査人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ有効ニ遂行スルニ足ルヘキ時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキ期日ヲ鐵道局ト約定スヘシ

七、技師長ハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督弁ニ於テ撰定シ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任用ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ本鐵道線路ノ

対シテノミ督弁ヨリ技師長ニ解免スヘキ旨ヲ通知シ並ニ其ノ理由ヲ言明シ技師長ハ即時之ヲ処分スヘキモノトス其他ニ在リテハ日華人ヲ問ハス督弁ニ於テ其ノ解免ヲ行フモノトス

第十七条 収入金ノ処置

本鐵道ノ收入ハ先ツ本鐵道ノ營業費及保存費ニ充テ次ニ本公債ノ元利金又ハ政府出資ノ元利金ヲ支払ヒ並本契約附表所載ノ金額ニ従ヒ各期日六ヶ月以前ニ銀行ニ預託シ銀行ハ市場ノ狀況ニ依リ政府ニ有利ナル利子ヲ附シ更ニ剩餘アルトキハ政府ハ之ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第十八条 材料購買規定

一、本鐵道ニ於テ材料機械其ノ他ノ物品ヲ購買セントスルトキハ督弁又ハ總弁ニ於テ之ヲ入札ニ附スヘシ

二、銀行ハ本鐵道建設中政府ノ指定ニ依リ外國ヨリ輸入スヘキ一切ノ材料機械其ノ他ノ物件ヲ購買スヘキ取扱人ヲ撰定スルモノトス

三、取扱者ハ本鐵道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入札定又ハ注文ノ取扱ヲ為シ購買実価及其百分ノノ取扱手數料ヲ受ク但購買注文及費用支出ニ付

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五五

九 対中国借款善後策ニ闕スル件（二）七五五

テハ督弁ニ申請シ許可ヲ受クヘキモノトス

四、取扱者ハ鐵道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ヲ購買スルトキハ一般市場ニ就キ価格最低ニシテ品

質最良ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民國ニ到達後注文明細書ニ符合セザルトキハ本鐵道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

五、外國材料機械其ノ他ノ物件ヲ購買スルニ当リ其ノ品質価格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ

六、送状及監査人証明書ハ之ヲ督弁或ハ総弁ニ提出シ各種ノ割戻及割引ハ鐵道局ノ収入ニ帰ス取扱者カ鐵道ノ為メニスル購買ニ付テハ総テ製造者ノ送状及監査人証明書ヲ以テ証憑ト為ス

七、取扱者ニ対シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給セズ

八、中華民國産材料及其ノ製品ニシテ其品質価格力日本品又ハ他ノ外國品ト同一ナルトキハ中華民國産業獎勵ノ為メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ手数料ヲ支給セズ

九、鐵道局ニ於テ外國材料機械等ノ物品ヲ購買スル場合

ニ対シ別ニ何等ノ報酬ヲ与ヘサルモノトス

第二十二条 権利義務ノ移転

銀行ハ本契約ニ依リ有スル権利ノ全部又ハ一部ヲ其負担スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ譲渡シ又ハ委任スルコトヲ得但

右譲渡又ハ委任ハ予メ本鐵道督弁ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第二十三条 契約用文

本契約書ハ日華両文ヲ以テ各四通ヲ作成シ政府ニ三通ヲ保存シ銀行ニ一通ヲ保存シ双方一致セシメ置クモノトス

財政総長（印）

日本興業銀行總裁（印）

外務省政務局  
栗野書記官殿  
特第九号

吉会鐵道借款契約ノ交渉ハ公使ト打合セノ上次回ヨリ直ニ

逐条協議ニ入り双方意見一致ノ条項ハ確定議トナシ最後ニ意見相違ノ廉ヲ協議スル事ニ為シタリ

大体ニ於テ銀行案維持ニ尽力スヘキハ勿論ナレトモ譲歩スルモ差支ナント認ムル文字修正其他些細ノ所ハ公使ト打合セタル上支那側意見ニ同意スル見込、支那案ニ同意スル肝要ノ所左ノ通り

吉会鐵道借款契約案交渉ニ闕シ打合ノ件  
大正八年三月八日

日本興業銀行  
副総裁 小野英一郎（印）

栗野書記官殿  
小野興銀副総裁ヨリ

九 対中国借款善後策ニ闕スル件（二）七五六

七九六

臨時別人ヲシテ取扱ハシムルヲ便宜ナリト認ムルトキハ実行ノ權アルモノトス

第十九条 支線ノ建設

政府ニ於テ今後本鐵道ニ有利又ハ必要ナル支線ヲ建設セントル場合ニハ政府ハ中華民國ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リ建設セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

第二十条 金員授受地點

本公司債募集金ノ交付本公司債元利金ノ支払其ノ他總テ金額ノ受授ハ便宜上天津上海或ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スモノトス

第二十一条 事変ノ場合ニ於ケル処置

本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市場及中華民國政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事変發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公司債發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ト政府ト協定シ本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ右期間ヲ経過シ仍ホ其ノ發行不可能ナルトキハ本契約ハ之ヲ無効トス此ノ場合ニ於テ政府ハ予備契約ニ依ル前貸金ニ利子ヲ附シテ返済スル外銀行

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五七

七九八

銀行案第八条ノ削除ニ同意ス

支那案第十三条第三項「日本或ハ中華民国ニ於テ」ヲ削リ

其他挿入ニ同意ス

銀行案第十四条第二項利子年四分トスルコトニ同意ス

詳細郵便ニテ通知

七五七 三月十三日

土方興銀總裁ヨリ

埴原政務局長宛

吉会鐵道借款契約二関スル討議振リニ付在北

京岩佐理事ヨリノ書信及電報写送付ノ件

附属書一 三月七日付在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總

裁宛書信第七号

二 中国対案ノ本邦修正案

三 三月十二日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總

裁宛電報特第十号

(三月十四日接受)

秘第三八号

大正八年三月十三日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

政務局長 塩原正直殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通リ受信仕候間写御送

二 於テ日本第二案ト称セラルルコトナレリ(第五回會議  
議事録ノ「三、支那案ニ對スル日本案」ノ項参照)

(附属書二)

吉会鐵道借款契約中国対案ノ本邦修正案

大正七年六月十八日即チ中華民国七年六月十八日締結セラ

レタル吉会鐵道借款予備契約ニ基キ中華民国政府(以下政

府ト称ス)ト日本國株式會社日本興業銀行株式會社台灣銀

行及朝鮮銀行ノ三行(以下銀行ト称ス)ノ代表者タル株式

會社日本興業銀行トノ間ニ契約スルコト左ノ如シ

第一条 政府ハ吉林省吉林ヨリ延吉南界ヲ經テ図們江ニ至

リ会寧ニ於テ日本國鐵道ト聯絡スル鐵道ヲ建設スルニ

必要ナル経費ニ充ツル為メ銀行ニ五分利付政府金貸公

債五千万円ヲ發行スルコトヲ承諾ス

本公司債ハ中華民国政府五分利付吉会鐵道公債ト称シ發

行ノ日ヲ以テ其日附トス

第二条 本公司債募集金ハ專ラ本鐵道線路ノ建設費(土地、  
車輛其他一切ノ設備材料ノ購買費ヲ含ム)開通費及建  
設中ニ於テ支払フヘキ本公司債利子ニ充ツ

本鐵道ノ建設ハ本契約調印後六箇月以内ニ着手シ速成

九 対中國借款善後策二關スル件(二) 七五七

附申上候 敬具

(附属書一)

三月七日附在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛書信

第七号

拝啓第四回會議錄ニテ御承知被下候如ク會計、運輸両主任  
ノ問題ハ此回ノ交渉中最モ困難ナル問題ニシテ先方態度仲  
々強硬ニ有之候然ルニ支那昨今周囲ノ状勢ヲ顧ルニ此際徒  
ラニ此問題ノ為ニノミ時日ヲ遷延スルハ策ノ得タルモノニ

アラズト被存候就テハ小幡公使ト打合ノ上次回ヨリハ直チ  
ニ逐条協議ニ入り双方意見合致ノ条項ハ先ツ確定議ト為シ  
最後ニ意見相異ノ点ハ可成互譲ノ精神ニテ協議ヲ遂ケ両主  
任ノ聘用ヲ承諾セシメント存居候今後尚多クノ曲折ヲ経ベ  
キハ勿論ニ有之候へ共次回ニハ兎モ角別紙ノ如ク支那對案

ヲ修正シタルモノヲ當方第一次ノ意見トシテ逐条審議ニ入  
ル見込ニ有之候右當方意見ハ凡テ公使ト打合済ニ有之候  
ヲ圖リ實際着手ノ時ヨリ五箇年間ニ完成スヘシ

第三条 本公司債ノ利率ハ額面金額ニ對シ一箇年百分ノ五ト  
シ半年毎ニ公債所持人ニ之ヲ支払フモノトシ公債發行  
ノ日ヨリ之ヲ起算ス

政府ハ右利子ヲ本鐵道建設中ハ公債募集金又ハ其他ノ  
財源ヨリ完成後ハ先ツ本鐵道收入ヨリ次ニ政府ノ適當  
ト認ムル他ノ収入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ従ヒ支  
払フモノトス

第四条 本鐵道ノ利益ヲ增進シ併セテ朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ  
ス

一、本鐵道ト朝鮮鐵道トノ相互ノ運輸ノ發達ト円満ナ  
ル聯絡ヲ期スルノ趣旨ヲ以テ政府ハ日本國當該官憲  
ト聯絡運輸方法ニ付協定スルコト  
二、政府ハ日本國朝鮮總督ト共同シテ図們江ノ鐵橋  
ヲ架設シ政府ハ其経費ノ半額ヲ負担スルコト

第五条 本公司債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置其翌年  
ヨリ向フ三十箇年内ニ本鐵道ノ收入又ハ政府ノ適當ト  
認ムル其他ノ收入ヲ以テ第六条ノ場合ヲ除キ本契約附

七九九

表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ償還スルモノトス

第十三条ニ依リ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ第二回以後ノ据置期間及償還期間ハ第一回發行ノ日ヨリ起算スルモノトス

第六条 本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ經過シタル後ハ何時

タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル本公債未償還額ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

此場合ニ於テハ第二十年自迄ハ額面百分ノ二半ノ割増即チ金壱百円ニ付金壱百零貳円五拾錢ヲ支払ヒ第二十一年目以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得

前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ書面ヲ以テ之ヲ銀行ニ通知スヘシ

臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ当日追加抽籤ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第七条 政府ハ銀行カ本公債事務ノ取扱者ニ指定シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前ニ第三条及第五条ニ規定セル元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ノ場合ニ於テモ亦期日十四日前ニ必要ノ元利金及割増金ヲ銀行ニ交付スヘ

二於テ交通総長又ハ日本駐劄中華民国公使ト之ヲ協定スルモノトス、公債証書ハ日華両國語ヲ以テ印刷シ交

通総長ノ署名及交通部印ヲ印写ス、又日本駐劄中華民國公使ハ公債証書發行ニ先タチ各証書ニ署名及官印ヲ印写セシメ以テ公債ノ發行カ政府ノ許可ニ依ルコト及

政府ヲ拘束スルコトヲ証明シ銀行モ亦本公債發行取扱者トシテ其代表者ノ署名及職印ヲ印写スヘシ

本公債証書ハ其ノ流通ニ便ナラシムル為メ証書ニ日華以外ノ外國語ヲ以テ額面金額其他要項ヲ記載スルコトヲ得

銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部又ハ一部ヲ日華以外ノ外國ニ於テモ發行スルコトヲ得

本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直ニ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ニ通知シ且同証書ノ支払停止ヲ新聞紙上ニ広告シ並ニ關係

國ノ法律慣習ニ従ヒ便宜又ハ必要ト認ムル措置ヲ執ルヘシ右公債証書ニシテ銀行ノ定メタル期間ニ發見セラレサルトキハ交通總長又ハ日本駐劄中華民国公使ハ同額ノ副証書ヲ作成シ銀行ニ交付スヘシ右ニ闇スル一切

九 対中国借款善後策ニ闇スル件(二) 七五七

銀行ハ本公債元利金ノ支払ノ費用ニ充ツルカ為ノ其取扱金額ニ對シ毎回千分ノ二半ノ手数料ヲ受クルモノトス

第八条 政府ハ本公債ノ元利金支払ヲ無条件ニ保証シ本鉄道收入又ハ本公債募集金ニシテ本公債元利金支払ニ不足ヲ告クルトキハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足スルモノトス

第九条 本公債全部及之ニ關聯シテ交付セラレタル前貸金ハ其元利ニ付テ現在及将来ニ於テ本鉄道ニ屬スル一切ノ動産及不動産並本鉄道一切ノ收入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

第十一条 規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前項ノ動産不動産及收入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル

政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラナレハ前二項ニ定ムル財產又ハ收入ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

第十二条 銀行ハ本公債全額ニ對シ銀行ニ於テ適宜定ムル額面金額ノ公債証書ヲ發行スルコトヲ得、其様式ハ銀行

第十三条 銀行ハ工事ノ計画並其進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得

政府ハ發行手數料トシテ發行価格ヨリ額面ノ百分ノ五半ヲ控除シタルモノトス本公債ノ發行価格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ狀況ニ依リ別ニ協定スルモノトス

第十四条 政府ハ本公債募集金ヲ以テ第一ニ吉会鐵道借款予備契約ニ依ル前貸金ノ支払ニ充当スヘク其殘余ハ政府勘定トシテ銀行ニ預入ルモノトス

銀行ハ前項予算中日本ニ於ケル残高ニ對シテハ本公債払込期日ヨリ起算シ年三分ノ利子ヲ附シ中華民国ニ送金セラレタルモノノ残高ニ對シテハ銀行ノ普通ノ率ニ

從ヒ利子ヲ附ス

右預金及利子ハ其中ヨリ鉄道建設中ニ於ケル本公債利子支払及其取扱手数料ニ要スル金額ヲ控除シタル後銀行ハ之ヲ保管シテ督弁ノ指図ヲ待ツモノトス督弁ニ於テ一時ニ金貳拾万円以上ヲ引出サントスルトキハ其引出期日十日前ニ之ヲ銀行ニ通知スルモノトス

保管金ノ引出ハ鐵道建設ノ進行ニ伴ヒ支払ヲ要スル工事ノ性質及費額記載ノ証明書ヲ添付セル督弁及会計主任連署ノ銀行宛支払命令ニ依リ之ヲ為スモノトス  
建設費毎月見積高ニ對スル資金ハ政府ノ請求次第中華民国ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行ニ取扱ヒ本鉄道ノ用途ニ供セラル迄在中華民国銀行ニ於ケル預金ト為シ置クモノトス

鐵道ノ計算書ハ日華両文ニテ協定済新式方法ニ依リ記載シ且一切ノ必要ナル証憑書ヲ添付スヘシ

鐵道局ハ其ノ營業開始後毎会計年度ノ終了ニ際シ日華両文ヲ以テ記載セル本鉄道ニ關スル決算書ヲ公表スヘシ

第十五条 本公債募集金並其利子ニシテ建設中ニ要スル本公債利子ヲ控除シタル後本鉄道ノ建設及設備ヲ完成ス

ルニ不足ナルトキハ政府ハ他ノ財源ヨリ右不足額ヲ支出ス若シ尚不足ナルトキハ銀行ニ於テ發行スル公債募集金ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ其都度銀行ト協議スルモノトス

#### 第十六条 本鉄道ノ建設及管理ハ政府ニ於テ之ヲ行フ

政府ハ本鉄道督弁及總弁各一名ヲ任命ス督弁ハ常ニ本鉄道線路所在地ニ居住シ政府ヲ代表シ本契約ノ規定ニ依リ本鉄道ニ關スル事務ヲ行フ全權ヲ有ス總弁ハ督弁ヲ補佐シ督弁事故アルトキハ之ヲ代理ス督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ會計主任ニ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

會計主任ハ會計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ會計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

會計主任ハ本公債期間内督弁又ハ總弁ノ命ヲ受ケ本鉄道ニ關スル一切ノ收支ヲ管理シ且本鉄道ニ關スル支出ニ付一切ノ書類ニ督弁又ハ總弁ト連署ス

銀行ハ本公債期間中監査人一名ヲ任命ス其俸給ハ銀行ノ負担トス

監査人ハ本鉄道ノ計算書及証憑書ヲ検査スルモノトス

監査人ハ銀行ニ對シ本契約第二条ニ依ル公債募集金ノ支出ノ正当ナルコトヲ證明シ且本契約第十八条ノ規定ニ基ク鉄道局外國材料購入ニ關スル毎月明細書ヲ證明スルモノトス

監査人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ有効ニ遂行スルニ足

ルヘキ時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキコトヲ鐵道局ト協定スベシ

技術長ニハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督弁ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

技術長ハ督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケ本鉄道線路ノ測量設計及見積ヲナシ且一切ノ工事ヲ指揮監督シ並ニ鉄道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ヲ注文ス

技術長ハ技術部所要ノ内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ技術長ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

技術長ハ督弁又ハ總弁ニ於テ銀行ノ承諾ヲ得テ之ヲ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム  
第十七条 本鉄道收入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鉄道局勘定ニ拵ミ場合ニ応シ定期預金又ハ当座勘定トシ其利率ハ隨時銀行ト協定スルモノトス

本鉄道ノ收入ハ先ツ本鉄道營業費及保存費ニ充テ其残額中ヨリ本公債利子支払並本契約附表ニ依ル元金償還ニ對スル必要額ヲ各期日六箇月前ニ銀行ニ預託シ尚剩余アルトキハ政府ハ本鉄道督弁ノ決スル方法ニ從ヒ

ルヘシ

ヲ使用スルコトヲ得ヘシ

第十八条 銀行ハ本鉄道建設中外國ヨリ輸入スヘキ一切ノ

材料機械其他ノ物件ノ購買ヲ掌ル取扱者ヲ指定スルモノトス

右購買中其重要ナルモノニ付テハ本鉄道督弁ニ於テ之ヲ入札ニ附ス

取扱者ハ本鉄道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入札約定又ハ注文ノ取扱ヲ為シ購買代金及其百分ノ五ノ取扱手数料ヲ受ク但注文及費用ノ支出ニ付テハ技師長ヨリ督弁ニ申請シ認可ヲ受ケタル後ニアラサレハ之ヲ行フヲ得ス

取扱者ハ鉄道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ノ購買ヲ監督シ一般市場ニ就キ価格最低ニシテ品質良好ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民国ニ到達後注文明細書ニ符合セサルトキハ本鉄道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

外國材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ当リ其ノ品質価格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ送状及監査人証明書ハ之ヲ督弁ニ提出シ各種ノ割戻及

割引ハ鐵道局ニ帰ス取扱者カ鉄道ノ為ニスル購買ニ付テハ総テ製造者ノ送状及監査人証明書ヲ以テ証憑ト為ス

取扱者ニ対シテハ前記取扱手数料ノ外別ニ手数料ヲ支給セス但シ購買ニ関シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局ハ本鉄道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ若シ中華民國產材料及中華民國製品ニシテ其品質價格力日本品又ハ他ノ外國品ト同一ナルトキハ中華民國產業獎勵ノ為メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ手数料ヲ支給セス取扱者ハ本鉄道建設完成後ニ於テモ本鉄道期間中ハ鐵道局所要外國品ノ供給ニ関スル取扱事務ニ対シテ優先権ヲ有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スルモノトス

第十九条 政府ニ於テ今後有利又ハ必要ト認ムル本契約所載鐵道線路ノ支線ヲ建設セントスル場合ニハ政府ハ中華民國ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リテ之ヲ建設セントスルトキハ銀行ニ優先権ヲ与フルモノトス

第二十条 銀行ハ公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從

テ本公債ニ關スル事項ニ付キ本鉄道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タルヘシ

(第二十一条削除)

第二十二条 本公債募集金ノ交付本公債元利金ノ支払其他総テ金額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スモノトス

第一十三条 本契約調印後公債募集目論見書發行前若シ市場及中華民國政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事変發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテ

メ置クモノトス

若シ本契約書ハ日華両文ヲ以テ各四通ヲ作成シ其内各參通ヲ政府ニ各壹通ヲ銀行ニ保存ス双方一致セシ

ヲ経タリ

第二十六条 本契約書ハ日華両文ヲ以テ各四通ヲ作成シ其内各參通ヲ政府ニ各壹通ヲ銀行ニ保存ス双方一致セシ

文ヲ以テ之ヲ決スルモノトス

日本帝国大正七年 月 日

中華民国七年 月 日

財政総長 印  
交通総長 印  
日本興業銀行總裁 印

(附屬書三)  
三月十二日在北京岩佐理事ヨリ土方總裁宛電報  
特第十号

(三月十三日接受)  
貴電特第七号落手吉会鐵道借款契約商議修正案ニ対シテハ予テノ打合セノ通り小幡公使ト協議ノ上既ニ當方ノ意見ヲ

承諾ヲ受クルコトヲ要ス  
部ヲ其負担スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ譲渡シ又ハ委任スルコトヲ得但右譲渡又ハ委任ハ予メ本鉄道督弁ノ

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七五七

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七五八

先方ニ呈示シ相互ニ逐条審議ヲ進メソツアリ

七五八 三月十三日 塙原正直殿  
土方興銀總裁ヨリ在北京岩佐理事宛

吉会鐵道借款契約ニ關スル中國対案ニ対スル

我方主張ニ付岩佐理事ニ電訓シタル件

附屬書 三月十三日土方興銀總裁ヨリ在北京岩佐理事宛  
電報

中國対案ニ対スル我方主張訓令ノ件

大正八年三月十三日 株式会社日本興業銀行

(三月十四日接受)

大正八年三月十三日 土方久徵

総裁

土方久徵

政務局長

埴原正直殿

拝啓在北京岩佐理事ニ対シ本日別紙ノ通り架電致候間写御送附申上候 敬具

(附屬書)

三月十三日土方興銀總裁ヨリ在北京岩佐理事宛電報特第八号  
中國ニ対スル我方主張ニ付電訓ノ件

特第八号

吉会鐵道借款支那側対案ニ対スル當方意見左ノ通り決定セリ委細其ノ御含ミニテ交渉相成度尚事緊急ヲ要スル場

六、日本案第十三条第二項発行手数料ハ原案維持ノ事

七、同条第三項支那案「日本或ハ中華民国ニ於テ」ヲ削除ノ上挿入ニ同意差支ナシ

八、日本案第十四条第二項利率ハ交換条件トシテナラバ議歩差支ナシ

九、日本案第十六条第三項第四項第五項第十三項及第十五項会計主任工事請負人及運輸主任ニ關スル件ハ原案維持ノ事

一〇、日本案第十八条第三項材料購入取扱手数料ハ原案主張ノ事

一一、日本案第二十条ハ原案維持ノ事

一二、日本案第二十一条公債募集中金交付、元利金支払場所ニ関スル件支那案ニ同意差支ナシ但シ末尾ニ「但天津或ハ上海ニ於テ受渡ヲナス場合ニハ為替相場ハ政府ト約定スペキモノトス」ヲ加フルコト

一三、日本案第二十四条原案主張ノ事但支那側ニ於テ強ヒテ主張スルニ於テハ特ニ小幡公使ノ意見ニ依リ決定ノコト

一四、日本案第二十五条契約文ノ解釈ニ關シテハ原案維持ノ事

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五九

八〇六

合ハ小幡公使ト打合決行セラレ差支ナキモ重要ナル修正ハ一応請訓ノ上先方へ回答アリタシ

条件トシテ逐条協議ノ際迄之ヲ留保シ当初ヨリ当方意見ヲ示サザル事

(一般方針)

二、会計主任、運輸主任ニ關スル件ハ日本案主張ノ事但万已ムヲ得ザル場合ニハ往復文書ヲ以テ之ヲ取極ムルモ可ナリ

三、逐条方針

一、日本案第六条「此場合ニ於テハ」以下削除差支ナシ

二、日本案第七条第三項手数料ノ件原案維持ノ事

三、同条ニ支那案ニ項追加ニ対シテハ「其相場」ト改メ承諾差支ナシ

四、日本案第八条ハ公債ヲ発行スル以上元利仕込ニ対スル政府ノ保証及資金不足ノ場合ニハ他財源ニヨリ之ヲ補足スルハ当然ノ事也トノ意味ニ於テ削除シタルモノナルコトヲ特ニ議事録ニ記載シ同意差支ナシ

五、支那案第九条鐵道警察ニ關スル件挿入承諾差支ナシ

ノ事

尚以上ノ中日本案第十四条第二項預金利子歩合ノ件ハ既ニ三月七日第五回会議ニ於テ支那案ノ対案トシテ先方ノ主張ニ同意セラレタルモノノ如キモ逐条協議ノ際余地アラハ原案ヲ主張相成度

七五九 三月十四日 塙原正直殿  
土方興銀總裁ヨリ  
右第五回会議議事録送付ノ件

吉会鐵道借款契約交渉第五回会議議事録提示

附件

第八信写

秘第四〇号  
右第五回会議議事録送付ノ件

大正八年三月十四日

日本興業銀行

秘書役 斎藤 力

政務局長 塙原正直殿

拝啓陳者岩佐理事第八信写及第五回議事録写御送付申上候間御査収被下度候 敬具

(附屬書)

## 第八信

大正八年三月八日

在北京 理事 岩佐 程蔵

土方總裁殿

拝啓昨七日第五回會議ヲ相開キ申候ニ付會議錄別紙供高覽

候 敬具

(別 紙)

吉会鐵道借款契約締結交渉會議々事錄(第五回)

大正八年三月七日午後四時半交通部ニ於テ第五回會議ヲ開

催シ午後六時終了ス、出席者日本側岩佐、谷、松本、牛

島、末広ニシテ支那側權量、陸夢熊、汪廷襄、康誥ナリ

一、会計、運輸両主任ニ就テ

岩、前回會計、運輸両主任問題協議ノ際委員ノ權限外ノ

事項ナリトノ事ニ付総長ト相談シ置カレ度キ旨申込み

置キシカ御話下ナレシヤ

岩、相談ノ余地ナキ問題ニテ相談ノ範囲外ノ事項ニ付相

談セズ

岩、委員權限外ノ問題ナリトノ事ナレバ止ムヲ得ズ何レ

機ヲ得テ貴下ニ權限ヲ与ヘラル様願フヘシ

二、交渉ノ方法

岩、両主任問題ハ早急ニ協議纏マラザル模様ニ付逐條  
ニ協議シ定メ得ル事項ハ早ク定メ置キ度ク昨日松本、  
牛島ヲ以テ貴意ヲ得置キタリ  
權、逐條的ニ協議ヲ進ムル事ニハ異議ナシ次回ヨリ逐條  
審議ニ入ラルルヤ

岩、本日ヨリ直チニ逐條審議シタシ  
權、異議ナシ

三、支那案ニ付スル日本案

權、昨日松本、牛島ノ持參セラレタル支那案日本訳文ノ

修正案ヲ受取りタルカ其後変更スヘキ個所無キヤ

岩、変更スヘキ個所無シ右案ハ逐條審議ノ準備ヲ為サル

ルニ便宜ナルヘシト存シ参考ノ為予メ一覽ニ供シタル

モノニシテ右修正以外字句ノ訂正等詳細ノ事項ハ逐條

審議ノ席上ニテ申上グル事アルヘシ

權、右案ハ支那案ノ対案ト見テ宜シキヤ

岩、対案ト見ラレテ差支無シ

權、右案ハ第三回會議ニ當方提出ノ支那案ノ日本訳ヲ基  
礎トシ之ニ修正ノ個所ヲ加除セラレタルモノト存スル

二付日本訳ニ誤謬アレハ訂正ヲ求ムルコトアルヘシ

表題アル為メニ不都合ヲ生スル場合無シ、却ツテ便利  
ナリ岩、表題ヲ以テ内容ヲ拘束スルモノニアラザルヲ以テ差  
支無シト思フモ各國ニハ文章ノ定例アリテ日本文ニテ  
ハ契約各条ニ表題ヲ付スル事ナシ權、当方ニテハ便利ト思フ、貴方ニ取リテモ何ノ害モ無  
シ如斯事項迄自説ヲ固持サレテハ談判困難ナリ岩、貴方ニ便利ナレハ支那文ニ入レラルモ差支無シト  
申シ居レリ

權、ソレデハ日支両文一致セズ

岩、一致トハ内容カ一致シ解釈上疑義ヲ生ゼザレバ足ル  
文字形式悉ク一致スルヲ要スルノ意味トハ解セズ

權、表題ノ事ハ懸案トスヘシ

五、契約前文ニ就テ

岩、契約前文ハ意義ニ於テハ双方一致セリト認ム  
權、異議ナシ

六、第一条第一項

イ、岡門江云々ニ就テ

岩、支那案ニハ「岡門江ヲ過キ会寧ニ至リ」トアリ日本  
文ヲ「双方一致セシメ置クモノトス」トノ条項ニ反ス、

明カナラズ「図們江ニ於テ会寧ヨリ来ル鐵道ト聯絡スル鐵道」云々ト定メ度シ

權、図們江鐵橋ノ架設費ハ中日切半負担ノ事トナリ居レリ日本第二案「・・・ニ至リ」ニテハ河ノ岸ニテモ可ナリ鐵橋架設費ノ負担明カナラズ日本ハ負担セズトモ可ナリトモ解シ得又「図們江ニ於テ」ニテハ支那文ニテ「在図們江」トナリ意味明カナラズ且吉会鐵道ナル名称ハ吉林会寧間ノ鐵道ナリ

岩、支那案ニテハ会寧ニ至ル迄支那ニ於テ鐵道ヲ建設スルカ如ク見エ「図們江ヲ過キ」ナル文字ハ誤弊アリ谷、支那案ニテハ「会寧ニ至リ日本國鐵道ト聯絡」スル鐵道建設ニ要スル資金ニ充ツルコトトナリ図們江会寧間ノ線路モ本借款金ニヨリテ建設スルコトトモ見ラル權、國境ヨリ会寧間ハ日本ニテ建設サルヘキハ勿論ナレ共図們江ニ於テ朝鮮鐵道ト聯絡スルコトセハ吉会鐵道ノ名ニ合ハズ、河ノ上ニテハ停車場等モ作レズ如何ニシテ聯絡スルヤ又國境ヨリ会寧ニ至ル間ノ管理ハ如何ニスルヤ

岩、名称ハ便宜上附近ノ有名ナル地名ヲ用ヒタルニ過キ

ズ、図們江ノ中央國境迄ヲ会寧ナル地方名ト見ルモ不可ナシ

谷、聯絡ノ事ハ第四条ノ規定アリ今論スル要ナシ又必スシモ聯絡ノ境界線ニ於テ停車場ヲ作ル要ナシ、管理ノ事ハ只今即答シ難シ第四条ニヨリテ追テ協定スレハ可ナリ図們江ト会寧ノ間ハ朝鮮鐵道ニテ建設スルハ勿論ナリ

權、仮ニ橋ノ中央ヲ國境トシテ橋ノ中央ヨリ会寧間ハ朝鮮鐵道ニテ管理スルモノナルヤ、自分ハ吉会線ト云フ以上ハ会寧迄吉会鐵道ノ管理ニ属スルモノト考フ岩、然ラハ予備契約ノ文句ノ通リトナスヘン然シテ自分ハ予備契約ノ支那文文句ハ日本本文文句ト意味同一ナラズト思フ予備契約日本本文文句通リニスヘシ

權、予備契約ノ通リニセラル事ハ異議ナキモ予備契約ノ日本文ハ支那文ト意味同シカラザル様ナリ自分ハ予備契約ノ支那文ノ通リニスルコトヲ主張ス

岩、予備契約ノ日本文意義ニ付キ疑義ヲ生シタル時ハ日本文ニ依ルコトハ同契約末尾ニ明文アリ

權、予備契約ノ日本文ト支那文トハ一致シ居ラザル様ナ

リ予備契約ハ日支双方当事者ノ署名シタルモノノナレバ

日本文ト相違セリトテ支那文ヲ無視スル能ハズ之ハ予

備契約当事者ノ意見ヲ聞ク事ヲ要ス

岩、予備契約ノ日本文ニヨリテ疑義ヲ決スルトハ日支文

ノ意味同一ナラザルトキノ用意ニ記載セラレタルモノ

ナリ予備契約ノ支那文ノ意味ガ日本文ト同意味ナレハ

予備契約ノ支那文ノ儘記載サレ差支無シ自分ハ予備

契約ノ支那文ハ日本文ト意味同一ナリト認メズ

陸、双方主張ノ意味ハ同一ノ様ナレハ單ニ文字ノ問題故他日ニ延期セラレテハ如何

權、予備契約ノ日本文ヲ記載スル事ヲ主張サルルニ於テハ自分ハ予備契約ノ支那文ノ儘記載スルノ外ナシ

岩、予備契約ノ支那文ハ日本文ト同一ノ意味ナリト認メラルモノトシテ議事録ニ明記シテ宜シキヤ

權、予備契約ノ支那文ハ日本文ト意味同シカラズト思フモ明カナラズ確実ナ人ニ聞クノ外ナシ図們江ヲ過キ会寧ニ至ルトスルニアラザレハ吉会鐵道ト称スルヲ得ズ

岩、河ノ水面ノ國境迄ノ部分ヲ会寧ト称スルモ不可ナラム

口、金額

岩、支那側ニテ金額ノ見積未タ出来居ラザレバ此儘空白トナシ置キ追而協議スヘシ

權、異議ナシ

七、第一条第二項

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五九

八一二

岩、日本第二案ニ同意ト存ス本項ハ日支画案共同一ナリ  
権、異議ナシ本公債ノ利率五分ハコレニテヨロシク別ニ  
ソレヨリ安キ利率ヲ主張セズ

八、次回會議ノ日時  
岩、次回ハ明日引続キ開会スヘシ

権、承知セリ

(附記)

別紙ハ二月二十五日第三回會議ニ於テ支那側提出ノ対案ニ  
加ヘタル修正項目ニシテ三月七日第五回會議ニ於テ日本側

第一次意見トシテ示シタルモノナリ

(別紙)

中國対案ニ対シ加ヘタル日本側修正項目

第一条

「國門江」ノ次

「ヲ過キ会寧ニ至リ」ヲ削リ

「ニ至リ会寧ニ於テ」ト修正

第二条

「一切ノ設備」ノ次ニ

「材料ノ購買」ト加ヘ

第五条

「毎回千分ノ」ノ次ニ

「二半」ト加ヘ

「即」ノ次ニ

「金」ト加ヘ

「千円ニ付」ノ次ニ

「金貳円五拾錢」ト加フ

第九条

「二、トシテ新ニ

「前項ノ人員及金額ハ本鐵道督弁ニ於テ銀行ト協議

ノ上之ヲ定ム」ヲ加ヘ原案ノ

二、ヲ三、ト改ム

第十二条「本公債元利金ノ受払ニ関シ」ノ次「本借款期間

内」ヲ削除

「銀行ハ」ノ次

「百分ノ」ノ次ニ

「日本或ハ中華民国ニ於テ」ヲ削除

四、ノ内

「開通費」ヲ削リ  
「建設中ノ營業費」ト挿入

二、ノ内

「六個月以内ニ」ノ次

「起工シ」ヲ削リ

「着手シ」ト修正

「實際」ノ次

「起工」ヲ

「着手」ト修正

「着手」ノ内

「償還スルコトヲ得」ノ次ニ

「此場合ニ於テハ第二十年目迄ハ額面百分ノ二半ノ  
割増金即チ金百円ニ付金壹百〇貳円五拾錢ヲ支払ヒ  
第二十一年目以後ハ割増ナシニ之ヲ行フコトヲ得」

ト加フ

第七条

「必要ノ元利金」ノ次ニ

「及割増金」ト加フ

三、四、削除

「五半」ヲ加ヘ

「即」ノ次ニ

「金」ヲ加ヘ

「百円ニ付」ノ次ニ

「金五円五拾錢」ヲ加フ

第十四条

「ノ内

「銀行ニ對シ」ノ次ニ

「會計主任連署ノ」ト加フ

五、ノ内

「見積額ニ依リ」ノ次

「銀行ニ於テ」ヲ削除

「上海ニ送金」ノ次

「シ」ヲ削リ

「セラルヘシ右送金ハ銀行之ヲ取扱ヒ」ト挿入

第十五条

「末尾

「本契約ニ準拠」ノ次

「スヘシ」ヲ

「シ銀行ト協議スルモノトス」ト修正

「鉄道局ト」ノ次  
「約定スヘシ」ヲ

「協定スヘシ」ト修正止

第十六条二、ノ内

三、四、五、ハ新ニ左ノ通り加フ

十、ノ内

「督弁ニ於テ」ノ次

「撰定シ」ヲ削除

同項末尾

「指揮監督」ノ次  
「ス」ヲ削リ

三、督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ会計主任ニ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

四、会計主任ハ会計部所要内外人員表ヲ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ会計主任ハ右人員各自ノ分担事務ヲ定ム

五、会計主任ハ本公債期間内督弁又ハ総弁ノ命ヲ承ケ

本鉄道ニ關スル一切ノ收支ヲ管理シ且本鉄道ニ關スル支出ニ付一切ノ書類ニ督弁又ハ総弁ト連署ス

原案ノ

三、四、五、六、七、八、ヲ夫々  
六、七、八、九、十、十一ト修正

七、ノ末尾

「検査スル」ノ次

「コトヲ得」ヲ

「モノトス」ト修正

九、ノ末尾

同項末尾ノ

「保線事務ヲ掌ル其」ノ次ニ

「傭聘」ト挿入

原案十、十一、削除

新二十五、トシテ左ノ一項ヲ加フ

十五、督弁ハ銀行ノ承諾ヲ得テ日本人一名ヲ運輸主任ニ任命ス運輸主任ハ督弁又ハ給弁ノ命ヲ受

ケ運輸ヲ掌ル其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

第十七条 ノ初メ

「本鉄道ノ収入ハ」ノ項ノ前ニ新ニ

「本鉄道收入ハ遲滞ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鉄道局勘

定ニ払込ミ場合ニ応シ定期又ハ当座預金トシ其利率

ハ隨時銀行ト協定スルモノトス」ノ一項ヲ加フ

第十八条一、削除

二、ヲ一、トシ

「鉄道建設中」ノ次

「政府ノ指定ニ依リ」ヲ削除

末尾ノ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七五九

七、ノ末尾

六、ノ内

「外國材料」ノ次  
「ヲ」ヲ  
「ノ」ト改メ  
「購買スルトキハ」ヲ

「購買ヲ監督シ」ト修正  
「検査人」ト修正

八一五

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七六〇

八一六

「支給セス」ノ次ニ

「但購買ニ関シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鐵道局

ハ本鐵道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ」ト

加フ

八、ノ末尾

「支給セス」ノ次ニ

「取扱者ハ本鐵道完成後ニ於テモ本公債期間中ハ鐵道

局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ対シ優先權

ヲ有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スルモノトス」ト加フ

九、削除

第十九条ノ次ニ第二十条トシテ新ニ左ノ一条ヲ加フ

第二十条 銀行ハ公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從

テ本公債ニ關スル事項ニ付本鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債所持人ノ代理人タルヘシ

原案ノ第二十条ヲ第二十一条トシ

「金額ノ受授ハ」ノ次

「便宜上天津上海或ハ」ヲ削除

「銀行ニ」ノ次ニ

「各」ト加ヘ

「一通ヲ保存」以下ヲ

「ス若シ本契約ノ解釈ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ決スルモノトス」ト修正 以上

七六〇 三月十四日 内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛(電報)

吉会鐵道借款契約ニ關スル中國側対案ニ対ス  
ル我方主張ニ關シ興銀ヨリ岩佐ニ電訓シタル

原案第二十一条ヲ第二十二条トス

原案第二十二条ヲ第二十三条トス

第二十四条トシテ新ニ左ノ一条ヲ加フ

月 日大総統令ニ基キ調印シタルモノニシテ右大

總統令ハ外交部ヨリ公式ニ中華民国駐劄日本公使ニ

通告ヲ経タリ

原案第二十三条ヲ第二十五条トシ

「政府ニ」ノ次ニ

「各」ト加ヘ

第三五二号

二付通報ノ件

附記 本邦案ト中国対案トノ相違点ニ關スル大藏省意見

第三五二号

吉会鐵道借款契約支那側対案ニ付スル當方意図ハ三月十三

日興業銀行ヨリ貴地岩佐理事ニ電報シタルニ付委細右ニヨ

リ御承知相成度右ノ内運輸會計両主任備聘ノ件ハ絶対ニ我

主張ノ貫徹ヲ圖ルコト致度尤モ場合ニ依リ客年往電第一

一三八号ノ通リ借款契約ヨリ削リ附屬文書ニテ取極ムルモ

差支ナキ内意ニ付右ニ御含置アリ度シ又前記ノ通り今回興

業銀行ヨリ打電セル修正事項中我讓歩ノ点ハ出来得ル限り

運輸、會計両主任ノ件ヲ支那側ニ於テ同意スル交換条件ニ

利用スルコト得策ト思考ス尙御来示ノ二百万円ノ件ハ客年

往電第一一三八号ノ通リ当初ヨリ其ノ根柢薄ナルヲ認メ

居レル次第二付之ヲ引用スルコト却テ不利益ト認メラル

ニ於テハ強イテ引用セラルニ及バズ

(附記)

吉会鐵道借款契約本邦側原案ト支那側対案トノ相違点ニ

關スル大藏省意見

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七六一

第三八二号

七六一 三月十六日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道借款契約交渉ニ關連シ運輸會計両主  
任問題ニ付意見稟申並滿蒙山東各鐵道問題ニ  
關スル交渉開始方ニ付請訓ノ件

貴電第三五二号ニ關シ支那提案ニ付スル銀行側対案ハ岩佐  
ヘノ來電ニ依リ承知シタルカ大体ニ於テ今日迄本使承認ノ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七六一

八一七

下ニ岩佐ノ會議ニ於テ主張シ來タレル處ト大差ナント認メ  
ラレ今後尚篤ト我方決定ノ方針ヲ体シ極力折衝セシムヘキ  
ガ運輸会計両主任問題が頗ル難関ノ一タルハ累次ノ具報ニ  
ヨリ疾ク御承悉ノ通リニシテ現ニ權量ノ如キ同問題ヲ議ス  
ルハ其權限範囲以外ナルヲ主張シ我方累次ノ懇談ニ對シテ  
モ殆ト取合ハザル模様ニ有之本使ノ推測ニシテ誤ラズトセ  
バ或ハ同問題ノ交換条件トシテ支那側年来ノ宿望タル吉長  
線ノ委任經營權ノ回収若クハ縮少ヲ提議シ來ルノ底意ヲ有  
スルニアラザルカ免ニ角両主任問題ハ乍遺憾先方ニ之レヲ  
拒否スルノ強味ヲ有シ居リ從テ我方ニ於テ飽乏之レヲ貫徹  
セントセバ勢ヒ先方ヲ満足セシムヘキ何等カノ交換条件ヲ  
提供スル必要アルベキ(ヤニ認メラル)

素ヨリ本使ニ於テモ必要ニ応シ直接間接支那側説得ニ力  
ムヘキハ勿論ナルモ右ノ次第御参考迄ニ予メ貴聞ニ達シ置  
キタシ尚本件會議ノミニテモ今後少カラザル時日ヲ要スヘ  
ク滿蒙山東各鐵道問題ニ對スル全部終了迄ニハ頗ル長日月  
ヲ費サザル能ハザル次第ナルガ一方鐵道統一問題ハ意外ニ  
強固ナル根底ヲ有シ既ニ實際問題トシテ取扱ハルルニ至リ  
現ニ最近梁士詒等ヲ中心トシ交通中國其他各支那銀行ヲ發

起者トシテ設立セラレントスル「シンヂケート」ノ如キモ  
畢竟其手段目的ハ鐵道統一案(往電第二一四号参照)ノ促  
進ヲ期セントスルモノニ外ナラズ果シテ然ラバ諸般ノ情勢  
ニ鑑ミ滿蒙山東各鐵道問題ノ如キモ此際一日モ速ニ商議ヲ  
開始シ将来ニ於ケル意外ノ障害ヲ妨止スルノ策ニ出ヅル方  
然ルヘシト思考セラル右御同感ノ節ハ前記滿蒙山東各鐵道  
問題ニ關スル商議モ至急開催ノ事ニ取計ハセ度ク尤モ山東  
線ニ關シテハ予テ御來示ノ通り東亜中日ノ行懸モ有之ニ付  
右ニ關シ先以テ明確ナル諒解ヲ付ケ置ク必要アルハ申迄モ  
ナシ右後段ニ關シテハ何分ノ義御電訓ヲ請フ

七六二 三月十八日 斎藤興銀秘書役ヨリ  
原政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉第六回會議議事錄提出  
ノ件

附屬書 右第六回會議議事錄  
秘第四一号

大正八年三月十八日

日本興業銀行 秘書役 斎藤 力

政務局長 増原正直殿

拝啓第六回會議議事錄写壹部御送附申上候間御査収被下度候

#### (附屬書)

#### 吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事錄(第六回)

大正八年三月十日午後二時半交通部ニ於テ第六回會議ヲ開  
催シ午後四時半終了ス出席者ハ日本側岩佐、谷、松本、牛  
島、末広ニシテ支那側權量、陸夢熊、汪廷襄、康誥ナリ

註 本文ニ於テ單ニ双方同一トアルハ日本案支那案ノ

双方共意味ニ於テ同一ナリトノ意ナリ又單ニ第何条第  
何項トアルハ日本第二案(支那対案ヲ修正セルモノ)  
第何条第何項ヲ指ス次回以後亦同シ

#### 一、會議ノ日時

權、爾後會議ハ原則トシテ一週三回月水金ノ三日午後二  
時ヨリ開催シ四時カ五時頃ニ終ル事ニシ度シ  
岩、至極結構ナリ、特ニ差支アル場合ハ予メ打合セ变更  
スルコトトスヘシ

二、第一条「会寧云々」ニ就テ

權、宣統元年七月二十日明治四十二年九月四日外務部大

臣梁敦彦ト全權公使伊集院彦吉トノ間ニ調印セラレタ  
ル所謂宣統條約第六条吉会鐵道ノ項ニハ「在韓国会寧

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七六二

九、对中国借款善後策ニ関スル件(二) 七六二

八二〇

岩、起工(二個所共以下同シ)ハ着手ノ方適當ト思フ

谷、起工ニテハ實際ニ鍵入レヲ為スヲ要ス、然ルニ今秋

ヨリ測量スルトシテ測量ニ五六ヶ月ヲ要スルヲ以テ六

個所以内ニ起工スルコトハ實際不可能ナリ

權、着手ニテハ意味輕ク無責任ナルノ嫌アリ支那ニテハ契約文成立シテ其儘ニ放置サレアル例アリ適宜ノ語ナ

キヤ、開弁或ハ開始ニテハ如何

牛、開弁ノ日本訳ハ着手ナリ

谷、専門家ハ着手ト完成ト相対シテ用フ開始ナル語ハ用

ヒズ

岩、日本文ハ開始トシ支那文ハ開弁トスヘシ

權、異議ナシ

谷、更ニ適當ナル語ヲ發見セシトキハ改ムルコトトスヘシ

口、

岩、「銀行ハ此期間ニ於テ所要ノ金額ヲ募集シ支出ニ備

フルモノトシ」ノ挿入ニ同意ス

ハ、

谷、「全部之ヲ完成ス」ノ全部ハ必要ナカルヘシ

岩、日本文ハ開弁トスヘシ

權、異議ナシ

谷、隨時トハ本公司債元利金ヲ支払ヒ剩余アルトキノ意味

ナリヤ

岩、權、「全部」ハ削除スヘシ  
五、第三条第一項  
岩、權、双方同一ナリ

六、第三条第二項

岩、但書ニ付テ、政府ノ一般会計ヨリ融通スルトキハ利

息ヲ付スル必要アルヘキモ鐵道特別会計内ニテ補填ノ

トキハ利息ヲ付スル必要ナカルヘシ

權、例之銀行ヨリ借入レ融通スルカ如キ場合ハ付息ノ要

ナシ

谷、隨時トハ本公司債元利金ヲ支払ヒ剩余アルトキノ意味

ナリヤ

岩、前貸金ハ公債募集金ヨリ引去ル筈故日本案ニ記載セ  
サリシナルモアリテモ差支無シ

權、必要ナケレハ取消モ可ナレ共先ツ此儘記入シ置クヘ  
シ

岩、異議ナシ

十九、第八条第二項、第三項

岩、權、双方同一ナリ

二十、日本案第八条

權、担保品ハ支那案第八条ニ又不足額ハ支那政府ニテ補  
填スルコト支那案第三条第五条ニ明文アリ重復スルヲ  
以テ必要ナシ

岩、津浦契約ニアル故記入セシモ削除ニ同意ス

二十一、第九条

權、他ノ地方ノ鉄道ニテハ自明ノ事ナルモ東三省ニハ日

本ノ兵隊モ居リ警察モアルコト故後日ノ誤解ヲ避クル  
為メ明文ヲ入れタリ

岩、警察警兵ノ事ハ同意ス

イ、第一項

谷、建設中モ警察ノ要アルニ付「本鐵道收入ノ中ヨリ」

岩、元利金ハ借款期間後モ消滅時効ニカカル迄仕払フヲ  
要ス故ニ「本借款期間内」ノ文字ヲ削除シ度シ

權、本条ハ元来必要ナシ日本ニテ支払フモノニ支那力課  
税シ得ス又「本借款期間内」ヲ削ルトキハ免課ノ期限  
永久ニ続ク事トナル

岩、消滅時効ノ法律アリテ永久ニ続ク事ナシ、懸案トナ  
スヘシ良ク勘考シ置カレ度シ

二十四、第十二条

岩、權、双方同一ナリ

二十五、第十三条第一項、第二項

岩、両項共但書挿入ニ同意ス

二十六、第十三条第三項

岩、權、双方同一ナリ

二十七、第十三条第四項

權、發行手数料ハ最高限五分半トシ日支親善ノ為メ多少  
安クシテ貰ヒ度シ、懸案トスベシ

岩、日本案ヲ不可ト云ハルル計リニテ支那ノ案ナルモノ  
ナシ貴方希望ノ腹案ヲ示サレ度シ

二十八、第十四条第一項

岩、權、双方同一ナリ

二十九、第十四条第二項

岩、当座預金ニ年四分ノ利息ヲ付スルハ大勉強ナリ他ノ  
手数料等ノ割合カ皆津浦ト同一故此利率モ津浦同様四

分トスル事ニ同意ス其代リ他ノ分モ津浦ト同割合ニテ  
承諾セラレ度シ

權、年四分ハ最低限ト思フモソレ以上ヲ要求セズ

三十、第十四条第三項

岩、權、双方同一ナリ次回ハ第十四条第四項ヨリ協議ス  
ヘシ

ノ発布セラレタルアリ支那ノ将来ニ於ケル希望ト体面  
ノ挿入ニハ異議ナシ

權、右文句ハ津浦契約ニアリ且支那ニテモ既ニ金幣条例  
ノ問題ナリ事實上募集スルモ應募者ナカルヘク又募  
集セラレナルモ差支ナシ、懸案トスヘシ

岩、四鄭契約第十七条第二項ト同一文ヲ挿入シ度シ  
人員ハ貴方ノ隨意タルヘキモ余リ多クノ費用カカリテ  
ハ困ルカ為メナリ

權、支那ニ一番不利益ナル吉長契約ノ儘引用シ來リシナ  
リ費用カ多額ニカカルトキハ政府ノ負担トナルコト故  
無法ノ事ハセス人員金額ヲ銀行ト協定スルトセハ警察

力日支合弁トナリ大問題ヲ惹起スヘク又警察以外ノ鉄  
道従業員ニ付テモ銀行ト協議ノ必要生スヘシ

岩、第二項ハ削除スヘシ

ハ、第三項

岩、挿入ニ同意ス

二十二、第十条

岩、權、双方同一ナリ

權、日本案ノ文字ハ可成改メサル方針ニテ対案ヲ作レリ

二十三、第十一條

ノ件

附属書 右議事録

秘第四二号

大正八年三月十九日

日本興業銀行

秘書役 斎藤 力

外務省 政務局長 塙原正直殿

拝啓第七回議事録写壹部御送付申上候間御査収被下度候 敬具

(附属書)

吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事録(第七回)

大正八年三月十二日午後二時交通部ニ於テ第七回會議ヲ開

催シ午後四時終了ス出席者ハ日本側岩佐、谷、松本、牛

島、末広ニシテ支那側権量、汪廷襄、康誥ナリ

一、第十四条第四項

岩、日本第二案「会計主任連署」カ支那案ニナキ以外

双方同一ナリ

会計主任ノ件ハ第十六条ニテ協議スヘシ

権、異議ナシ

二、第十四条第五項

岩、日本第二案「会計主任連署」カ支那案ニナキ以外

双方同一ナリ

会計主任ノ件ハ第十六条ニテ協議スヘシ

権、異議ナシ

三、第十四条第六項

二依リテ負担スル債務ノ弁済及本鐵道改良費支弁ノ予備金トナス」ヲ挿入シ度シ、津浦契約ニハ債務弁済ノ予備金トナス規定アリ然シ債務ノ弁済ト改良費支弁トノ予備金トナス方便利ナリト存ス

権、右挿入ハ懸案トナシ良ク勘考シ置クヘシ

七、第十六条第一項及第二項

岩、日本案第二項ノ督弁ノ居住地ノ事ハ削除ニ同意ス其

他ハ双方同一ナリ

権、異議ナシ

八、日本案第十六条第三項、第四項及第五項

岩、権、会計主任ノ事ハ懸案トスヘシ

九、第十六条第六項(支那案第三項)

岩、権、双方同一ナリ

十、第十六条第七項(支那案第四項)

岩、末尾「検査スルコトヲ得」トハ作用ヲ示ス文句ナリ

本項ハ監査人ノ職務ノ性質ヲ示スモノナルヲ以テ監査人トハ何ヲ「検査スルモノトス」トスルヲ可トス

権、第九項(支那案第六項)トノ関係アリ鐵道局ト期日ヲ協定シテ検査スルモノ故「検査スルコトヲ得」トセ

岩、支那案「順次天津或ハ上海ニ送金云々」トセラレタル理由ノ那辺ニアルヤハ知ラザレ共津浦契約ニ倣ハレシモノカト存ス津浦線ニ付テハ天津及上海カ便利ナレ案「中華民国ニ送金云々」ノ方適當ナルヘシ

権、津浦契約ニ倣ヒタルモノナルモ天津ト上海トニ限ルハ不便ナリ中華民国ノ下ニ督弁ノ指図スル場所ト云フ

案「中華民国ニ送金云々」ノ方適當ナルヘシ  
并指定ノ場所ニ送金シ本鐵道ノ云々」トスヘシ

岩、「・・・見積額ニ依リ銀行ニ於テ順次中華民国内督

意味ノ註釈的文句ヲ入レタシ

岩、「・・・見積額ニ依リ銀行ニ於テ順次中華民国内督

意味ノ註釈的文句ヲ入レタシ

岩、「用途ニ供セラル迄預金ト為シ置キ云々」トスヘシ

権、異議ナシ

「在中華民國銀行ニ於ケル」ノ語ハ特ニ記入セストモ

意味明白ナレハ削除セラレタシ

岩、「用途ニ供セラル迄預金ト為シ置キ云々」トスヘシ

シ

谷、四鄭線等モ右統一會計ノ方法ヲ用ヒ居レリ

岩、右様ノモノアレハ其統一會計ノ簿記法ト解シ差支ナシ  
四、第十四条第七項岩、権、双方同一ナリ  
五、第十五条

岩、支那案末尾ノ「準拠ス」ヲ「準拠シ銀行ト協議スルモノトス」トシ度シ本契約ニ準拠スヘキハ勿論ナルモ

詳細ノ事項等協議ヲ要スヘシ且本条ノ日本訳ニ誤リア  
ルカトモ思ハル

権、日本訳ニ誤謬アリ訂正アリタシ

岩、「或ハ銀行ト協議ノ上更ニ公債ヲ發行シ其募集金ヲ以テ之ヲ補足スヘク其利子其他ノ条件ハ本契約ニ準拠スルモノトス」トスヘシ

六、第十五条第二項ヲ挿入ノ事

岩、日本案ニ書キ居ラサルモ剩余金ノ条項ヲ記入シ置ク方適當ト信スルニ付第十五条第二項トシテ「本鐵道

ノ建設及設備完成後本借款金額中費途ヲ有セサル剩余金ヲ生シタル場合ニハ之ヲ銀行ニ預入レ政府カ本契約

九、对中国借款善後策ニ關スル件(二) 七六三

リ勝手ニ休日等ニ迄検査サレテハ困ルカ為メナルモ貴方ノ趣旨ハ承知セリ第九項ト矛盾セス且貴方ノ意見ニ適スル様適宜ノ文句ヲ考へ置クヘシ

## 十一、第十六条第八項（支那案第五項）

岩、権、双方同一ナリ

## 十二、第十六条第九項（支那案第六項）

岩、執行スヘキ「期日」ハ日本案ニ無キモ挿入ニ同意ス

岩、権、其以外ハ双方同一ナリ

## 十三、第十六条第十項（支那案第七項）

岩、督弁ニ於テ「選定シ」ハアリテモ差支ナシ支那案ノ

通リ「督弁ニ於テ選定シ銀行云々」トスヘシ

本項末尾「指揮監督ス」ヲ「指揮監督シ並鉄道建設ニ

必要ナル材料機械其他ノ物件ヲ註文ス」トシ度シ

谷、督弁又ハ總弁ノ命ヲ承ケテ註文スルモノ故專断ニ流ル弊害ナシ結局技師長ノ所要トスルモノヲ技師長ノ

意見ニヨリ註文ヲ發シ度キ希望ナリ

権、督弁ハ材料機械等ノ詳細ノ事ハ知ラサル故實際上技師長ト相談ノ上註文スルコトニナルモ此文句ニテハ技師長カ專断ニテ註文スル事トナリ弊害ヲ生スヘク且交

権、四鄭ハ契約ニハアレ共事実上其事ナシ又吉会ハ四鄭

ニ準拠スルニアラス、技師長ノ傭聘契約内ニ其権限ヲ

定メ而シテ傭聘契約ニハ任免権ノ督弁ニアルコトヲ明記スル例ナリ事實上ハ技師長ノ意見ヲ重シスヘキハ勿論ナルモ如斯明文ハ挿入スルヲ苦シム、懸案トスヘシ

岩、谷、懸案トスヘシ

## 十六、第十六条第十二項ノ挿入

権、技師長ハ一切ノ工事ヲ指揮監督スルヲ以テ其内ニ含マルカトモ思ハル又工事請負ハ入札ニ付スヘキモノ

ニシテ技師長ノ推薦ニテ是非其者ニ請負ハストセハ入札ノ主義ニ反シ又弊害ヲ生スヘシ各鉄道ニ於テモ事実生スヘン

谷、工事請負人ノ無資力ナル為メ工事遲延セシ例尠ナカ

ラス、不良ナル請負人ノ運動ヲ防クカ目的ナリ又工事請負人ノ適當ナルモノヲ推薦シ其者ノ内ニテ更ニ入札ノ方法ヲ取レハ可ナリ、要之資力アリ能力アル工事請負人ノ推薦ハ必要ナリ、工事ノ指揮監督ハ工事ヲ初メ

テ後ノ事ナリ工事ヲ初ム以前ニ推薦ノ要アルナリ

## 九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七六三

トナリ居ルニ技師長カ專断ノ方法ニテ買入ルル事ハ右ノ規程ト抵触ス

谷、註文ト入札トハ同シカラス技師長ヨリ註文シ督弁ニ於テモ同意ノ上愈々購買スルトキハ入札其他適當ノ方法ニテ買入ルルコトトナルナリ

## 十、第十六条第十一項（支那案第八項）

権、「通告」ハ一般人ニ対スルモノニシテ誤訳ナリ一箇所共「申告」ト改メラレタシ其他ハ双方同一ナリ

岩、異議ナシ

## 十一、第十六条第十二項ノ挿入

権、本項ヲ入ルレハ建設中ハ大部分ノ人員カ技術員タルヲ以テ其任免其他ニ必要ナル措置ヲ執ルノ権限ヲ技師長ニ附与スル時ハ督弁及總弁ノ任免権カ技師長ニ移リ

督弁、總弁ハ任務無ク監督權モ無キニ至ル谷、督弁、總弁ノ命ヲ承ケテ必要ナル措置ヲ執ルモノ故督弁ノ任免権ヲ打消スモノニアラス四鄭契約ニモ此条項アリ

岩、権、懸案トスヘシ

## 十二、第十六条第十四項（支那案第九項）

岩、日本案ニハ「借款期間内ニアリテハ」ノ文字無キモ右記入ニ同意ス

支那案ノ通り日本人一名ヲ「選定シ」銀行ノ云々トスル事ニ同意ス

「保線技師」ハ二個所共「工務主任」ト改メ度シ津浦契約ニハ「Engineer-in-Chief」トアリ工務主任ト訳スルヲ正ントス

支那案「其契約ハ」トアルハ「其傭聘契約ハ」トスヘシ

権、保線技師ハ技師長ヨリ権限小ナル者ナレハカク名ケタリ工務主任ニテハ技師長ト同一権限ノ如ク見ユ谷、技師長ハ建設中ノ技術ノ全般ニ関係シ工務主任ハ保線ト線路ノ改良トヲ掌ルモノニテ権限同シカラス元来保線技師トハ外國文ノ誤訳ナリ單ニ保線技師ニテハ保線ヲ掌ル一技師ニ過キス主任技師タルコトヲ示シ置ク必要アルナリ

権、「保線技師」ヲ「工務主任」ト改ムルコトハ懸案ト

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七六四

八二八

シ其他ハ異議ナシ

十八、支那案第十六条第十項及第十一項ノ削除

岩、右二項ハ日本第二案第十二項ト関連ス懸案トスヘシ

權、異議ナシ

十九、第十六条第十二項

岩、權、運輸主任ノ事ハ懸案トスヘシ

二十、第十七条二第一項ヲ加フル事

岩、日本案第十七条第一項「本鉄道収入ハ遲滞ナク之ヲ

銀行ニ於ケル本鉄道局勘定ニ払込ミ場合ニ応シ定期又

ハ当座預金トシ其利率ハ隨時銀行ト協定スルモノト

ス」ハ支那案ニハ削除セラレタリ復活ニ同意セラレ度

シ、本項ハ金錢ノ取扱ニ熟達セル銀行員ヲシテ毎日ノ

収入ヲ受取ラシメ当座預金或ハ定期預金トスルモノニ

シテ鉄道ノ便利トナル

權、津浦京奉等ハ必要ノ元利金文ヲ借款團銀行ニ預入レ

居レリ借款團銀行ハ各地ニ必スシモ店ヲ有セス又代理

店ヲ指定セラルトセハ其旨記入ヲ要スヘク且支那ノ

關係銀行ニモ預ケ入ルルヲ便トスル事アリ

岩、懸案トナシ良ク考へ置クヘシ

二十一、第十七条第一項(支那案第十七条)

岩、權、双方同一ナリ

三月十五日付在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁  
宛第十一信 第八回會議議事錄送付ノ件

三月二十一日 墓原政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉第八回會議議事錄提出

ノ件

附屬書 三月十五日付在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁  
宛第十一信 第八回會議議事錄送付ノ件

秘第四三号

大正八年三月二十一日 日本興業銀行

政務局長 墓原正直殿

拂啓第八回會議事錄写壹部御送附申上候間御査収被下度候

秘書役 斎藤 力

(附屬書)  
三月十五日附在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛書信

第十一信

大正八年三月十五日 在北京理事 岩佐 程威

土方總裁殿

敬具

拂啓昨十四日第八回會議ヲ開キ申候其内容ハ別紙會議錄ニテ御承知被下度、第六回ヨリ第八回ニ亘ル三回ノ會議ニテ吉会借款契約支那対案ヲ修正セル當方意見ヲ基礎トシ兎モ角全部ニ亘リ逐條的ニ審議ヲ了シ申候

次回ノ會議期日ハ支那側ノ準備出来次第先方ヨリ通知シ来る箇ニ有之候而シテ更ニ懸案トシテ残レル部分ヲ再審議ニ附シ其節双方ニテ譲歩シ得ルモノハ譲歩シ譲歩シ得サルモノハ再ヒ懸案トシテ留保スル次第二御座候

三月十三日御発電特第八号ハ委細拂承致候凡テ右御來示ノ

主旨ニヨリ進捗致居申候日本案第十四条第二項利率ノ点モ

他ノ發行手数料、取扱手数料等ヲ津浦鐵道ノ例ニヨリ主張

セントスル懸引上一応ハ津浦鐵道ノ場合同様年四分ニ為ス

コトニ譲歩スル方得策ト考ヘタルモ之等ノ点モ亦終局ノ確定

議ト云フニ無之候其次第八回會議議事錄最終ニ於テ

保留セル處ニテ御承知被下度候

公債募集金交付、元利金支払ノ場所ハ可相成東京トスルコトニ主張スル考ヘニ有之候然ルニ日本案第二十一条ニテハ

元利金ノ支払其他總テ金額ノ受渡ハ日本東京ニ於テ之ヲ為スト有之候得共右文句ニテハ支那政府ヨリ預レル金(日本

(別紙)

吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事錄(第八回)

大正八年三月十四日午後二時半交通部ニ於テ第八回會議ヲ

開催シ午後四時半終了ス出席者ハ日本側岩佐、谷、松本、牛島、末広ニシテ支那側権量、陸夢熊、汪廷襄、康詰ナリ

一、支那案第十八条第一項日本案第二項

谷、本項ハ全部削除セシニアラス只買入ヲ零細ノ物件迄

全部入札ニ附スルコトハ不便ナルヲ以テ日本案第二項ノ如ク修正スルヲ必要トス

権、零細ノ物件ノ買入迄全部入札ニ附スル事ハ不可能ナ

リ只日本案ハ入札ヲ例外トスルカノ如ク見エ且「重要ナルモノ」ニテハ其見解ニ付後日ニ問題ヲ残ス支那ハ

原則トシテ入札ニ附スル事ヲ示シタキナリ、其方ガ鉄道ノ利益ト思フ又交通部ノ規定ニテハ一定金額以上ノ

買入ハ入札ノ方法ニヨルヲ要スルコトトナリ居レリ決シテ絶対的ニ全部入札ニ附スル事ヲ意味スルニアラス

谷、「入札ニ附スヘシ」ニテハ全部入札ニ附スルヲ要ス

購買ノ方法ハ督弁ニ於テ定例ニヨリテ行ヘハ可ナルモノ故本規程無キモ差支ナキカ共思フ

権、支那ノ会計検査法ニハ五百円以上ハ入札ニ附スルヲ要スル事トナリ居レリ、意見ハ双方同一ノ如キニ付原

則トシテ入札ニ附スルトノ意味ニ支那案第一項日本案第二項ノ文句ヲ考へ置クヘン

岩、異議ナシ

二、第十八条第一項（支那案第二項）  
岩、支那案ノ意義ノ説明アリタシ

権、政府ハ銀行ヲ指定シテ取扱人トナシ銀行ハ随意ニ更

二取扱人ヲ指定シ得即チ政府ノ相手方カ銀行ナルコト

岩、「示スモノナリ」  
岩、「政府ハ本鉄道建設期間中外国ヨリ輸入スヘキ一切ノ材料機械ヲ購買スヘキ取扱人トシテ銀行ヲ指定スルコトヲ得」或ハ「銀行ハ政府ノ代理人トシテ本鉄道建設期間中外国ヨリ輸入スヘキ一切ノ材料機械ヲ購買スヘキ取扱人ヲ指定スルコトヲ得」トスルヲ支那案ノ訳ト考フ當方ノ訳文ハ明カナラス要之意味ハ双方同一ナリト思フモ字句ヲ修正スルヲ可トス  
谷、四鄭等ハ銀行ヲシテ取扱人ヲ指定セシムルコトトナリ居レリ

権、実質ハ双方同一ナリ取扱人指定権ハ元來政府ノ権利ナレ共建設期間中之ヲ銀行ニ譲渡シ銀行ハ第二十三条（支那案第二十二条）ニヨリ其権利ヲ他ニ譲渡シ得從ツテ更ニ取扱人ヲ指定スルコトトナルナリ又支那案ニヨレハ銀行ハ自ラ取扱人タルモ可ナリ

岩、「指定スルコトヲ得」ハ「指定スルモノトス」トシタシ

谷、銀行カ第二十三条（支那案第二十二条）ニヨリテ譲渡スルニハ督弁ノ承諾ヲ受クルコトヲ要シ面倒ナリ

権、何レニシテモ督弁ノ承諾ヲ得ルコトスルハ必要ナルモ日本案第一項支那案第二項ハ大体ニ於テ其意味同ナルヲ以テ双方ノ満足スル字句ヲ修正シタシ  
岩、異議ナシ

三、第十八条第三項

岩、取扱手数料ノ百分ノ五ハ空白ノ儘トスヘキヤ

権、百分ノ五ヲ最高限トシ日支親善ノ趣旨ニヨリ追而協議スルコト

岩、支出ニ付テハノ次ニ「技師長ヨリ」ヲ挿入シタシ  
権、技師長ノ権限ト関聯スル問題故懸案トスヘシ

谷、「費用ノ支出」ノ意味如何

権、手数料、購買実費等ノ支出ヲ含ム

又誤訳アリ日本訳文ニハ「申請シ」トアレトモ漢文ニハカカル意味ノ文句無シ故ニ日本訳文ヲ「及費用ノ支出ニ付テハ督弁ノ許可ヲ受クヘキモノトス」ト改メラレタシ他ハ異議ナシ

岩、「百分ノ五」「技師長ヨリ」ヲ懸案トスヘシ他ハ異議ナシ

四、第十八条第四項  
九 対中國借款善後策二關スル件(一) 七六四

岩、日本第二案ノ如ク但書ヲ挿入セラレタシ検査人以外

鐵道局ノ味方タル技師ヲ聘傭スルヲ必要トスル場合ナ

九 対中国借款善後策ニ闇スル件(二) 七六四

八三一

キニアラス其時ノ報酬及費用ヲ鐵道ヨリ支給セラレタ  
キナリ津浦契約ニモアリ

權、日本第二案ノ如キ無制限ノ規程ヲ設ケテハ鐵道ノ負  
担ヲ重クスルノ虞アリ又事實上必要トセハ隨時協定ス  
ルモ可ナリト思フ

陸、從前英國仏國等ニ顧問技師ヲ置キシ事アリシモ近來  
廢止セリ

岩、谷、大体貴説ニテ良シキカトモ思フモ良ク考へ置ク  
ヘシ

權、承知セリ

八、第十八条第八項

岩、權、本項前半(支那案第八項)ハ双方同一ナリ

岩、支那案ノ末尾ニ取扱者ハ本借款期間中ハ鐵道完成後  
モ取扱フ事ノ規程ヲ追加シタシ津浦ニモ此規程アリ  
陸、津浦ニテハ契約文ニアルモ事實上其事ナシ

谷、鐵道完成後モ同一取扱人力取扱ヒヲ為スラ便利ト思  
フ

九、支那案第十八条第九項ノ削除

岩、權、懸案トスヘシ

權、本項ハ鐵道局カ取扱者ヲ不適當ト認ムル場合ニハ之  
ヲ変更シ得ル権利ヲ保留スルモノナリ津浦ニモアリ  
岩、津浦ニテハ他人ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得ルモ手  
数料ハ取扱人ニ支給スル事ニナリ居レリ本項アリテハ  
銀行ヲ取扱人ニ指定スル条項ノ意義甚夕薄弱トナリ且  
津浦契約トモ相違ス  
權、良ク考へ置クヘシ

十、第十九条

岩、權、双方同一ナリ

十一、第二十条ノ挿入

權、銀行ト政府トノ間ノ契約ニ本條ハ無意味ナリ四鄭ニ  
ハアレ共津浦ニハ無シ

松、公債所持人ト銀行トノ間ニ代理關係ヲ認ムルハ銀行  
カ公債所持人二代リテ政府ト交渉スルヲ要スル如キ場  
合ニ必要アリ

岩、權、良ク考へ置クコトスヘシ

十二、第二十一条(支那案第二十条)

岩、金錢ノ受授ハ全部東京ニテ行フコトニシタシ  
權、「便宜上天津、上海或ハ」ヲ削ルニ同意スルモ概括

的ノ支那方ヲ指定スル文句ヲ加フルヲ要ス其他凡テ金  
銭ノ受授ハ東京ニテストアリテハ預金ノ引出ノ如キモ  
常ニ東京ニテ為スヲ要スル如クニ此等ノコトヲ凡テ東  
京ニテ為スコトハ不可能ナリ

岩、募集金ノ交付トハ募集金ヲ鐵道局勘定ノ預金ト為ス

コトナリ支那政府カ自分ノ預金ヲ引出ス場合ノ如キハ

募集金ノ交付ト考エス

權、支那案第七条第二項第四項並第十四条トモ關係アリ

之等ノ規程ト矛盾セス且一般人ニモ判リ易キ様文句ヲ

修正アリタシ日本案ニテハ普通人ニ誤解ヲ生シ易シ

岩、適當ノ文句ヲ考へ置クヘシ

十六、第二十五条

岩、異議ナシ

式ニヨリ本條ヲ挿入スルコトスヘシ右ノ意味ニテ仮  
ニ本條ヲ削除セル迄ニテ決シテ本條ヲ全然削除セント  
スルニアラス

岩、支那案ハ日支兩國文ヲ一致セシメ置クモノトストア  
ルモ異リタル國語ヲ全然一致セシムルハ至難ノ事ナリ  
従ツテ万ニ疑義ヲ生シタル場合ニハ何レカ一方ノ文ニ  
ヨリテ解釈スルコトセサレハ水掛論ニ終ルコトナキ  
ヲ保セス津浦契約、吉会予備契約及其他貴弊間ノ契約  
ノ例ニモアルコトナレハ本條ハ日本案ニ同意アリタシ  
權、英、仏、獨等トノ契約ハ先方ノ文ニヨリテ解釈スル  
コトトナリ居ルモ夫ハ全然國語ヲ異ニスルカ為メナリ  
幸ヒ日支兩國ハ同文ノ國ナルヲ以テ一致セシメ得又日  
本文ニヨルコトセハ支那文ハ無用ノモノトナリ且支  
那國語ニ対スル侮辱ナリ予備契約ニハ幸ヒ本契約ノ用  
語ニ付テ何等言及セス日支文一致セシムルハ昨年通信  
聯絡會議ニテモ実行セシ所ニテ何等ノ害ナシ

岩、支那文ヲ無用ノモノタラシムルニアラス現時ハ常ニ  
契約調印迄ニハ右定式モ決定セラルベク從テ有効ノ形

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七六五

支那ノ時文ノ変化多キ時代ニテ一致ハ頗ル因難ナリ

谷、從来四鄭、吉長等ニモ此規定アリ債権國ノ文字ニヨ

ルカ正当ナリ

権、懸案トスヘシ

十七、第一読会ノ終了

岩、以上ニテ第一読会ヲ終レリ右ハ双方大体ノ意見ノ交

換ヲナシタルニ止マルヲ以テ更ニ意見ノ変更ヲ申出ツ

ルコトアルヤモ知レス此点ハ御承知シ置カレタシ

權、異議ナシ

第二十一条(支那案第二十条)ノ文句ヲ適當ニ改メテ

提出セラレタシ

日本側ハ既ニ当方対案ニ対シ第一案ヲ提出セラレタル

ヲ以テ今度ハ當方ヨリ支那第二案ヲ作リ提出ノ上懸案

ノ個所ニ付協議スルコトトスヘシ右準備整へ次回ノ開

議ヲ申込ムコトトスヘシ

岩、異議ナシ、可成早ク支那第二案ヲ調製シ準備ヲ整ヘ

ラレタシ

權、承知セリ

七六五 三月二十五日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)  
滿蒙山東諸鉄道交渉ヲ急ガソリモ多少ノ遷  
延ヲ見ルトモ吉金鉄道ノ運輸金計兩主任ニ開  
スル我方主張貫徹ノ方針ニ出ツルヲ得策トス  
ル旨回訓ノ件

第四〇八号

貴電第三八二号ニ閲シ

満蒙山東諸鉄道借款契約カ適當ノ条件ニテ速ニ成立ヲ見ル  
ニ至ラムコトハ固ヨリ切望ニ不堪處ナルモ元來右諸鉄道ニ  
付テハ日支兩國政府間ニハ已ニ公文ノ交換アリ又支那政府  
及我當業者間ニハ予備契約成立シ居レル次第ニテ是等鉄道  
ニ対スル我關係ハ已定ノ事實ト認ムルコトヲ得ヘシ從テ御  
來示ノ支那鐵道國際的共同管理等ノ日本ニ取り得失如何ノ  
根本問題ハ暫ク措キ仮令該案ノ進捗ヲ見ルニ至ルトモ該案  
ニ關聯セル我發言權ハ相當重キヲ為シ得ル次第ニ付此際事  
ヲ急ギ却テ其條件ノ不利ヲ忍バザルヘカラザルガ如キ事態  
ニ立至ルヨリ寧口運輸主任会計主任等當方ニ取リ是非共貫  
徹ヲ要スル重要問題ニ付キテハ多少交渉ノ遷延ヲ見ルトモ

十分我主張ヲ實現スルノ方針ニ出ヅルコト将来大局ノ為得

策ト思考セラル將又山東鐵道借款当事者ノ件ハ貴電第二十七

七号御來示ノ次第モアリ旁々矢張リ當方ニ於テハ客年往電

第一二〇二号ノ通り東亞ヲシテ其局ニ当ラシムル意嚮ナリ

尤モ東亞ニ於テハ他日實際工事着手ノ後ニ於テ相当機械材

料ノ一部注文方ヲ中日ニ分配シ差支ナキ内意ナル趣ニテ此

ノ如キ点ハ東亞中日間ノ商議ニ委セ置ケリ

政務局長 塙原正直殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送

附申上候 敬具

(附屬書)

三月二十六日在北京岩佐理事ヨリ土方総裁宛電報

中國側ヨリ第二次対案提出ニ付報告及我方ノ譲歩点

ニ関シ請訓ノ件

特第十一号

昨二十五日支那側ヨリ吉会鐵道借款契約第二次対案ヲ受領  
シタリ兩三日中ニ更ニ懸案事項ニ付審議ヲ為ス可ク其場合

ニハ事大小ヲ問ハズ銀行提案ノ貫徹ニ努力ス可キハ勿論ナ

レトモ周囲ノ情勢ヨリ達觀シ又大局打算シ止ムヲ得ザル場

合最後ニハ左ノ通り當方ヨリ譲歩スル事ニ致度シ交渉ノ都

合モアルニ付予メ御承認為置被下度右ハ小幡公使各委員ト  
モ打合セ済ミタリ

(一) 日本案第十六条第十二項工事請負人ニ関スル規定削

除ノ事

(二) 日本案第十七条第一項ヲ削除ノ事

(三) 日本案第十八条第七項但書「顧問技師ヲ聘用スル場  
合ニハ本鉄道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支弁ス可シ」削

株式会社日本興業銀行

総裁 土方 久徵

秘第四五号

附記 四月一日大蔵省ヨリ送付ノ覚書

(三月二十八日接受)

大正八年三月二十七日

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七六七

八三六

除ノ事

四 日本案第二十条ヲ削除ノ事

右何分ノ御指図ヲ乞フ

(附記)

四月一日大蔵省ヨリ送付ノ覚書

覚書

吉会鐵道借款契約ニ關スル交渉ニ關シ岩佐興銀理事三月二十六日發總裁宛電報第十一号ヲ以テ同出ノ件ニ關スル大蔵省意見左記ノ通り

會計主任及運輸主任ヲ置クコトニ支那側ヲ承諾セシムル為メ必要ナルニ於テハ岩佐申出ノ四項ハ左ノ条件ノ下ニ讓歩止ムヲ得サルモノト認ム

一、日本案第十七条第一項ヲ削除シソノ代リニ鐵道收入金預入銀行ノ指定ハ會計主任ノ同意ヲ要スルコトヲ契約中ニ定ムルコト  
二、第十八条第七項但シ書ヲ削除スルモ顧問技師聘用ノ費用ハ本鐵道勘定ヨリスルト否トヲ問ハス支那政府之ヲ負担スルコトノ了解ヲ得置キ之ヲ議事錄ニ留メ置クコト

貴電第四〇八号ニ關シ御來示ノ次第モ有之ニ付兔ニ角其舍ヲ以テ措置致スヘキモ其後支那側ニ依リ提出セル吉会線契約第二次対案ニ依レバ運輸會計両主任等主要問題ニ付テハ依然我方ノ主張ニ承服セズ其態度頗ル強硬ナルモノアリ右支那側対案ニスル我方針ニ付テハ既ニ岩佐理事ヨリ興銀本店ニ電票中ナルガ熟々思フニ我方ニ於テ絶対必要トスル両主任問題ニ關シテハ屢次實聞ニ達シ置キタル通先方ニ於テ如何ナル形式ニ依ルモ容易ニ之ヲ肯ズベキ色ナク本使ニ於テモ最近機會アル毎ニ曹汝霖ノ意嚮ヲ探ルニ努メタルモ遺憾ナガラ到底我方主張ヲ貫徹スルノ望ナク三月二十八日

七六七 三月二十九日 在中國小輪公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
運輸會計両主任問題ニ關スル我方主張貫徹ノ件 困難ナル事情並之ガ対策ニ付稟申及請訓ノ件  
第四八〇号 (三月三十日接受)

ノ手加減モ有之ニ付篤ト御考量ノ上至急何分ノ御電訓ヲ請

ノ土方興銀總裁ヨリ  
塙原政務局長宛

及請訓ノ岩佐理事來電送付ノ件

九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 七六九 七七〇

八三八

三月廿六日特第十一号電報ニテ請訓ノ通り譲歩シ得ヘキハ

讓歩シ残ル肝要ナル所ニ付最後ノ決心ヲナスヘキ時期ニ達

シタリト認メタルニ付昨廿八日谷委員同伴交通総長曹汝霖

ト会見シタルニ同交通総長ハ依然支那ヲ拘束セズ銀行ハ多

額ノ手数料ヲ貪ラザル模範的契約ヲ締結スル希望ヲ強硬ニ

主張シ会計主任運輸主任ノ如キハ何等ノ形式ヲ以テスルモ

到底同意スル余地無キノ旨ヲ言明セリ此態度並ニ周囲ノ事

情ヨリ推定スルトキハ予備契約文面通リノ本契約締結スル

事モ容易ナラズト認メラル此上ハ両主任問題ヲ撤回シテ尚

努力ヲ試ムヘキヤ又ハ交渉ハ之ヲ中止シ他日ノ好機会ヲ待

ツヘキヤヲ決定スヘキ必要アリ至急御協議ノ上何分ノ御指

図ヲ乞フ尤モ小幡公使ハ両主任問題ハ後日吉長鉄道委任經

理解除ノ要求アル時交換ニ復活スル見込ヲ以テ暫ク之ヲ譲

歩シ此際速ニ本契約締結スルヲ得策トスルノ意見ナリ

七六九 三月三十一日 土方興銀總裁ヨリ  
埴原政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉ノ困難ナル事情詳報方

岩佐理事ニ電訓ノ旨通報ノ件

秘第四八号 (四月一日接受)

秘第四九号 (四月一日接受)

大正八年四月一日

日本興業銀行

秘書役 斎藤 力

政務局長 塙原正直殿

拝啓第九回議事録写壹部御送附申上候間御査収被下度候

敬具

(附屬書) 三月二十六日附在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛書信

第九回議事録送付及中國第二次対案提出ニ閑スル件

第十二信

大正八年三月二十六日 在北京理事 岩佐 程蔵

土方久徵殿

拝啓昨二十五日第九回會議ヲ相開キ申候依例別紙會議録供

御高覽候當日ハ支那側ヨリ別紙写ノ如キ第式次対案ヲ受領

致候右対案ハ支那第一次対案ヲ修正シ第二次対案トセルモノニ有之候 敬具

(別紙) (一)

九 対中国借款善後策二閑スル件(二) 七七〇

大正八年三月廿一日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方 久徵

政務局長 塙原正直殿

拝啓在北京岩佐理事ニ対シ本日別紙ノ通り架電致候間写御

送附申上候 敬具

(別紙)

特第九号

貴電特第十二号落手目下詮議中ノ貴電特第十一号ノ申出ト

本電信ト大ナル変化ヲ感ズ予備契約文面通リニサヘ本契約

締結スル事容易ナラスト推定セラレタル事情詳細承知シタ

シ

七七〇 四月一日 斎藤興銀秘書役ヨリ  
埴原政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉第九回會議議事録送付

ノ件 附屬書 三月二十六日付在北京岩佐興銀理事ヨリ土方興  
銀總裁宛第十二信  
第九回議事録送付及中國第二次対案提出ニ閑ス  
ル件

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七七〇

八四〇

四、支那第一案第二十条ノ削除

権、右ハ必要ナシト存スルニ付削除セリ

五、第一条第一項

権、「会寧ニ至リ」ヲ「会寧ニ於テ」ト改メタリ

六、第二条第一項

権、会議ニテ議定セシ通り(以下議定ノ通りト称ス)

「開通費」ヲ「建設中ノ營業費」ト改メタリ

七、第二条第二項

権、議定ノ通り「起工」ヲ二個所共支那文ハ「開弁」ト

セリ日本訳ハ「開始」トセラレタシ

八、第七条第三項

権、貴方ノ主張通り銀行ヘノ元利金交付ノ場所ヲ東京ト

改メタリ

九、第九条第一項

権、議定ノ通り給与及経費ハ「本鐵道建設費又ハ」本鐵

道收入ヨリ支給スヘシト改メタリ

十、第十二条

権、支那ノ税関ニテハ鐵道材料ニモ課税スルヲ原則トス

ルモ借款契約ニ免税ノ明文ヲ有スルトキハ關稅等ハ免

十五、第十五条第二項ノ追加

権、貴方ノ主張通り剩余金処分ノ項ヲ追加セリ

十六、第十六条第四項

権、検査ハ「督弁又ハ總弁ト打合セノ上」執行ノコトト

シ又貴方ノ主張通り「検査スルモノトス」ト改メタリ

十七、第十六条第七項

権、貴方主張ノ趣旨ニ同意シ材料機械ノ注文ハ技師長ニ

於テ之ヲ定メ其数量等ノ取極メヲ為シタル後註文スル

コトノ意味ヲ追加セリ

十八、第十六条第九項

権、「工務主任」ナル語ハ不贊成ナレ共「保線技師」ヨ

リ権限ヲ広クスル事ニハ同意ナルヲ以テ「本鐵道技師」

ト改メタリ但シ右技師ハ「主任技師ニ」アラス主任技

師ニテハ技師長ト同一トナリ不贊成ナリ又議定ノ通り

其「傭聘」契約ハト改メタリ

十九、第十八条第一項

権、入札ヲ原則トシ入札ニ適セサルモノニ付キ除外例ヲ

認メタリ

二十、第十八条第二項

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七七〇

除セラルル事ニナリ居ルヲ以テ本鐵道所用材料機械ニ

関シ一切ノ關稅釐金稅免除ノ事ヲ加ヘタリ

又本条但書ノ「通行之稅」トハ日本ノ通行稅ノ意味ニ

アラス一切ノ印紙稅關稅等ヲ意味ス

十一、第十二条

権、他国トノ借款契約ニハ両國ノ距離遠クシテ不便ナル

ヲ以テ細則等ハ支那駐外公使ト協定ノ事ニナリ居ルモ

日支間ハ距離近ク交通便利ナルヲ以テ直接「督弁」ト

協定スルコトニ改メタリ

十二、第十三条第三項

権、貴方ノ主張通り「日本或ハ中華民国ニ於テ」ヲ削除

セリ

十三、第十四条第五項

権、貴方ノ主張通り東京ニ於ケル三銀行或ハ督弁ノ委託

セル其他ノ銀行ニ於テ送金ヲ取扱ヒ又議定ノ通り「中

華民国内督弁指定ノ場所ニ」送金スルコトニ改メタリ

十四、第十四条第六項

権、「協定済」ノ語ハ更ニ協定スルノ煩累アルニ付「交

通部公定」ノ新式方法ト改メタリ

三月二十五日第九回會議ニ於テ中國側提出ノ第一次對案ハ修正ヲ施シ

タルモノナリ

左記

銀行ヲ經テ東京ニ送金ノ上銀行ニ交付スルモノト

ス」ト改ム

「吉会鐵道借款契約草案」ノ次行「契約締結両当事者名義」ヲ削ル

第一條「借款ノ總額及名称」ヲ削ル

一、「会寧ニ至リ」ヲ「会寧ニ於テ」ト改ム

第二條「借款ノ用途」ヲ削リ

一、「開通費」ヲ「建設中ノ營業費」ト改ム

二、「六箇月以内ニ起工シ」ヲ「六箇月以内ニ開始シ」ト改ム

「實際起工ノ日ヨリ」ヲ「實際開始ノ日ヨリ」ト改ム

「五箇年以内ニ」ノ次「全部」ヲ削ル

第三条「借款ノ利率及利子支払」ヲ削ル

第四条「運輸ノ聯絡及鐵橋架設」ヲ削ル

第五条「借款ノ期限及元金償還」ヲ削ル

第六条「期日前ニ於ケル元金償還」ヲ削ル

第七条「元利金ノ交付手続」ヲ削リ

三、「前二項所載交付金額ハ政府或ハ督弁ノ便宜トスル

債ノ」ト改ム

第十四条「借款金ノ預入及引出手續」ヲ削リ

五、「建設費ハ毎月督弁ヨリ通知スル見積額ニ依リ東京ニ於ケル銀行或ハ督弁ノ委託スル其他ノ銀行ヨリ順

次中華民国内督弁指定ノ場所ニ送金シ本鐵道ノ用途ニ供セラル迄預金ト為シ置キ隨時引出ヲ待ツモノトス」ト改メ

六、「日華兩文ニテ」ノ次「協定済」ヲ「交通部公定ノ」ト改ム

第十五条「借款金額不足ノ場合ニ於ケル資金調達」ヲ削リ

「本公債募集金並其利子云々」ヲ第一項トシ「右不足額ヲ支出ス」ノ次「或ハ銀行ニ於テ更ニ發行スル公債」ヲ「或ハ銀行ト協議ノ上更ニ公債ヲ發行シ其」ト改メ本項末尾「準拠ス」ヲ「準拠スルモノトス」ト改メ

第二項トシテ左ノ一項ヲ加フ

二、「本鐵道ノ建設及設備完成後本借款金額中使途ヲ有セサル剰余金ヲ生シタル場合ニハ一時之ヲ銀行ニ預入シ同時ニ鐵道局ニ於テハ之ヲ資本勘定ニ繰入レ本

九 対中国借款善後策二關スル件(二) 七七〇

第八条「担保品」ヲ削ル  
第九条「鐵道警察」ヲ削リ

第十条「債券ノ印刷及毀損紛失」ヲ削ル

第十二条「其給与及経費ハ」ノ次ニ「本鐵道建設費又ハ」ヲ加フ

第十三条「税金免除」ヲ削リ

「政府ハ本公債証書利札及本公債元利金ノ受払並本鉄道所要ノ各種材料及機械ニ関シ本借款期間内一切ノ関税及釐金税ヲ免除スルコトヲ承諾ス但各鐵道共通ノ課税ハ規定通り之ヲ完納スヘキモノトス」ト改ム

第十四条「公債募集目論見書及手続細則」ヲ削リ

「明文ノ規定ナキモノハ銀行ニ於テ」ノ次「日本駐劄中華民國公使」ヲ削リ「督弁ト之ヲ協定スヘシ」ト改ム

第十五条「公債ノ發行回数及政府手取額」ヲ削リ

三、「銀行ハ日本或ハ中華民國ニ於テ其」ヲ「銀行ハ公

鐵道改良拡張ノ予備金トナスモノトス」

第十六条「建設管理權及督弁以下人員ノ規定」ヲ削リ

四、「監查人ハ」ノ次ニ「督弁又ハ總弁ト打合ノ上」ヲ加ヘ「検査スルコトヲ得」ヲ「検査スルモノトス」ト改メ

五、「末文「及見積等ヲナシ」ノ次「並」ヲ削リ「工事ヲ指揮監督ス」ノ次「ス」ヲ「シ」ニ改メ更ニ「並ニ

鐵道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ノ取極ヲナスモノトス」ヲ加フ

八、「技師長之ヲ定メ督弁ニ通告」ヲ「技師長之ヲ定メ次行「督弁ニ通告シ」ヲ「督弁ニ申告シ」ニ改メ

九、「技師長ノ任務終了シタル場合」ヲ「技師長ノ任務終了シタルトキハ督弁ヨリ技師長ノ職ヲ解クヘシ但」ト改メ「保線技師」ヲ「本鐵道技師」ト改メ

「任命シ」ノ次「技師長ノ職ヲ解クヘシ保線技師ハ」ヲ削リ同項末尾「保線事務ヲ掌ル」ヲ「保線事務ヲ掌ラシムヘシ」ト改メ「其契約」ヲ「其備聘契約」ト改ム

九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 七七一

八四四

十一、「解免スヘキ旨ヲ通知シ」ノ次「並ニ其ノ理由ヲ  
言明シ」ヲ削ル

第十七条「収入金ノ処置」ヲ削ル

第十八条「材料購買規定」ヲ削リ

一、「購買セントスルトキハ」ノ次「入札ニ適セサルモノ  
ノノ外」ヲ加フ

二、「銀行」ヲ「政府」ト改メ「建設中」ノ次「ニアリ  
テハ銀行ヲ」ト改メ「ニ依リ」ヲ「シ」トシ「輸入  
スキ」ヲ「輸入スル」トシ「取扱人ヲ撰定スル」  
ヲ「取扱人トナス」ト改ム

三、「購買実価及其」ヲ「購買実価及実価」ト改メ「取  
扱手數料ヲ受ク」ノ次ニ「右取扱手數料ハ外国ヨリ  
購買スル物品ニ限リ支給スルモノトス」ヲ加ヘ「督  
弁ニ」以下ヲ「督弁ノ許可ヲ受クヘシ」ト改ム

四、「品質」ノ次「最良ナルモノヲ」ト訂正

六、「監査人」トアルヲニヶ所共「検査人」ト改ム

九、全項削除

第十九条「支線ノ建設」ヲ削ル

第二十条 全条削除

第二十二条、第二十三条、ヲ夫々第二十条、

第二十二条、第二十三条、トシ「事変ノ場合ニ於ケ  
ル処置」「権利義務ノ移転」等見出シヲ削ル

以上ノ外

第一条第一項金貨公債——円ヲ空白トス

第七条第五項毎回千分——即千円ニ付——ノ取扱手數料ヲ

空白トス

第十三条第四項手數料ハ百分ノ——即百円ニ付——トスヲ

空白トス

第十八条第三項購買実価及実価百分ノ——ノ取扱手數料ヲ

空白トス

註 右「以上ノ外」以下ノ修正ハ中國側ノ第一次対案ニ對スル  
日本第二案(前掲七五七文書ノ附屬書)ノ註及同附屬書二  
参照)ニ閑スルモノナリ

七七一 四月五日 在中國小幡公使宛(電報)

吉会鐵道借款契約交渉ハ打切ラザル様程好ク

応酬方岩佐理事へ注意アリタキ件

第四六五号

貴電第四八〇号ニ閑シ

吉会鐵道会計運輸両主任問題善後措置方ニ付テハ目下關係  
各方面トノ間ニ折角審議中ニ付確定ノ上ハ直チニ電報スヘ

キモ差当リ岩佐理事ニ於テ本件交渉ヲ打切ラザル程度ニ於  
テ程能ク應酬シ置ク様為念注意シ置カレ度尚興業銀行ヨリ  
モ同理事ニ委細申送ル趣ナリ

(附屬書)

特第十三号

第九号落手三月二十五日支那側ヨリ受領シタル第二次対案  
ハ尚相当協議又ハ字句ノ修正ヲ要スル所アレドモ三月二十  
六日特第十一号ニテ請訓シタル處ヲ第二次會議ニ於テ當方  
ヨリ讓歩スルニ於テハ結局双方ノ間ニ残ル意見不一致ノ肝  
要ノ處ハ會計主任、運輸主任問題三手數料ノ率ノ問題ナル  
ヘキヲ以テ小幡公使ト協議ノ上一面第二次會議ヲ開クト共

ニ他方此ノ重要点ニ付曹汝霖ト直接交渉ヲナス事ニシタリ  
権量ハ津浦鐵道借款契約ニ規定無キ両主任問題ノ如キハ委  
員トシテ交渉ノ權限無シト主張スルヲ以テナリ曹汝霖ノ意

向ハ小幡公使ニ於テモ從來機會アル毎ニ探索スルニ努メラ  
レ甚タ強硬ナルヘシトハ予想セシモ愈會見ノ結果其ノ態度  
甚夕明白強硬ニシテ両主任問題ノ如キ津浦鐵道借款契約ニ  
無キモノハ形式ノ如何ヲ論セス容易ニ承諾スルノ様子無ク  
三手數料ノ如キモ津浦鐵道借款契約同様ニテハ日支親善ノ  
趣意ニ反シ且予備契約締結當時ノ趣意即チ模範的ニアラズ  
トシテ反対セリ尚津浦鐵道借款契約ニテハ表面上ノ率全部

ヲ公債發行銀行ニ於テ獲得シタルモノニアラズトノ理由モ

拝啓昨日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送  
附申上候 敬具

九 対中国借款善後策二閑スル件(二) 七七二

株式会社日本興業銀行 総裁 土方久徵

総裁 塙原正直殿

政務局長 塙原正直殿

附屬書 四月三日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛  
電報特第十三号

大正八年四月五日 (四月七日接受)

吉会鐵道借款契約交渉ノ至難ナル事情詳報

岩佐理事來電送付ノ件

拂啓昨日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送  
附申上候 敬具

八四五

亦アルモノト推察セラル是予備契約文面通リノ契約ヲ締結スルコトサヘ困難ナリトスル要点ナリ此ノ他公債期間内外

国品物購入優先権ノ規定(銀行案第十八条第七項末尾)契約文疑義決定ノ規定(銀行案第二十五条)ノ如キモ容易ニ

当方ノ提案ニ同意セシメ難シト認メタルヲ以テ最早遲疑スヘキニアラスト勘考シ特第十一号ノ請訓ヲナシタル次第ナリ

ス更ニ特第十二号請訓ヲナシタル次第ナリ

ヘキニアラスト勘考シ特第十一号ノ請訓ヲナシタルニ拘ラ

ス更ニ特第十二号請訓ヲナシタル次第ナリ

貴電特第十二号特第十三号落手目下外務省大藏省並ニ関係者協議中追テ何分ノ指図致スヘシ手数料等ニ闇スル先方ノ意向其他ノ情報ハ探知次第電報セラレタシ

七七四 四月九日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道借款契約交渉ノ遷延ハ問題ヲ更ニ紛糾セシムル虞アルニ付至急關係者側トノ議ヲ

纏メラレタキ件

第五三五号 (四月十日接受)

貴電第四六五号ニ闇シ

秘第五三号 (四月七日接受)

大正八年四月五日

株式会社日本興業銀行

總裁 土方久徵

政務局長 増原正直殿

拝啓在北京岩佐理事ニ対シ本日別紙ノ通り架電致候間写御

送附申上候 敬具

(別紙)

以テノ外ノコトニシテ曹縕長モ之ヲ聞キ非常ニ不快ノ感ヲ起シ居レリ何レニシテモ自分ハ飽迄正々堂々商議ヲ進行シタキ所存ナル旨語リタル趣趣ナルガ右ノ如キ浮説カ如何ナル

経路ニ依リ支那当局ノ耳ニ入りタルヤ否ヤハ暫ク之ヲ措キ

兎ニ角荏苒時日ヲ経過セシムルハ為メニ或ハ益々問題ヲ紛糾セシムルコトナキヲ保シ難ク決シテ策ノ得タルモノニ無

之ト信ゼラルルノミナラズ元来問題ハ運輸会計両主任ノ件ヲ潔ヨク撤回シテ其ノ代リニ他条項ヲ津浦線通リニ承引セ

シムル必然ラザレハ一切ノ商議ヲ一先中止スルカノニ途ヲ出デズ仮令銀行側其ノ他關係者ニ於テ両主任問題ヲ撤回ス

ルノ代償トシテ他ニ新条件ヲ提出セントスルカ如キ意嚮アリトスルモ當方面實際ノ狀況ニ顧ミ到底先方ヲシテ承諾セシムルコト困難ナルニ付其辺モ篤ト御考慮ノ上速力ニ關係者側ノ議ヲ纏メラレ結果郵報アリタシ

第六〇〇号 貴電第五三五号ニ闇シ

本件ニ闇シテハ其後關係者間ニ篤ト協議ヲ尽シタルガ会計運輸両主任ノ傭聘ハ鐵道ノ經營上及資金ノ監督上ヨリ云フ

モ將又公債募集ノ關係ヨリ云フモ極メテ緊要ニシテ到底我要求ヲ撤回スルコトヲ得ズ又去リトテ現状ノ傭ニテハ支那

側ノ同意ヲ得ルコトモ極メテ困難ノ趣ニ付本件展開ヲ因ル

テハ交換条件トシテ我方ニ於テ吉長鐵道經營代弁權ヲ拋棄スルノ案乃至(二)吉会鐵道ノ經營ハ会計及運輸ノ實權ヲ有ス

ル外人傭聘ノ件等ニ付津浦鐵道ノ實際ニ準ズベキコトヲ契約文義如何相成居ルヤ荏苒遲延スルハ却吉会線ノ件其後ノ御詮議如何相成居ルヤ荏苒遲延スルハ却

七七五 四月二十一日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道問題ニ闇シ至急協議決定方稟請ノ件

第五八二号

九 対中国借款善後策ニ闇スル件(二) 七七五 七七六

約以外ノ文書ヲ以テ約シ且万一元利支払遲滞ノ場合ニハ運輸会計両事務ハ銀行側ヨリ推薦スルモノニ於テ主宰スヘキ旨取極ムルノ案ニヨリ本件商議ノ進捗ヲ図ルヘシトノ議アリタルモ第一案ハ支那側ニ於テ万一不同意ノ場合ハ我方ニ

於テ吉長鉄道經營代弁權ハ場合ニヨリテハ拠棄スルモ差支ナシトノ内意アルヲ示スコトトナリ徒ラニ右代弁回収問題ノ端ヲ開ク虞アリ又第二案ハ単ニ公債発行ノ関係ヨリ云フモ運輸会計両主任ノ傭聘ハ是非必要ニシテ津浦鉄道ノ實際ニ準スルノミニテハ不十分ナリトテ大蔵省側ニ反対意見アリ第一案第二案共纏マルニ至ラズ且諸般ノ狀況ヲ考慮スルニ目下此種ノ交渉ヲ進ムルコトハ時機ヲ得ザルヤニモ思考セラルニ付旁々結局本件交渉ハ暫ク見合セ懸案ノ儘他日適當ノ機会ヲ俟ツコトスルノ外ナカルヘシト思考セラルル處右ノ如ク懸案トスル方法宜シキヲ得ザルニ於テハ予備契約ニハ本契約締結ノ期限ヲ定メアル關係上本鉄道ニ閲スル我権利自体ニ付問題ヲ起ス虞レナシトセズ而モ新借款團問題支那鐵道國際管理問題等ノ進展如何ニヨリテハ意外ノ影響ヲ招クコトナキヲ保セザルニ付此点ハ如何ニセハ右ノ如キ懸念ナキヲ得ヘキヤ篤ト考慮ヲ要スル次第ナルカ右ニ

（附記一）  
吉会鐵道善後措置方ニ閲スル閣議案（四月二十五日ノ閣議ニ提出）

#### 閣議案

目下興業銀行代表者ニ於テ支那政府トノ間ニ交渉中ナル吉会鐵道借款問題ハ支那政府ニ於テ我要求ニ同意ヲ表セサルモノ尠カラス就中會計運輸主任傭聘ニ閲スル我主張ニ対シテハ其ノ本鐵道予備契約ニ規定ナキノ故ヲ以テ強硬ニ反対セル為メ問題行惱ミ居レル處会計運輸両主任ノ傭聘ハ鐵道ノ經營上及資金ノ監督上ヨリ云フモ將又公債募集ノ關係ヨリ云フモ極メテ緊要ニシテ到底我主張ヲ撤回スルコトヲ得ザルト共ニ現状ノ儘ニテハ支那政府ノ同意ヲ得ルコトモ前記ノ通り極メテ困難ナリ從テ本件ハ他ニ何等展開ノ方法ヲ講スルコト必要ト認メラレタルヲ以テ關係者協議ノ結果左記第一案乃至第二案ニヨリ本件ノ進捗ヲ図ルコト然ルヘシトノ意見ニ大体一致セリ蓋シ右第一案ノ吉長鉄道經營代弁權ハ支那政府ノ鐵道經營ニ閲スル近年確定方針ニ徴スルモ將又其ノ面目問題トシテ考慮スルモ支那側ニ於テ之ヲ回収

スルノ希望ヲ有スルコト言ヲ俟タザル所ナルト共ニ日本ト

シテモ代弁權ヲ拠棄スルトモ技師長会計運輸両主任等ヲ依然傭聘セシメ置クニ於テハ事實上重大ナル不利益ヲ蒙ルコトナキノミナラズ僅々八十哩ニ過ギザル吉長鉄道ノ代弁權ヲ拠棄シ二百余哩ノ吉会線ニ付スル我権利ヲ確定シ両鐵道ヲ挙テ同一經營ノ下ニ置クハ寧口我ニ取り有利ト認メラル

將又第二案ニ所謂津浦鉄道ノ実狀ハ別紙参考書ノ通リニ付兔モ角斯クノ如クニシテ鐵道ノ運輸及會計事務ニ閲与スルノ途ヲ開キ実際問題トシテ我目的ノ貫徹ヲ期スルコトトスヘシ

第一案 支那政府ニ於テ本件運輸会計両主任傭聘ニ同意スルニ於テハ交換条件トシテ當方ニ於テ吉長鉄道經營代弁權ヲ拠棄スルコト（吉長鉄道借款契約ヲ普通ノ借款契約ニ引直スコト從テ吉長鉄道技師長會計運輸両主任ハ依然其ノ職ニ留マルコト勿論ナリ）

第二案 吉会鐵道借款契約ニハ運輸会計両主任傭聘ニ閲スル規定ヲ設ケザルト共ニ吉会鐵道ノ經營ハ外人傭聘ノ件

其ノ他一切ノ事項ニ付津浦鉄道ノ實際ニ準スヘキ旨ヲ契約以外ノ文書ヲ以テ約シ且万一支那政府ニ於テ本借款ノ

政府トノ間ニ成立セル同鐵道借款予備契約ニ規定ナキ事項タルノ故ヲ以テ支那政府ニ於テ同意ヲ表セザルモノ尠カラズ就中會計運輸両主任備聘ニ闇スル我主張ニ対シテハ強硬ニ反対セル為問題行惱ミ居レルガ會計運輸両主任ニ闇スル我主張ヲ撤回スルニ於テハ啻ニ本公債ノ發行ヲ困難ナラシムルノミナラズ吉会鐵道借款ニ次テ交渉セラルヘキ滿蒙四

鐵道及山東ニ鐵道借款ノ条件ニモ自然影響ヲ及ボス次第ニ到底我方ノ同意シ得ベキ所ニアラズ去リトテ支那側ノ同意ヲ得ルコトモ前記ノ通り困難ニ付何等他ニ展開ノ方法ヲ講ズルニアラザレハ本件借款ハ一先打切ルノ外ナカルベキ

モ我方トシテハ予備契約ノ範囲外ノ事項ニ付支那側ノ同意ヲ得ザルノ故ヲ以テ直チニ交渉ヲ中止スルハ聊カ考慮ヲ要スルモノアルヘシ  
仍テ過般埴原政務局長芳沢參事官森理財局長及美濃部朝鮮銀行總裁土方興業銀行總裁山成台灣銀行理事龍居満鐵理事其他会合シ所見ヲ交換シタル結果本件ハ已定ノ方針通り本鐵道借款契約乃至附屬文書ニ於テ支那政府ハ會計運輸両主任ヲ備聘スヘキ旨ノ規定ヲ設クルコトヲ希望スルモ右ニシテ到底支那側ノ同意ヲ得ル見込ナキニ於テハ左ノ方法ニ

ヨリ本件ノ解決ヲ圖ルコト然ルヘントノコトニ意見一致セリ

第一案 支那政府ニ於テ本件會計両主任備聘ニ闇スルニ於テハ交換条件トシテ當方ニ於テ吉長鐵道經營代弁權ヲ拋棄スルコト(尤モ吉長鐵道技師長會計運輸両主任ハ依然其ノ職ニ留マルコト勿論ナリ)

第二案 吉会鐵道借款契約ニハ會計両主任備聘ニ闇スル規定ヲ設ケザルト共ニ吉会鐵道ノ經營ニ就テハ總テ例ヘバ備聘外人ノ如キニ付テモ津浦鐵道ノ實際ニ準スヘキ旨ヲ契約以外ノ文書ヲ以テ約シ且万一支那政府ニ於テ本借款ノ元金若ハ利子ノ支払ヲ遲滯スルトキハ本鐵道ノ運輸會計両事務ハ銀行側ヨリ推薦スルモノニ於テ主宰スヘキ旨取極ムルコト

右ニ対シ大藏省ヨリ上司ニ經同ノ結果本案ニ同意ナル旨又三銀行ヨリモ正式ニ同様同意ナル旨又満鐵ヨリハ本社ヨリ満鐵トシテハ第二案ニ異議ナキモ第一案ハ避ケタキ旨回答アリタル趣夫々申出アリタリ

右第一案ノ交換条件タル吉長鐵道經營代弁權ハ之ヲ一面ヨリ觀察スレハ鐵道管理權若ハ經營權ヲ外國資本家ニ許与セ

ザルヲ主眼トスル支那政府近年確定ノ方針ヲ破壊セル一特例ニシテ支那政府トシテハ之カ回収ノ希望ヲ有スルコトハ素ヨリノ所ナルト共ニ日本トシテハ代弁權ヲ拋棄スルトモ技術長會計主任運輸主任等ヲ備聘セシメ置クニ於テハ事實上左迄不利益ヲ蒙ルコトナカルヘク而モ僅々約八十哩ニ過キナル吉長鐵道ノ代弁權ヲ拋棄シ二百餘哩ノ吉会線ニ対スル我權利ヲ確定シ兩鐵道ヲ拳ケテ同一經營ノ下ニ置クコトハ寧ロ我ニ取り有利ナルヤニ思考セラル満鐵トシテモ素ヨリ絶対ニ同意シ難シトスル次第二ハアラズト認マラルニ付本件代弁權拋棄案ハ正ニ考慮ニ値スル問題ナリ尤モ右代弁權ハ大正四年ノ満蒙條約ノ結果開議ノ決定ニ基キ支那側ニ交渉セラレタルモノニ付若シ之ヲ拋棄スルコトナルニ於テハ先ツ以テ開議ニ於テ決定スルコトヲ要スヘシ將又第二案ニ所謂津浦鐵道ノ實状ハ別紙<sup>(註)</sup>ノ通りニシテ實際問題トシテ同様ノ義ヲ要求スルハ至当ノコトト思考ス

以上ノ方法ニヨリ本件交渉ノ進捗ヲ圖ルカ若ハ交渉ヲ一先ツ打切ルカ孰レトモ速ニ我方針ヲ決定スルコト然ルヘク現状ノ儘ニテハ在支公使ノ意見ニ徵スルモ到底我目的通り交渉ヲ進ムルコト困難ナリ

七七七 四月三十日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道問題交渉打切ノ不得策竝最良ノ解決

方法ハ津浦線契約ニ準拠シテ本契約ヲ締結ス

## ルニ在ル旨意見回示ノ件

第六三五号 (五月一日接受)

貴電第六〇〇号ニ閲シ

兩主任ノ傭聘ガ資金ノ監督鉄道ノ經營及公債募集ノ關係ノ如キ必須ノ条件タルコトハ素ヨリ申迄モナキ次第ナルモ今日迄交渉ノ状況及予備契約ノ明文ノ存在ニ照シ支那側ノ断乎タル決心ハ殆ンド之ヲ動カスノ見込之ナク、然ルニ貴方ニ於テハ此際一先ツ交渉ヲ打切り他日適當ノ時機ヲ俟ツヲ得策ナリト思考セラルヤニ認メラルモ所謂他日適當ノ時機ナルモノハ果シテ何レノ時ニ到来スペキ力、其辺ニ付關係者間ニ於テ何等力算ヲ有セラル次第ナルヤ本使ノ見ル処ニテハ已ニ予備契約ノ明文嚴存スル以上支那側ヲシテ我方注文通ノ条件ヲ悉ク採用セシムルコトハ到底不可能ナル可ク、将来何ノ時ヲ俟ツモ何等力先方ニ最モ有利ナル交換条件ニテモ提供セザル限り吾希望実現ノ期ハ殆ント之レナルカシト信ズ從テ今回ノ機会ニ於テ交渉ヲ打切ルコトハ結局吉会鐵道問題ヲ明治四十二年ノ約束當時ノ状況若クハ滿蒙五鉄道ニ於ケル山座公使覺書同様ノ状態ニ置クモノニテ其内ニハ曹汝霖ノ如キ關係者モ去り、時代ノ変遷ト

ザル今日斯カル問題ヲ提供セラルハ甚ダ其意ヲ得ズトテ其要望ヲ退ケ置キ先方ニ於テモ他日之ヲ提供スルノ意思ヲ留保シテ引取リタル事情ニ基ルモ吉会鐵道調印後ニ於テモ支那側ヨリ必ズヤ本問題ヲ提議シ來タルコト殆ンド疑ヲ容レズ而シテ此場合ニ吉長代弁權放棄ノ代償トシテ現ニ問題トナリ居ル兩主任聘傭ヲ承諾セシメ同時ニ他日滿蒙山東諸線借款本契約商議ノ際又ハ其他ノ場合ニ於テ必然生ズルコトアルベキ難件ヲモ一併解決ヲ期スル方然ルベント思料ス之ヲ要スルニ四困ノ状況ニ顧ミル時ハ本件交渉ヲ打切り千仞ノ功ヲ一簣ニ欠クガ如キ擧ニ出ヅルコトナク此際是非共難キヲ忍ビテモ一先ツ前記卑見ノ如キ趣旨ニテ本契約ノ締結ヲアシ置ク方万全ノ策ナル可シト思考セラルニ付茲ニ再応吾ガ當局ノ痛切ナル考慮ヲ迎ヘタク右卑見ニ對スル御詮議ノ経過ニ付テハ更ニ至急何分ノ儀御電報ヲ請フ

七七八 五月十三日

(在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

吉会鐵道問題解決方ニ閲シ請訓ノ件

第七一二号

(五月十四日接受)

往電第六三五号ニ閲シ未ダ何等ノ御回訓ニ接セザル処御承

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七七八 七七九

共ニ本件ハ他日新タナル案件トシテ再ビ交渉ヲ開始スルノ困難ニ陥ルニ至ルベキハ殆ンド疑ヲ容レザル處ナリ例へバ四国借款團ノ改造、支那鐵道國際管理問題等ヲ控へ変転極リナキ支那国情ニ想到スル時ハ本使ハ益々其ノ感ヲ深クスルト同時ニ吉会鐵道問題ノ前途ニ対シ甚シキ不安ヲ覚エザルヲ得ザル次第ナリ就テハ此際ニ處スル最良ノ解決方法ハ累次電票ノ通り兎ニ角津浦線契約ニ準拠シタル本契約ヲ締結シテ予備契約ニ基ク吾ガ権利ヲ一応確定シ置クト同時ニ果シテ大藏省ノ所見ノ通り右ニテ公債募集ニ困難ヲ感ズル場合ニ處スル措置トシテ本契約調印ト同時ニ兩主任傭聘ノ議纏マラザル為或ハ公債發行上困難ナキヲ保シ難シトノ理由ヲ指摘シ右ノ如キ場合ニハ本契約ノ履行ハ右困難ヲ除去シ得ル時機迄之ヲ延期スルコトアルベキ旨ヲ予告シテ之ニ對スル支那側ノ同意ヲ取付置クコトトセバ公債發行困難ノ場合ニ於ケル我方責任ヲ予メ防止シ得ベキノミナラズ他日兩主任傭聘問題再議ノ引懸リトモナルベキカト思考セラル況シヤ昨年末本使着任早々權量ガ曹汝霖ノ内意ヲ含ミテ來訪シ吉会鐵道ノ布設ハ廳テ吉長鐵道ノ日本代弁關係ヲ解除スルノ必要ナル旨ヲ縷述シ本使ハ吉会鐵道ノ契約モ成立セ

知ノ通り政局動搖シ交通部當局ノ地位ノ如キ或ハ変動ヲ見ントスル折柄一日モ速ニ何レカ本件ノ結末ヲ付ケ置クコト絶対必要ト認メラルニ付至急何分ノ御電訓ヲ請フ

七七九 五月二十一日 (在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報))

吉会鐵道問題ニ閲シ其後ノ審議ノ経過乃至現

状電示方稟請ノ件

第七五二号

往電第七一二号ニ閲シ

未ダ何等御示達ニ接セザル處急速何レカ本件ノ解決ヲ付クルノ必要ニ迫リツツアルハ累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通りニシテ兎ニ角吾方ノ要求ヲ撤回シテ此際予備契約規定ヲ基礎トシ本契約ヲ結ビ置ク方得策ナリトスル本使ノ意見ニシテ不幸ニシテ他關係ノ向ノ同意ヲ得難キニ於テハ当初貴電第六〇〇号御来示ノ通吾既得權ヲ留保ノ形式ニ於テ一先商議ヲ中止セシムル外之ナク要スルニ問題ハ右二者其ノ何レヲ執ル方得策ナリヤト云フニ過ギザル次第ナルガ或ハ關係者間ニ於テ更ニ種々ナル議論ニテモ起リ居レル次第ナリヤ

者間ニ於テ更ニ種々ナル議論ニテモ起リ居レル次第ナリヤ実ハ却テ支那側ヨリ商議ノ再開ヲ督促セラルノ現状ニテ

岩佐ハ勿論他關係者ニ於テモ右支那側ヨリノ督促ニ対シ挨拶ノ辭ニ窮シ居ル様ノ始末ナルニ付此ノ際セメテハ其後貴方ニ於ケル審議ノ経過乃至現状ナリトモ御電示仰ギタシ

七八〇 五月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛（電報）

津浦鉄道ガ釐金税ヲ担保トスルモ吉会鐵道ハ  
右ト事情ヲ異ニスル旨ヲ別文書ニ記載スベシ

トノ藏相ノ意見ニ付所見提示方要請ノ件

第七〇六号（至急）

貴電第六三五号ニ閲シ

吉会鐵道借款本契約ハ此ノ際運輸會計両主任ニ閲スル規定

ヲ設ケズ大体予備契約ノ範囲内ニテ締結シ先権利ヲ確保シ置クト同時ニ別ニ文書ヲ以テ他日愈本公債發行ノ際運輸

會計両主任ナキ為メ募集困難ノトキハ支那政府ニ於テ右主任儕聘問題ヲ再考スヘシ云々ノ趣旨ヲ約シ以テ他日適當ノ機会ニ於テ両主任問題ノ解決ヲ図ルコト然ルヘシトノ方針

ニ大体内定シ居レル處大藏大臣ニ於テハ津浦鉄道ガ釐金税ノ如キ地方税ヲ担保トシ居レル為メ會計運輸両主任ヲ設ケズトモ公債發行ヲ為シ得タルモ斯ル租税ヲ担保トセザル吉

会線ニ付テハ事情大ニ異ナル所以ヲ右文書中ニ記載スヘシトノ意見ヲ固執シ居ラル為メ未夕方針確定スルニ至ラザル次第ナルガ元來津浦鉄道ニ於テ釐金税ヲ担保トセルハ鐵道及鉄道收入ヲ担保ニ供セザル結果ニ外ナラザルヲ以テ若シ右大藏大臣意見ノ如キ主張ヲナスニ於テハ自然支那側ヨリ釐金税ヲ担保トスルコトトナラバ鐵道及同收入ヲ担保トスルニ及バズ且同税ヲ担保トスル上ハ運輸會計両主任ヲモ設ケズトモ津浦鉄道ノ場合ニ公債發行可能ナリシ次第付吉会線ニ付テモ右ノ通り取極ムヘシト云フカ如キ申出ヲ為シ却テ面白カラサル結果ヲ誘致セムコトヲ虞ルル處一応右ニ對スル貴見承知致度シ

七八一 五月二十三日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛（電報）

吉会鐵道借款本契約ハ予備契約ノ範囲内ニテ

締結スルコト竝運輸會計両主任問題ハ別文書

ニ譲ルコトノ方針ニテ交渉再開方回申ノ件

第七六八号至急  
(五月二十四日接受)

貴電第七〇六号ニ閲シ本使ニ於テモ貴見ト全然御同感ニシテ要スルニ両主任承認問題ヲ他日ノ商議ニ留保スルコトヲ

得バ可ナル次第ニテ之カ為強イテ担保物件ノ如キ新規ニシテ而モ為ニ根本趣旨ニ动摇ヲ生セシムルガ如キ虞ナキニアザル問題ヲ持出スコト決シテ得策トハ思料致難シ最モ支那側ニ於テ右両主任承認問題ノ留保ヲ容易ニ承諾スヘキヤ否ヤハ今後尚一段ノ努力ニ俟タザルベカラザル次第ニ付右商議ノ掛引上場合ニヨレハ大藏省ノ主張ヲモ援用スルコト或ハ得策ナルベク就テハ兎ニ角貴電前段御来示ノ趣旨ニ依ル文書交換ノ目的ヲ以テ一日モ速ニ商議ヲ再開スルコト致シタク折返シ何分ノ御回電アリタシ（二十三日）

（欄外註記）  
「八年五月二十七日閣議席上本電ノ趣旨ニテ取計方咸相承諾（内田外相印）」

シ速ニ本件ノ解決ヲ図ルコトニ決定シタルニ付右ニ御含ノ

上岩佐ヘモ伝ヘラレタシ又貴見ノ如ク両主任問題ノ留保ニ付支那側ヲ説得スル關係上必要ノ場合ニハ適宜往電第七〇六号大藏省意見ヲモ援用スルコト然ルヘシト思考スルニ付

此点ヲモ岩佐ニ申含メ置カレタシ尚其他日支間ニ懸案トナリ居レル条項ニ付テハ別電ヲ以テ申進スヘシ為念申添ニ

左記

（一）吉会鐵道借款本契約ハ會計運輸両主任問題ニ閲スル我主張ヲ（二）ノ通リ一応留保ノ上此ノ際兎モ角予備契約ノ範囲内ニテ締結シ権利ヲ確保シ置クコト

（二）本契約締結ト同時ニ日支間ニ文書ヲ以テ大体左ノ要旨ヲ約シ置クコト

「運輸會計両主任ノ傭聘ハ公債發行ノ成功ヲ期スル見地ヨリ極メテ緊要ニシテ畢竟日支両國ノ均シク利益ヲ受ク

ル所ト信スルモ予備契約ノ範囲内ニテ借款契約ヲ取極メ

タキ支那政府ノ切実ナル希望ニ顧ミ此際本鐵道借款契約ニハ運輸會計両主任傭聘ニ閲スル条項ヲ省クコトニ協定

ヲ了セリ然ル上ハ日本銀行家ニ於テハ誠実ニ本契約所定

ノ条件ニヨリ公債募集ノ為メ尽力スヘキコト勿論ナルモ

## 九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七八三

八五六

万一事実上右条件ニテハ到底公債募集ノ望ナキコト明瞭

ナルニ至ラバ支那政府ハ運輸会計両主任問題ニ付再考ス

ヘシ尚此ノ場合ニ於テハ本契約ノ履行ハ右困難ヲ除去シ

得ル時機迄之ヲ延期スルコトアルベシ」

(三) 斯クノ如ク兎モ角運輸会計両主任問題ニ付我主張ヲ留保シ置ク共ニ将来適當ノ機会及方法ニヨリ我主張ノ貫徹ヲ期スルコト

(附記一) 貴電特第二十号落手吉会鉄道本契約ハ文書ヲ以テ左記趣旨ヲ約定シ置クコトヲ必要条件トシ一応会計主任運輸主任傭聘ニ関スル吾主張ヲ留保シ予備契約ノ範囲内ニテ締結スルコトトスベシ

(附記二) 五月三十日土方興銀總裁在北京岩佐理事宛電報特第十四号 吉会鉄道問題交渉方針ニ関シ電訓ノ件

特第十四号

七八三 五月三十一日 内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

会計運輸両主任問題及懸案事項ニ付興銀ヨリ

岩佐ニ電訓シタル件

附記一 五月三十一日興銀ヨリ在北京岩佐理事宛電

報特第十四号

二 外務省ヨリ興銀ヘノ指達

右電訓

第七三六号

往電第七二七号ニ閲シ

会計運輸両主任以外懸案ノ事項ニ付テハ五月三十一日興業

銀行ヨリ貴地岩佐ニ電訓セシメ置キタルニ付詳細ハ同理事

ヨリ御聽取アリタシ

中ハ公債募集金ノ引出ニハ技師長ノ連署ヲ必要トスル規定ヲ原案第十六条中ニ加フル修正ヲ提案シ尚又既ニ協議済ノ件及当方ト打合セラ濟シタル事項以外ノモノハ總テ吾原案ヲ主張シ殊ニ諸手数料歩合ノ如キ支那側ヨリ減額ヲ請求ノ

場合ニハ日本側ハ既ニ原案ニ於テ津浦鉄道借款契約第二十条ニ規定スル鉄道利益參加ノ件ヲ讓歩セルニ付其以上ハ讓歩シ難シト主張セラレ度シ而シテ貴電特第十一号ヲ以テ請

訓ノ件ニ付シ四月二十一日付書面ニテ申送リタル覺書条項ニ付テハ両主任問題ヲ留保スル以上勿論吾原案ヲ維持スル方針ニテ鉄道收入金預入ニ閲スル第十七条第一項ハ是非トモ維持スルコトニ致シ度シ他ノ三事項ニ付テハ已ムヲ得ザル場合ニハ前記覺書ノ範囲内ニテ讓歩差支ナシ両主任ノ件ニ付テハ政府ノ方針ハ元ヨリ銀行團トシテモ他日更ニ適当ノ時機方法ニ依リ吾主張ヲ貫徹スル事ヲ期スルモノナレバ其御含ニテ万事小幡公使ト打合セ交渉セラレ度シ

(一) 鉄道建設中公債募集金ヲ引出スニハ技師長ノ連署ヲ必要トスルコト

(二) 鉄道收入ヲ日本ノ銀行ニ預金スル件ハ我原案ヲ主張スルコト

(三) 其他懸案ノ事項ハ一応我原案ヲ主張シ交渉ノ便宜ニ応シ四月一日大藏省送付<sup>(註)</sup>覺書所載ノ条件(但シ(一)ヲ除ク)迄ハ讓歩シ差支ナキコト

(尚手数料ノ歩合問題ハ原案ヲ維持スルヤ否ヤハ銀行ノ意見ニ委シ差支ナキコト)

(欄外註記)

(一)顧問技師聘用費用ノ件(二)銀行カ公債取扱人ノ代理者タル件等

(註) 大藏省送付覺書ニ付テハ前出七六六文書ノ附記參看(右覺書ハ四月二十一日附書面ヲ以テ興銀ヨリ在北京岩佐理事ニ通報セラレタリ)

(附記二) 会計運輸両主任問題以外ノ懸案事項ニ付外務省ヨリ興銀ヘノ指達(五月三十一日)

吉会鉄道問題

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七八四

七八四 六月七日 土方興銀總裁ヨリ  
吉会鐵道借款契約ニ關スル第三次本邦案ニ基

キ近ク交渉開始ノ旨ノ岩佐ヨリノ電報写送付ノ件

附屬書

六月五日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁宛電

報特第二十一号

日本第三次案作成二閑スル件

秘第七七号

大正八年六月七日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

政務局長 増原正直殿

拝啓昨日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送

附申上候 敬具

(附属書)

六月五日在北京岩佐理事發上方總裁宛電報特第二十一号

日本第三次案作成二閑スル件

特第二十一号

貴電特第十四号落手御訓電ノ趣意ニ依リ直チニ小幡公使ト

打合セノ上當方第三次提案ヲ作成セリ該案ニ基キ一両日中

ニ更ニ交渉ヲ開ク見込

右案ニ於テハ日本原案第十六条第十六項ヲ左ノ通り変更

シタリ

「本鐵道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタルトキハ督

弁ヨリ技師長ノ職ヲ解クヘシ但借款期間内ニアリテハ督

シタルトキハ督

貴電第七二七号ニ閑シ御決定ノ方針ニ從ヒ一両日中ニハ会

シ日本側意向説示ノ旨報告ノ件

第八三九号 (六月十日接受)

貴電第七二七号ニ閑シ御決定ノ方針ニ從ヒ一両日中ニハ会

シ日本側意向説示ノ旨報告ノ件

第八三九号 (六月十日接受)

外務省

政務局長 増原正直殿

拝啓六月五日付岩佐理事書面並吉会鐵道契約第三次案写御

送附申上候間御査収被下度候 敬具

(附属書)

第拾參信

大正八年六月五日 在北京

理事 岩佐程蔵

総裁 土方久徵

拝啓

貴電特第十四号落手後直チニ御訓電ノ趣旨ニ基キ當方意見

ヲ別案ノ如クニ作製致候右作製ニハ滿鉄谷委員ノ參加セシ  
ハ勿論小幡公使ニ於テモ全然同意ニ有之候右案中注意スヘ  
キ点左ノ通りニ有之候

一、別案第十六条第十項ヲ変更セシハ別案ニテハ運輸会計

兩主任ヲ除外シタルコトナレハセメテ技術者ナリトモ相

当有力ノモノト為シタシトノ満鉄ノ希望有之小幡公使モ相

異議ナキヲ以テ津浦鐵道ノ例ニ倣ヒ一応主張スルコトニ

致候即チ保線技師ハ權限頗ル小ナルヲ以テ技師長ヲ置キ

秘第七八号

大正八年六月十一日

日本興業銀行秘書役

附屬書一 六月五日在北京岩佐理事ヨリ土方興銀總裁  
宛第十三信写

二 右日本第三次案写

附屬書一 六月五日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御  
送付ノ件

吉会鐵道借款契約ニ閑スル日本側第三次案写

秘第七八号

九 対中國借款善後策二閑スル件(二)七八六

## 九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七八六

八六〇

以テ之ニ代ヘントスル次第ニ有之而シテ技師長ノ権限ヲ  
規定セザルハ任命後ノ事実上ノ働ハ技師長タルモノノ手  
腕ニ俟ツコトニスル趣旨ニ有之候

一、貴電特第十四号ニテハ技師長ノ Countersign ヲ必要  
トスル規定ヲ原案第十六条中ニ加フヘキ旨ノ処右ハ別案

第十四条第四項ノ如ク規定スルヲ可ナリト信シ第十六条  
ニハ変更ヲ加ヘス第十四条ノミニ止メシ次第ニ有之候

三、四月二十一日御書面ニテ御指図ニ相成候(イ)工事請負人  
ニ関スル件(乙)日本原案第十七条第一項削除ノ件(ハ)顧問技  
師ノ報酬及費用支弁ノ件(乙)日本原案第二十条削除ノ件ハ  
凡テ一応原案主張ノコトニ致候

目下排日氣分支那全土ニ澎湃トシテ本談判交渉ノ進行ニハ  
頗ル時ノ非ナルヲ覚悟候得共最善ノ努力ヲ試ミ度存居候余  
ハ後便ニテ可申上候 敬具

尚両主任問題留保ニ関シテハ別紙ノ如キ覚書ヲ作成スル  
見込ニ有之候

(別  
紙)

覚  
書

大正年月日即チ中華民国年月日中華民国政府

日本帝国大正年月日

中華民国年月日

財政総長

印

(附属書二)

日本興業銀行總裁 印

輔其他一切ノ設備費ヲ含ム)建設中ノ營業費及吉会鐵  
道借款予備契約ニ依リ支払フヘキ前貸金ノ元利並建設

中ニ於テ支払フヘキ本公債ノ利子ノ支弁ニ充ツ

二、本鐵道ノ建設ハ本契約調印後六箇月以内ニ開始シ銀  
行ハ此期間内ニ於テ所要ノ金額ヲ募集シ支出ニ備フル

モノトシ実際起工ノ日ヨリ五箇年以内ニ之ヲ完成スヘ  
シ

第三条

一、本公債ノ利率ハ額面金額ニ對シ一箇年百分ノ五トシ利  
子ハ半年毎ニ一回之ヲ支払ヒ公債發行ノ日ヨリ起算ス

二、政府ハ前項ノ利子ヲ鐵道建設中ハ本公債募集金ヨリ鐵  
道完成後ハ本鐵道收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ  
支払フモノトシ若シ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依  
リ之ヲ補足ス本項調達金ハ隨時政府ニ弁済セラレ並相当  
ノ利子ヲ附スヘキモノトス

第四条

本鐵道ノ利益ヲ増進シ並朝鮮鐵道トノ聯絡ヲ十分ナラン  
メンカ為メ政府及銀行ハ左記ノ事項ヲ約定ス

一、本鐵道ト朝鮮鐵道トノ相互ノ運輸ノ發達ト円満ナル

第二条

發行ノ日ヲ以テ其日付トス

一、本公債募集金ハ專ラ本鐵道線路ノ建設費(土地、車  
公債 円ヲ發行スルコトヲ承諾ス

二、本公債ハ中華民国政府五分利付吉会鐵道公債ト称シ  
發行ノ日ヲ以テ其日付トス

第二条

一、对中国借款善後策ニ關スル件(二) 七八六

八六一

## 九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 七八六

八六一

聯絡ヲ期スル為メ政府ハ日本國當該官憲ト聯絡運輸方法ニ付協定スルコト

二、政府ハ日本國朝鮮總督府ト共同シテ國們江ノ鐵橋ヲ架設シ政府ト朝鮮總督府トハ各該鐵橋架設費ノ半額ヲ負担スルコト

### 第五条

一、本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年間据置キ十一年目ヨリ四十年目ニ至ル向フ三十箇年間ニ第六条规定ノ場合ヲ除キ本鐵道收入ヨリ本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ年賦ニ依リ償還ス若シ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ之ヲ補足ス本項調達金ハ隨時政府ニ弁済セラレ並相当ノ利子ヲ附スヘキモノトス。

二、第十三条ニ依リ數回ニ分チ發行スル場合ニ於テハ第二回以後ノ据置期間及償還期限ハ第一回發行ノ日ヨリ起算スルモノトス

### 第六条

一、本公債發行ノ日ヨリ十箇年ヲ経過シタル後ハ何時タリトモ政府ハ本契約附表所載ノ期限ニ達セサル元金ノ全部又ハ一部ヲ臨時ニ償還スルコトヲ得

### 料ヲ受クルモノトス

### 第八条

一、本公債ノ全部及之ニ關聯シテ交付セラレタル前貸金ハ其元利ニ付現在及将来ニ於テ本鐵道ニ屬スル一切ノ動產及不動產並本鐵道ノ收入ニ依リテ第一位ニ担保セラル

二、第十五条ノ規定ニ基キ發行セラルヘキ公債モ亦前項ノ動產不動產及本鐵道收入ニ依リ本公債ト同順位ニ於テ担保セラル

三、政府ハ銀行ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ前二項ニ定ムル財產又ハ收入ヲ前二項以外ノ債務ノ担保ト為スコトヲ得ス

### 第九条

一、本鐵道全線ノ保護ノ為メ設クヘキ巡警隊ハ督弁ニ直屬シ警官及警兵ハ總テ中華民国人ヲ以テ之ニ充テ其給与及経費ハ本鐵道建設費又ハ本鐵道收入ノ中ヨリ支給スヘシ

二、鐵道保護ノ為メ政府ノ軍隊ヲ要スルトキハ其給与等ハ政府ヨリ支弁スヘシ

### 九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 七八六

二、前項臨時償還ノ場合ニ於テハ政府ハ六箇月以前ニ公文ヲ以テ銀行ニ通知スヘキモノトシ臨時償還ハ本公債募集目論見書ニ定メタル普通償還抽籤ノ期日ニ抽籤回数ヲ追加シ之ヲ行フモノトス

### 第七条

一、政府ハ銀行カ本公債事務ノ取扱者タルコトヲ承諾シタルニ付本契約附表所載ノ金額ニ從ヒ各期日十四日前モ亦期日十四日前ニ必要ノ元利金ヲ銀行ニ交付スヘシ

二、政府ハ第六条ニ規定セル臨時償還ヲ為ス場合ニ於テモ亦期日十四日前ニ此日本金預金ヲ以テ元利金ノ交付ラシ得ルモノトス

三、前二項所載ノ交付スヘキ金額ハ政府或ハ督弁ノ便宜トスル適宜ノ方法ニ依リ東京ニ送金ノ上銀行ニ交付スルモノトス

四、政府所有日本金貨ノ日本ニ於ケル預金アル場合モ亦期日十四日前ニ此日本金預金ヲ以テ元利金ノ交付ラシ得ルモノトス

五、銀行ハ本公債元利金ノ支払ニ付其ノ取扱金額ニ対シ定スルモノトス本公債証書ハ日・華両国文字ヲ以テ印刷シ交通總長ノ署名及交通部印ヲ印写シ且中華民國駐日公使ノ署名及官印ヲ印写シ以テ本公債ノ發行力政府ノ許可ニ依ルコトヲ証明シ本公債ヲ取扱フ銀行代表者ノ署名及職印モ亦之ニ印写サルモノトス

六、本公債証書ハ其流通ニ便ナラシムル為メ証書ニ日・華両国以外ノ外國文字ヲ以テ額面金額其他ノ要項ヲ記載スルコトヲ得

七、銀行ハ市場ノ都合ニ依リ本公債ノ全部或ハ一部ヲ日・華両国以外ノ外國ニ於テモ發行スルコトヲ得

八、本公債証書ニシテ紛失滅失シ又ハ盜取セラレタルトキハ銀行ハ直チニ交通總長又ハ日本駐劄中華民國公使ニ通知シ同時ニ該証書ノ支払停止ヲ新聞紙上ニ広告シ並関係國ノ法律慣習ニ従ヒ便宜又ハ必要ト認ムル措置ヲ執ルヘシ右公債証書ニシテ銀行ノ定メタル期間ヲ経

## 九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七八六

八六四

過シ尚未発見セラレサルトキハ交通総長又ハ日本駐劄  
中華民国公使ハ同額ノ副証書ヲ作成シ銀行ニ交付ス  
シ右ニ関スル一切ノ費用ハ総テ銀行ニ於テ之ヲ負担ス

### 第十一條

政府ハ本公債証書及利札並本公債元利金ノ受払及本鉄道  
所要ノ各種材料、機械ニ關シ本借款期間内諸税釐金税其  
他一切ノ公課ヲ免除スルコトヲ承諾ス但シ各鉄道一般ニ  
施行ノ課税ハ規定通り之ヲ完納スヘキモノトス

### 第十二条

本公債募集目論見書及元利金支払其他ニ關スル詳細ノ事  
項ニシテ本契約ニ明文ノ規定ナキモノハ銀行ニ於テ日本  
駐劄中華民国公使ト之ヲ協定スヘシ

### 第十三条

一、銀行ハ工事ノ計画並其進行ノ程度及市場ノ狀況ニ応  
シ本公債ヲ一回ニ又ハ數回ニ分チ發行スルコトヲ得但  
政府ノ同意ヲ得ルヲ要ス

二、本公債ノ發行価格ハ發行當時ニ於ケル市場ノ狀況ニ  
依リ政府ト銀行トニ於テ協議決定スルモノトス但出来得  
ル限り政府ニ有利ナラシムヘシ

### 第十四条

一、政府ハ本公債募集金ヲ以テ第一ニ吉会鐵道借款予備  
契約ニ依ル前貸金ノ支払ニ充当スヘク其残余ハ本鉄道  
勘定トシテ銀行ニ預入ルモノトス

二、前項預金ノ日本ニ在ル分ニ對シテハ本公債払込期日  
ヨリ起算シ年四分ノ利子ヲ附シ中華民国ニ在ル分ニ對  
シテハ銀行ノ普通ノ利率ニ従ヒ政府ニ有利ナル利子ヲ  
附スルモノトス

三、右預金及利子ハ其中ヨリ鐵道建設中ニ於ケル本公債  
利子支払及取扱手數料其他ノ費用ニ要スル金額ヲ控除  
シタル後銀行ニ於テ之ヲ保管シ督弁ノ引出ヲ待ツモノ  
ノトス

トス督弁ニ於テ一時ニ金貳拾万円以上ヲ引出サントス  
ルトキハ其引出期日十日前ニ之ヲ銀行ニ通知スルモノ  
トス

四、督弁ニ於テ前項ノ預金ヲ引出サントスルトキハ銀行  
ニ対シ技師長連署ノ支払命令ヲ出シ右支払命令ニハ其  
金額ノ費途證明書ヲ添附スヘキモノトス

五、建設費ハ毎月督弁ヨリ通知スル見積額ニ依リ順次中  
華民国内督弁指定ノ地ニ送金セラルヘシ右送金ハ銀行  
之ヲ取扱ヒ本鉄道ノ用途ニ供セラル迄在中華民国銀  
行ニ於ケル預金ト為シ置キ其引出ヲ待ツモノトス

六、鉄道ノ諸勘定ハ日華兩文ニテ交通部公定ノ新式方法  
ニ依リ記載シ且一切ノ証憑書類ヲ添附スヘシ

七、鐵道局ハ其營業開始後毎會計年度ノ終了ニ際シ日華

両文ヲ以テ記載セル本鉄道ニ關スル決算書ヲ公表スヘ  
シ

### 第十五条

一、本公債募集金及其利子ニシテ本鉄道建設中ニ支払フ  
ヘキ本公債ノ利子ヲ控除シタル後本鉄道ノ建設及設備

ヲ完成スルニ不足ナルトキハ政府ハ別途調達ニ依リ之

九 対中國借款善後策ニ關スル件(二) 七八六

八六五

八条ノ規定ニ基ク鉄道局外國材料購入ニ闕スル毎月明細書ヲ證明スルモノトス

六、監査人ハ本契約ニ規定セル職務ヲ執行スルニ有効ナル時期ニ於テ其検査ヲ執行スヘキ期日ヲ鉄道局ト協定スヘシ

七、技師長ハ日本人ヲ以テ之ニ充テ督弁ニ於テ選定シ銀行ト協議シ其承諾ヲ得テ之ヲ任用ス其傭聘契約ハ督弁

ニ於テ之ヲ定ム技師長ハ督弁又ハ総弁ノ命ヲ受ケ本鐵道線路ノ測量、設計、製図及見積等ヲナシ一切ノ工事ヲ指揮監督シ並鉄道建設ニ必要ナル材料機械其他ノ物件ノ取定メヲ為スモノトス

八、技術部所要ノ日華人員ハ技師長ヨリ人員表ヲ作成シ督弁ニ提出シ督弁之ニ依リテ任命ヲ行フ右人員各自ノ事務分担ハ技師長之ヲ定メ督弁ニ申告スルモノトス技師長ハ督弁又ハ総弁ヨリ内外専門技術員ノ任免及其事務ノ分担ニ付必要ナル措置ヲ執ルノ權限ヲ附与セラルヘシ

本鉄道ノ各区域ハ其完成スルニ從ヒ技師長ヨリ之ヲ督弁ニ申告シ督弁ハ事情ノ許ス限り速ニ當該区域ノ運輸

時ハ入札ニ適セサルモノノ外督弁又ハ総弁ニ於テ之ヲ入札ニ附ス

二、政府ハ本鉄道建設中ニアリテハ銀行ヲ指定シ外國ヨリ輸入スル一切ノ材料機械ヲ購買スヘキ取扱人ト為スモノトス

三、取扱者ハ本鉄道ノ為メ最モ有利ナル条件ヲ以テ右購買ノ入札約定又ハ註文ノ取扱ヲ為シ購買代金及其百分ノ五・取扱手數料ヲ受ク右取扱手數料ハ外國ヨリ購買スル物品ニ限り支給スルモノトス但購買註文及費用支出ニ付テハ技師長ヨリ督弁ニ申請シ其認可ヲ受ケタル後ニ非レハ之ヲ行フヲ得ス

四、取扱者ハ鉄道ノ建設及設備ニ必要ナル一切ノ外國材料ヲ購買スルトキハ一般市場ニ就キ価格最低ニシテ品質最良ナルモノヲ購買スヘシ右購買材料ニシテ中華民国ニ到達後註文明細書ニ符合セサルトキハ本鉄道局ハ之ヲ拒絶スルコトヲ得ルモノトス

五、外國材料機械其他ノ物件ヲ購買スルニ當リ其品質価格同一ナルトキハ最先ニ日本品ヲ購買スヘシ

六、送状及検査人證明書ハ之ヲ督弁或ハ総弁ニ提出シ各

九 対中國借款善後策二闕スル件(二) 七八六

ヲ開始スルモノトス

九、技師長ハ工事請負人ヲ推薦ス

十、本鉄道ノ工事完成シ技師長ノ任務終了シタルトキハ督弁ヨリ技師長ノ職ヲ解クヘシ但借款期間内ニアリテハ督弁ハ更ニ日本人一名ヲ撰定シ銀行ノ承諾ヲ得タル上技師長ニ任命ス其傭聘契約ハ督弁ニ於テ之ヲ定ム

#### 第十七条

一、本鉄道収入ハ遲滯ナク之ヲ銀行ニ於ケル本鉄道勘定ニ払込み場合ニ応シ定期預金又ハ当座預金トシ其利率ハ隨時銀行ト協定スルモノトス

二、本鉄道ノ収入ハ先ツ本鉄道ノ営業費及保存費ニ充テ次ニ本公債ノ元利金又ハ政府出資ノ元利金ヲ支払ヒ並ニ本契約附表所載ノ金額ニ従ヒ各期日六箇月以前ニ銀行ニ預託シ尚剰余アルトキハ政府ノ使用ヲ待ツモノトス

前項ノ預金ニ対シテハ銀行ハ市場ノ状況ニ依リ政府ニ有利ナル利子ヲ附スルモノトス

#### 第十八条

一、本鉄道ニ於テ材料機械其他ノ物品ヲ購入セントスル

種ノ割戻及割引ハ鉄道局ノ勘定ニ帰ス取扱者カ鉄道ノ為メニスル購買ニ付テハ總テ製造者ノ送状及検査人証明書ヲ以テ証憑トナス

七、取扱者ニ對シテハ前記取扱手數料ノ外別ニ手數料ヲ支給セス但購買ニ關シ顧問技師ヲ聘用スル場合ニハ鉄道局ハ本鉄道勘定ヨリ其報酬及費用ヲ支出スヘシ

八、中華民國産材料及其製品ニシテ其品質価格カ日本品又ハ他ノ外國品ト同一ナルトキハ中華民國産業獎勵ノ為メ最先ニ之ヲ購買スヘシ右購買ニ付テハ取扱者ニ手數料ヲ支給セス

九、取扱者ハ本鉄道完成後ニ於テモ本公債期間内ハ鉄道局所要外國品ノ供給ニ關スル取扱事務ニ對シテ優先權ヲ有スルモノトス其取扱条件ハ追テ之ヲ協定スルモノトス

#### 第十九条

政府ニ於テ今後本鉄道ニ有利又ハ必要ナル支線ヲ建設セントスル場合ニハ政府ハ中華民國ノ財源ヨリ生シタル資金ヲ以テ之ヲ為スヘク若シ外債ニ依リ建設セントスルトキハ銀行ニ優先權ヲ与フルモノトス

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七八七

八六八

第二十条

銀行ハ公債証書所持人ノ受託者タルモノトス從テ本公債ニ関スル事項ニ付本鐵道局ト銀行トノ間ニ交渉ヲ為ス場合ニ於テハ銀行ハ公債証書所持人ノ代理人タルヘシ

第二十一条

本契約調印後本公債募集目論見書發行前若シ市場及中華民国政府現存公債ノ市価ニ影響スヘキ政治上又ハ經濟上ノ事変發生シ銀行ニ於テ本契約ノ条件ニテハ本公債發行ノ成功不可能ナルヲ認メタル場合ニハ銀行ハ政府ト協定シ相當期間本契約ノ履行ヲ延期スルコトヲ得若シ右期間ヲ経過シ仍ホ其發行不可能ナルトキハ本契約ハ之ヲ無効トス此場合ニ於テ政府ハ予備契約ニ依ル前貸金ニ利子ヲ附シテ返済スル外銀行ニ對シ別ニ何等ノ報酬ヲ与ヘサルモノトス

第二十二条

銀行ハ本契約ニ依リ有スル權利ノ全部又ハ一部ヲ其負担スル義務ト共ニ他ノ日本人ニ譲渡シ又ハ委任スルコトヲ得但右譲渡又ハ委任ハ予メ本鐵道督弁ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第八四八号

(六月十二日接受)

六月十日岩佐權量ニ會見一応ノ説明ヲ与ヘタル所權量ハ昨今政局極メテ險惡ニシテ正式ニ會議ヲ開催スル時ハ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ計リ難ク就テハ差当リ極メテ秘密ニ談合ヲ進ムルコトニ致シ度キ旨述ベタル由ニテ委細岩佐ヨリ本店へ電報済ニ付右ニテ御承知アリ度シ政局ノ現状曹汝霖辭職ノ事実等ニ鑑ミ本件ノ解決ハ一層困難トナリタルヤニ認メラル

吉会鐵道交渉ハ暫ク休会トシ八月頃商議再開

然ルベキ旨權量ヨリ岩佐ヘノ内話モアリ事情

已ムヲ得ザルニ付右ニ同意ヲ与ヘタル件

第九二一号  
往電第八四八号ニ關シ  
(六月二十九日接受)

爾來御承知ノ通政局益紛糾ニ陥リタルニ加ヘ權量近親ニ不

幸アリ為ニ本件商議ヲ進捗セシムルコトヲ得ズシテ今日ニ及ヒタル次第ノ處六月二十七日岩佐ヨリノ申出ニ依レハニ

九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七八八 七八九

第二十三条

本契約ハ大正年月 日即チ中華民國年月 日大總統令ニ基キ調印シタルモノニシテ右大總統令ハ外交部ヨリ公式ニ中華民國駐劄日本公使ニ通告ヲ經タリ

第二十四条

本契約書ハ日華兩文ヲ以テ各四通ヲ作成シ政府ニ各參通ヲ保存シ銀行ニ各壹通ヲ保存ス若シ本契約ノ解釈ニ關シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決スルモノトス

財政總長 印  
交通總長 印  
日本興業銀行總裁 印  
中華民國年月日北京ニ於テ締結ス

日本帝國大正年月日  
財政總長 印  
交通總長 印  
日本興業銀行總裁 印

七八七 六月十一日 在中國小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)  
吉会鐵道借款契約交渉ハ政局險惡ニ付差當リ

秘密ニ付ヒタキ旨中國側委員申出ノ件

秘第八三号

七月二日 塙原政務局長宛

本案提出ノ旨報告ノ件  
(七月三日接受)

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七九〇 七九一 七九二

八七〇

總裁 土方久徴

外務省

政務局長 塙原正直殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通リ受信仕候間写御送

附申上候 敬具

(別紙)

特第二十四号

本一日吉会鐵道借款契約案ニ関シ第十回會議ヲ開キ第三次日本案ヲ正式ニ提出シタル八月中旬迄署中休暇ヲナスヘク打合ヲシタリ

七九〇 七月二日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道交渉ハ八月中旬迄休会ノコトニ正式

第九三八号

決定ニ付満蒙山東鐵道商議モ延期ノ外ナキ件

(七月三日接受)

往電第九二一号ニ關シ七月一日正式會議ヲ開キ、兼ネテノ話合通り差当リ八月中旬迄署中休会ノコトトナレリ右様ノ次第二付貴電第八五一号ヲ以テ御来示ノ満蒙山東諸鐵道ニ關スル交渉開始モ四囲ノ情勢ニ顧ミ自然延期ノ外無之ニ付

吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事録(第拾回)

大正八年七月一日午前十時半交通部ニ於テ第拾回會議ヲ開催シ午前十一時半終了ス出席者日本側岩佐、谷、松本、牛島ニシテ支那側権量、陸夢熊、汪廷義、康誥ナリ

岩、六月十日私力権量委員ニ提出シタル貴方第二次対案

二対スル當方対案ニ當ルモノヲ本日公式ニ提出スルヲ

以テ左様御承知セラレ度シ右ハ既ニ御内見セラレシコトナレハ御意見アレハ拝聴致度シ

權、六月十日ニ非公式ニ貴方第三次対案トシテ提出セラレタルモノヲ領収セリ該案ハ本日更メテ公式ニ領収セリ其内容ニ付テハ二十日間ニ亘リ研究セシカ本日ハ詳

細ニ意見ヲ云ハザレトモ概括的ニ意見ヲ述フヘシ  
支那第二次対案ヲ朱記訂正セラレタル個所ヲ便宜上甲乙丙ノ三部門ニ分チ意見ヲ述フヘシ

甲ニ屬スルモノハ尚相当審議ヲ要スヘキモ大体ニ於テ相談ニ応シ得ヘキモノニシテ乙ニ屬スルモノハ相談ニ応シ難キモノ、丙ニ屬スルモノハ本案審議ノ結果自ラ解決ヲ得ヘキモノトス

第一、甲ニ屬スルモノ即チ大体ニ於テ相談ニ応シ得ヘキモ  
九 対中国借款善後策ニ關スル件(二) 七九二

御含置アリタシ(二日)

七九一 七月三日

内田外務大臣ヨリ  
在中国小幡公使宛(電報)

吉会鐵道交渉休会ニ付岩佐理事帰京ノ件

第八九〇号

貴電第九二一号ニ閑シ

興業銀行ヨリ岩佐帰京方ニ付同様ノ義申出テタルヲ以テ大蔵省ト打合ノ上異存ナキ旨回示シ置ケリ為念

七九二 七月九日

興銀秘書役ヨリ  
塙原政務局長宛

吉会鐵道借款契約第十回議事録送付ノ件

附属書 右議事録

秘第八八号

大正八年七月九日

(七月十日接受)

外務省政務局長 塙原正直殿

拝啓第拾回議事録写壹部御送附申上候間御査収被下度候

(附属書)

日本興業銀行 秘書役

敬具

(七月十日接受)

日本興業銀行 秘書役

外務省政務局長 塙原正直殿

ノ

(以下支那案トセルハ支那第二次対案ニシテ日本案トセルハ支那第二次対案ヲ訂正シタル日本第三次案ナリ)

一、支那案第二条第二項「起工」

二、支那案第五条第二項「据置期間」

三、支那案第七条第三項

(註、本項ハ権量委員初メ不承諾即チ乙ノ部ニ入レンモ岩佐委員ノ説明ニ依リ甲ニ改メタリ)

四、支那案第七条第五項

五、支那案第八条第二項

六、支那案第十一条

七、支那案第十二条

八、支那案第十三条第四項

九、支那案第十六条第十項

十、支那案第十六条第十一項

十一、日本案第十七条末項

十二、日本案第十八条第七項

十三、日本案第十八条第九項

十四、日本案第二十一条「相当期間」ノ文字

## 十五、日本案第二十三条

右ハ相談ニ応シ得ヘキモノナレトモ具体的ニハ今日之ヲ

定メシテ後日ノ會議ニ譲ル

第二、乙ニ属スルモノ即チ相談ニ応シ難キモノ

一、日本案第四条第一項

二、日本案第十四条第四項

三、日本案第十四条第五項

四、日本案第十六条第八項

五、日本案第十六条第九項

六、日本案第十六条第十項

七、日本案第十七条第一項

八、日本案第十八条第三項

九、日本案第二十条

十、日本案第二十四条

第三、丙ニ属スルモノ

一、第一条「國們江ヲ過キ」云々ノ文字ハ本契約ヲ締結

スル迄ニ鉄橋架設ノ場所、運輸聯絡ノコト等ヲ具体的

ニ定ムレハ自ラ解決セラルルト思フ

岩、契約ノ出来ル以前ニ運輸聯絡ノ方法ヲ議定スル能ハ

送スルモ可ナルヘク又如何ナル銀行ヲ経テ送金スルモ  
可ナルヘク異議ナカルヘキ筈ナリト考フ  
權、或ハ誤解セル如シ然ラハ之ヲ甲ニ入ルヘシ

第五、日本案第十四条第五項ニ就テ

岩、東京ヨリ送金スル場合ニハ銀行ニテ送金スルコトニ

差支アリヤ

權、公債募集金ヲ受取ル場合モ又元利金返済ノ場合モ共

二東京ニテスレハ可ナリトノ御意見ノ如ク承ハレリ

岩、受取ル場合ハ東京ニテ可ナリト云ヒタレトモ公債募

集金ヲ渡ス場合ハ東京ニテ可ナリト云ヒシコトナシ

權、東京ヨリノ送金ヲ銀行ニテ独占スル時ハ金銀ノ為替

相場ヲ銀行ニテ任意ニ定メラレ支那側ノ不利益トナル

ヘシ

谷、吉会地方ニテハ金ノ方支払多カルヘシ殊ニ材料ノ購

入ハ金ナルコト多カルヘシ

岩、元々金ノ預金ナレハ金トシテ送金シオクモ可ナルヘ

シ

權、尚熟考スヘシ

第六、第十五条第二項ニ就テ

九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 七九二

サルヘシ

谷、ココハ資金ノ問題カ重ニシテ運輸ノ問題トハ別ナリ  
權、朝鮮ト支那トノ境界ハ國們江ノ中央ニシテ「至リ」  
ニテハ河岸ノ北側マテトナリ又「過キ」トセハ河岸ノ

彼岸トナルヘシ「國們江ノ国界線ニ至リ」トセハ或ハ  
可ナラン

二、覚書ニ就テ

權、此覚書ノ趣旨ハ公債募集ニ付テ不成績ノ場合ヲ慮リ  
シモノナルヘケレトモ若シカカル付属文書アル以上ハ  
公債ノ発行ハ銀行ノ方寸ノ中ニアルヲ以テ事實上公債

ヲ発行シ得ル場合ニテモ銀行ニ於テ発行力困難ナリト  
称シ再ヒ契約ノ文面ニ立チ返ル如キ場合アルヘシ故ニ

本日ハ明答スル能ハサルモ兎モ角日本提出案ノ儘ニテ  
ハ困難ナリ故ニ相当考慮ヲ要ス

第四、第七条第三項ニ就テ

岩、乙ニ属スルモノ即チ相談ニ応シ難シト云フモノノ多  
クニ対シテハ貴方ニテ不承諾ノ理由ハ推察シ得ルカ第

七条第三項「適宜ノ方法ニ依リ」ナル文句ニ異議アル  
理由ハ不明ナリ「適宜ノ方法ニ依リ」トセハ現金ヲ現

谷、一寸御注意ニマテ申上度シ第十五条第二項ニハ「本  
鐵道ノ改良拡張ノ予備金ト為ス」云々トアレトモ右ハ  
「債務ノ弁済又ハ本鐵道ノ改良拡張ノ予備金ト為ス」  
ト為シ置ク方便宜ニアラスヤ

權、再考スヘシ

第七、覚書ニ就テ

岩、最後ニ一言シ度キハ覚書ノコトナリ

三月二十五日ヨリ六月十日ニ至ルマテ會議力停止サレ

シト云フコトハ日本銀行團監督官厅ニ於テ充分研究熟

考セシモノナリ其結果運輸會計兩主任ヲ除キテハ公債

募集ニ差支フト考ヘシモ又一方支那側ニテハ右兩主任

ノコトヲ規定スルヲ好マレス從ツテ審重熟考ノ結果終

ニ両主任ヲ除クコトニ同意スルト共ニ覚書ヲ交換スル

コトトシタルモノニシテ此覚書ハ本案ト頗ル重大ナル  
関係ヲ有シ本案トハ分離スル能ハサルモノナルヲ以テ

其辺充分御了解ヲ乞フ

權、貴意了承、サレトモ覚書ハ津浦契約範囲外ナルヲ以  
テ之ヲ交換スルコトハ頗ル困難ナルヘキモ御主旨了解

セルヲ以テ自分トシテハ出来ル丈ノコトヲ尽力スヘシ

九 対中国借款善後策ニ閥スル件(二) 七九三

元来津浦契約ニ無キコトヲ規定セントセハ先ツ第一ニ

予備契約ヲ修正スルヲ可トスル訳ナルヘシ

岩、契約ヲ一先ツ締結シ其後覚書ヲ定ムル如キコトハ出

來ス覚書ハ契約書ト一体トシテ締結スルモノト御考ア

リ度シ若シ覚書ヲ全然拒絶セラルル場合ハ本契約ハ破

談トナルモノト御考アリ度シ

権、承知セリ

第八、休暇ニ就テ

権、右ハ大体ノ意見ヲ述ヘシモノナリ御承知ノ如ク目下

ノ時局カ契約ノ進行ニハ頗ル不適當ナルヲ以テ当分暑

中休暇的ニ会議ヲ休マレテハ如何

岩、其御意見ニハ異議無キモ此儘期限ヲ定メス休会スル

コトハ面白カラサルヲ以テ休会ノ期間ヲ予メ大体定メ

置キ度シ

権、自分ノ都合丈ハ半ヶ月位ニテ充分ナレトモ支那ノ政

状安定ヲ欠クトキハ實際契約ノ締結困難ナルヲ以テ八

月中旬位迄休ミテハ如何

岩、小生等不在中ニ用件アル場合ハ當地興業銀行駐在員

詰所又ハ満鉄北京出張所ノ方へ御申越アリ度シ

八七四

権、承知セリ便宜ノ方法ヲ取ルヘシ

岩、然ラハ急用アレハ何時ニテモ參上スヘキモ大体ニ於

テ八月中旬位迄休会トスヘシ

権、承知セリ

七九三 七月十二日 在中国小幡公使ヨリ

吉会鐵道借款契約商議經過並今後ノ商議方ニ

閑シ意見具申ノ件

機密第三一七号

(七月十八日接受)

大正八年七月十二日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

吉会鐵道借款契約締結商議ニ閥スル件

本件商議ノ經過ニ就テハ隨時具報ノ通ニシテ且ツ今回帰朝

ノ岩佐興業銀行理事ヨリモ詳細説明可有之筈ニ付今日迄ニ

於ケル商議ノ糾余曲折ハ直接同氏ノ陳情ニテ御詳悉相成度

要スルニ本件ハ迭次ノ電報等ニ依リ大体御推知可有之通り

飽迄モ予備契約ノ明文ト時勢ノ要求ヲ楯ニ取り寧ロ右明文

近權量ノ谷満鉄代表者ニ漏セル所ニ拵レハ支那側ニ於テハ

我方提案ノ如キ文書上ノ留保ハ飽迄之ヲ拒否セムトスル底

意ヲ有スルモノノ如ク旁々今後ノ推移如何ハ未タ遽カニ樂

觀ヲ許サザルモノ有之哉ニ致思料候

事情前顛ノ通ニ付今般岩佐理事ノ帰朝ヲ機トシ篤ト御審議

ノ上今後ノ交渉方針等充分御説示相成候様致度卑見ニ拵レ

ハ他問題ハ兎ニ角兩主任問題ノ如キハ場合ニ拵ヅテハ「主任」ナル名義ノ取得ヲ固執スルコト無ク寧ロ所謂名ヲ棄テ

実ヲ取ルノ方針ニ出ヅル方本件交渉ノ迅速ナル解決ヲ期ス

ル所以ニ非ザルカト思料セラレザルニ非ズ兎ニ角昨今我力

対支關係頗ル機微ニシテ難渋ヲ極ムルノ際交渉案件ノ解決

ヲ期セムトスルニ就テモ從來同様ノ筆法ニ甘ンシ難キ事情

アルハ疾ク御諒察ノ通ニ付其辺モ御酌量ノ上可然御詮議相

成度此段申進候也

以上ニ有利ナル妥結ヲ期セムトスル支那側ノ決心頗ル強固  
ナルノミナラズ西原當時ノ口約迄ヲモ隨時援用シテ我方牽制ノ具ニ供スル等商議ノ劈頭ニ於テ先以テ根本的難関ニ遭遇セル有様ニテ其間我方委員ノ苦心努力誠ニ容易ナラザルモノアリシハ已報ノ通リニテ其後漸ク論駁力説ノ結果我方最終讓歩案ノ提示トナリタル折柄俄然政局ノ動搖ヲ来シ旁々暫時休会ノ不得已ニ立至リ商議開始以来六箇月其間重要ナル事項ニ闕シ満足ナル協定ヲ遂クルニ至ラザリシハ洵ニ遺憾ニ不堪候得共何分前頭ノ通リ事態不得已モノアルノミナラズ實ハ商議ノ進行ニ伴ヒ互譲ノ必要不得已モノアリト認ムルヤ其都度御考慮ヲ邀ヘタルモ急速御回示ニ接スルヲ得ズ為メニ機会ヲ逸シタルノ憾モ無キニ非ズ而カモ其内曹汝霖ノ失脚ヲ來シ愈々本件ノ進行解決ヲ渋滯且困難ナラシメタルノ感アルハ乍遺憾事実ト申スノ外無之其辺幸ニ御高鑒相成度將又本件商議ノ前途ニ就テハ最終會議ニ於ケル支那側委員ノ口吻ニ徵スルトキハ先方ニ於テ相當讓歩ノ模様無キニ非ザルモ尙ホ技師長ノ權限問題其他重要事項ニ就キ

那側委員ノ口吻ニ徵スルトキハ先方ニ於テ相当讓歩ノ模様無キニ非ザルモ専ホ技師長ノ權限問題其他重要事項ニ就キ未タ承諾ヲ肯ゼズ從テ我方ニ於テ一段ノ努力ヲ要スルモノアルノミナラズ我主張ノ眼目タル両主任問題ニ就キテモ最

七九四 八月十七日 内田外務大臣ヨリ  
吉会鐵道交渉再開ニ際シ我方最後ノ讓歩ヲ以

テスルモ協定ヲ了シ難キ場合ニ処スル手段ニ

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七九五

八七六

旨通報ノ件

第一〇七五号

岩佐興銀理事八月十七日当地出發渡支ノ上予定ノ通り吉会  
鐵道借款交渉再開ノ筈ニテ右ニ付興業銀行ヨリ支那目下ノ  
時局ニ顧ミ此種鐵道借款ノ締結ハ到底望ミ難キモ吉会鐵道

契約ハ此際双方委員間ノ協定ノミニテモ之ヲ結了シ置クコ  
ト然ルヘク而シテ右協定ニ付テハ當方第三次提案中已ムヲ  
得ザル場合ハ(1)技師長権限中(1)督弁ノ支払命令ニ連署ノ件

(2)内外専門技術員任免ノ件(3)工事請負人推薦ノ件ヲ削除ス

ルコト(2)鐵道収入ヲ銀行ニ払込ム件ヲ削除スルコト立(3)契

約書ハ日支両文ニテ作成スルニ止メ解釈上疑義ノ場合ヲ規

定セザルコトヲ以テ最大限度ノ讓歩トシ右以上ノ讓歩ヲ為

スニアラザレバ協定ヲ了シ難キ場合ニハ交渉ヲ中止シ予備

契約規定ノ本契約締結期間ヲ六ヶ月又ハ一ヶ年位延長シ交  
渉再開ノ好機ヲ俟ツノ手段ヲ採ルコト然ルヘキ旨申出アリ

タルヲ以テ詮議ノ末八月十五日同行ニ對シ申出ノ方針案ハ  
大体政府ニ於テ異存ナク尤モ右申出讓歩事項ニ付テハ運輸

会計両主任問題ニ關スル覺書ノ件カ全然當方ノ希望通り解  
決セラルルコトヲ前提トスルハ勿論ニテ又右讓歩事項第二

株式会社日本興業銀行ニ付テハ當方第三次提案

決セラルルコトヲ前提トスルハ勿論ニテ又右讓歩事項第二

ニ対スル支那側対案ヲ呈示セザル可キ様子アリ南滿州鐵道  
株式会社へ協議ノ上至急決定スル様御配慮ヲ煩ハス

土方興銀總裁ヨリ

九月十三日 芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉満鐵側委員牛島ニ決定

ノ件

秘第九九号 (九月十五日接受)

大正八年九月十三日

株式会社日本興業銀行

秘第一〇〇号

大正八年九月十三日

吉会鐵道借款契約交渉再開及第三次中國對案

提出ノ旨報告ノ件

秘第一〇〇号 (十月六日接受)

大正八年十月四日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

特第十七号 貴電特第二十六号了承満鐵委員ハ目下貴地滞

在中ノ牛島ニ決定ノ筈委任状ハ九日發送セリ

(附)

東庶第三三七号

九 対中国借款善後策二関スル件(二) 七九六 七九七

項鐵道收入ヲ我銀行ニ払込ムノ件ハ削除ノ外ナキ場合ニハ

津浦鐵道借款契約第二十一條ト同様ノ条項挿入方ヲ一応主

張スルコト適當ト認ムル旨示達シ置キタリ委細ハ同理事ヨ

リ御聽取相成度シ

七九五 九月十二日

芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款交渉再開ニ当リ満鐵側委員至急

決定方岩佐理事ヨリ稟請ノ件

秘第九八号

大正八年九月十二日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

芳沢政務局長殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送

附申上候 敬具

特第二十六号 (九月十一日発電)

南滿州鐵道株式会社委員決定ノ上ナラデハ當方第三次提案

提出ノ旨報告ノ件

芳沢政務局長宛

日本興業銀行總裁

土方久徵

日本興業銀行總裁 土方久徵

拝復在北京貴行岩佐理事ヨリノ來電写御示被下敬承致候仍  
テ取敢ヘス故谷直諒ノ代リトシテ牛島吉郎ヲ當分弊社委員  
ト致度候間貴方ヨリ岩佐理事へ此趣ヲ御電報被成下度候右  
御回答迄得貴意候也

芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款契約交渉再開及第三次中國對案

提出ノ旨報告ノ件

大正八年十月四日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

特第廿七号 (十月一日発電)

芳沢謙吉殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送

附申上候 敬具

大正八年九月十二日

吉会鐵道借款契約案ニ關シ本日會議ヲ開キ第三次対案ヲ受領シタリ詳細ハ書面

七九八 十月十日

興銀秘書役  
芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款交渉第十一回會議議事録送付ノ

件

附属書 右議事録

秘第一〇一号 (十月十一日接受)

大正八年十月十日

日本興業銀行 秘書役

政務局長 芳沢謙吉殿

拝啓吉会鐵道借款交渉會議第十一回議事録写意部御送附申上候間御査収被下度候 敬具

(附属書)

吉会鐵道借款契約締結交渉會議議事録(第十一回)

大正八年十月二日午前十時半交通部ニ於テ第十一回會議ヲ開催シ午前十一時半終了ス出席者日本側岩佐、牛島、松本、原田ニシテ支那側権、陸、汪、康ナリ 岩、先ツ以テ牛島委員ノ委任状ヲ御覽願ヒ度シ

岩、委任状ハ後ヨリ其写ヲ御送致スヘシ 権、拝見セリ

岩、今日ハ第十一回ノ會議ヲ開ク事トナレリ七月一日會議ノ席上岩佐委員ヨリ御提出ノ第三次案ニ對シ吾々ハ十分ニ研究シタル結果茲ニ更ニ修正案ヲ提出ス御質問ノ点アラハ答弁致ス可シ本対案ハ全条文ヲ記載セズ單ニ修正セル条文ノミヲ掲ケタリ

岩、本対案ハ熟覽ノ上質問スヘキカ外ニ承リ置ク可キコトハ之レ無キヤ

権、御一覽ノ上質問アリタン修正セル点ハ僅少ナリ

岩、今日貴方ヨリ承リ置クコト無ケレ共次回ノ會議ハ明後日(四日)ト致度ク本対案ハ一応翻訳ノ上熟覽シ何分ノ意見ヲ申上クルコトトセン

権、本対案ハ要スルニ成ル可ク津浦線契約ニ拠ラントスルニ外ナラス次ニ貴方ヨリハ附屬文書ノ交換ニ付テ提案セラレシカ之ニ付テハ本契約ヲ定メタル上附屬文書ヲ用フル必要アレハ書ク可シ貴方ノ附屬文書ニ記載サルルハ会計主任運輸主任ニ關スル事ナルカ之レ無キカタメニ公債發行出来サルモノトセハ發行ノ期間ヲ延スノ外無シ其場

合ノコトハ第二十一条ニ記載アリ右条文ニハ相当期間云

タトアルカ貴方ノ御考ハ之ニテ不充分ト思ハルルヤ 岩、右第二十一条ハ政治上、經濟上ノ事變ノ場合ヲ規定セルモノニシテ覚書ノ場合トハ異ナレリ

権、公債發行カ日本内地ニ於テ不可能ナリトセハ是ハ經濟上ノ事變ナリ要スルニ貴方ノ御心配ハ第二十一条ノ事變ト云フ字ヲ修正セハ可ナルニアラスヤ

岩、事變トハ戰争トカ饑饉トカノ如キ場合ヲ云フモノナリ然ルニ金融界ハ変動常ナシ之ヲ以テ公債發行ヲ延期スルカ如キ放慢ノ規定ヲ望ムニアラス両主任ヲ除キタル契約ニテ公債ノ發行不能ナル時ニハ両主任問題ヲ御再考顧ヒ度シトノ主旨ナリ

権、附屬文書ノ主ナル意味ハ期間ノ延長ニアリヤ 岩、必スシモ然ラス主トシテ公債發行ノ不可能ノ場合ヲ想像シテノコトナリ

権、自分ノ方モ之ニ付テ熟考シタリ両主任ニ關シテハ津浦契約ノ附屬文書等ヲ取調ヘタルモ書類等ナシ然レトモ實際ハ外人ヲ會計トシテ使用セルモ運輸主任会計主任ハ之レ無シ而シテ右外人ヲ會計方ニ使用セルハ我國人ハ西洋

トナレハ拒絕ス可シ無クトモ支那ノ方ニテ必要アレハ再考ス可キハ勿論ナリ故ニ予備契約及津浦契約ニナキモノ

ヲ覚書トスルコトハ支那政府ニ於テ到底不可能ナリ又公

債發行容易ノタメト云フモ束縛力無キ覚書ハ効力無キニ

アラスヤ

岩、束縛ノ力無キモ交渉ニ応シクル力アリ

権、相談ニ応スルノ力アリト無キニ拘ラス相談ニ応ス可シ

事実公債發行不可能ノ場合銀行団ヨリ相談ニ來ラルレハ相談ニ応ス可シ

岩、貴下等現在ノ當局者交迭セラルレハ困マル場合アル可シ

權、其ハ何人カ居ルトモ応ス可ク之ハ「コンモンセンス」

ノコトナリ

未解決ノコトヲ残スヲ欲セス事務所ヲ置キ人ヲ傭ヒ相当ノ費用ヲ要スルニ両主任再考問題ノ為メ永ク鉄道建設ヲ延ハスカ如キコトハ頗ル面白カラス不利益ナリ

岩、銀行ニ於テ公債募集出来サル時ハ困ルニアラスヤ

權、建設ノ無期延期ハ大ニ困マルナリ

岩、覚書ハ主旨サエ原案通リナラハ文句ハ多少改ムルモ可シ

ナリ又都合ニ依リ覚書ヲ外部ニ発表セサルモ可ナルニアラスヤ

岩、約束スレハ履行シタシ銀行ノミナラス政府モ承知ノコトナレハ公債募集不能ノ時ハ銀行モ体面上困ル事故覺書ヲ必要トスルナリ資本家トシテノ態度ヲ立派ニシタント思フ決シテヅルキ考ニアラス

権、ヅルシト云フニアラス相互ノ国ノ利益トナレハ可ナリ覚書ヲ承諾スレハ契約ハ無期延期トナルヘシ

岩、覚書ハ原因ト結果ヲ顛倒セリ

権、結局両主任ニ就テハ當方トシテハ今之ヲ約束スル能ハス

岩、両主任ヲ入ルルコトヲ約束スルニアラス此相談ノ余地ヲ残サントスルナリ

権、予備契約中ニ之ヲ入レナルハ何故ナリヤ

岩、何故ナルヤ知ラス當時ノ当事者ハ何故ニ之ヲ為サザリシヤ知ラス

権、覚書ハ残スモ効力無シ再考ハ事實上応ス可キヲ以テ秘密ニスル必要無シ

岩、七月一日第三次提案ノ節談シタルカ如ク覚書ノコトヲ保留セシハ當方ニ於テ熟考ノ結果ニシテ之カ入ラサルトキハ契約ノ交渉ヲ為ス必要ナシトハ銀行団ノ意見ナリ貴

説ノ如クンハ今後交渉ヲ繼續スルコト能ハサルニ至ルヤモ難測ケレトモ尚ホ熟考ノ上申述フヘシ

權、何分各々立場カ異ナル故致方ナシ覚書ヲ承諾スルコトハ予備契約ヲ修正セサル限り不可能ナリ交通部ヲ代表シテモ然カ云フノ外ナシ

税金收入モナク單ニ鉄道ヲ担保スルノミナレハ其辺ノコトモ考慮セラレ度シ

権、何レニスルモ支那政府ノ負担ナリ

岩、然レトモ担保ノコトハ契約ノ条項ニヨリテ承知スルノ外ナシ

権、予備契約ノ当事者カ貴トナリシナラハ斯ノ如キコトナカリシナランモ今ハ詮方ナシ故ニ予備契約ヲ修正スルノ外ナシ

岩、予備契約中ニ反対ノ規定ナキ限りハ相互ノ便益トナルコトハ之ヲ入ルルモ可ナルニアラスヤ

権、予備契約修正ノ手続ヲナサザレハ不可ナリ今之ヲ相談スルモ意見ハ到底一致セス何レニスルモ當方ハ覺書ノコトハ到底出来サルコトナリ其理由ハ前ニ述ヘタル所ノ如意シ

岩、出來スト断言セラルレハ今ハ余地ナシ

権、出来スト断言セラルレハ今ハ余地ナシ

岩、債權國カ英國ナレハ英文獨乙ナレハ獨文ト云フノ意ナリ

権、予備契約ハ之ニ違反スルコト能ハス

牛、債權國カ英國ナレハ英文獨乙ナレハ獨文ト云フノ意ナリ

能ハス会計員ノコトヲ今日講歩シタルハ大ナル講歩ナリ

岩、予備契約ニ付キ縷々御談シアルカ要スルニ支那政府ト

日本資本家ト双方便利ナル様ニシテ鉄道ヲ建設スルト云

フコトニ親切ニ御考願ヒ度キモノナリ

權、予備契約ナケレハ可ナリ之アル以上ハ致方ナシ

岩、覚書ヲ書クコトハ両主任ヲ入ルルコトニアラス後日入

ルルコトヲ相談スルト云フコトニ外ナラス

權、此事ハ何トカ定メ置クヲ要ス未了ノ問題ヲ無期延期ト

スルカ如キコトアラハ斯クテハ國家ノ損失ナリ覚書ノ文

面ニテハ困難ヲ除去スル迄ハ無期延期トナルヘシ

岩、覚書ニ就テハ尚今後解決スヘキコトナレハ再考ヲ希望

スルモ當方モ兎モ角貴方ノ対案ヲ研究スルコトトスヘシ

尙前刻明後日會見スル旨申上ケタレトモ之ヲ取消シ會議

開催ノコトハ前以テ當方ヨリ御通知ス可キヲ以テ其上開

会ノコトニ致シ度シ

権、異議ナシ左様致サレ度

七九九 十一月十九日 土方興銀給裁ヨリ  
芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款契約委員間交渉打切ノ旨中國側

ニ通告シタルニ付報告ノ件

秘第壹〇五号

大正八年十一月十九日

株式会社日本興業銀行

総裁 土方久徵

政務局長 芳沢謙吉殿

拂啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候閣写御送

附申上候 敬具

(別 紙)

特第二十八号(十一月十八日発電)

吉会鐵道借款契約案ニ關シ小幡公使曹汝霖ニ交渉シタル共

到底覚書ノ交換ハ認メラレズ就テハ公使ノ意見ニ從ヒ委員

ヨリ先ツ委員間ノ交渉打切リヲ通知スルコトシ本日最後

ノ正式會議ヲ開キ其旨支那側へ通知シタリ公使ハ引続キ支

那政府ニ對シ警告ヲ与フルノ苦詳細郵便ニテ通知

八〇〇 十一月二十二日 在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉金鐵道借款契約問題ニ關シ斬總理及會交通

總長代理トノ會見内容報告並今後ニ對スル方

## 針及措置ニ關シ請訓ノ件

第一四七八号 (十一月二十三日接受)

吉会鐵道借款契約問題ニ關シテハ本年夏岩佐理事東京ヨリ帰來後直チニ支那側委員ト協商ヲ再開シ過般東京ニ於テ關係各方面間ニ經リタル最後条件案ノ趣旨ヲ体シ勵精努力我主張ヲ貫徹スルニ種々苦心折衝ヲ尽シタルモ殘念ナガラ先方ハ頑強ニ前議ヲ固持シ容易ニ両主任ニ關スル文書ノ交換ニ応ズルノ意志無キヲ以テ岩佐ニ於テハ此ノ先如何ニ折衝ヲ重ヌルトモ到底折合ヲ付クル見込無キヲ以テ遂ニ過般其ノ旨ヲ先方ニ通告スルト同時ニ交渉打切ヲ申入レ之ニテ双方委員間ノ商議破裂トナリタル姿ナリ依テ本使ハ岩佐理事トモ協議ノ上先づ本件ノ成立ニ当初最モ責任ヲ有シタル曹汝霖ヲ訪問シ具ニ前記ノ事情ヲ陳述シ其ノ最後ノ斡旋ヲ依頼シ更ニ拾一月二十日本使親シク斬總理ニ會見ノ上略同様ノ事情ヲ開陳シ支那政府ノ反省ヲ求メ置ク同ニ越エテ翌二十一日現責任者タル曾交通總長代理ト會見ヲ遂ゲニ時

利權ヲ強要セリ等トノロ実ヲ設ケ再び排日ノ風潮ヲ激成スルガ如キコトアルナキヲ保セズ要スルニ両主任問題トシテハ輕微ノ事件ニ過ギザルモ目下ノ政局及日本ニ對スル友情ニ顧ミレバ斯ル此事モ之ヲ忽ニスルニ於テハ如何ナル險悪

斬總理トモ熟議ヲ經タル結果ト言明シ縷々陳述スル處有ル

九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 八〇一

八八四

ナル風潮ヲ巻キ起スニ至ルヤ計ラレザルノミナラズ其ノ結果ハ独リ支那政府ヲ非常ナル苦境ニ陥ルノミナラズ日本ニ迄モ種々迷惑ヲ及ボスニ至ルベク斯テハ事双方ノ為極メテ不利益ノ現象ヲ呈スベシ就テハ支那政府ノ衷情ト立場トヲ諒トシテ此ノ際是非予備契約ノ範囲内ニ於テ折合ヲ付タル様本使ノ尽力ヲ請フト云フニ帰セリ右交通総長代理ノ処論ハ幾分誇張ノ嫌無キニ非ザルモ又幾分実情ヲ穿チタル点ナキニ非ザルヲ以テ本使ニ於テ適當ノ弁駁ヲ加へ其ノ反省ヲ促シタルモ事政治上政府ノ立場ヲ困難ナランムベキハ支那政府トシテハ殆ド忍ビ難キ苦衷ノ存スルト我ニ於テハ約束以外ノモノヲ要求スル不条理ヲ主張スル弱点アリ旁々本件ハ目下ノ処如何ニ論議ヲ重不又如何ナル努力ヲ試ムルモ我方ニ於テ相当ノ譲歩ヲ為サザル以上先方ノ強固ナル決意ヲ動シ難キヲ認メタルニ付本使ハ右様ノ次第ナラバ甚ダ殘念ナガラ交渉ヲ打切り予備契約及前渡金ニ関スル後仕末ヲ為シ帰國セシムルノ外無カルベキ旨ヲ告ヶ会談ヲ終リタリ就テハ今後ニ於テ本使ノ採ルベキ方針及措置ニ關シ至急何分ノ指示アランコトヲ請フ案ズルニ予備契約ノ趣旨ニ戾リ両主任問題主張ノ為明治四十一年以来

兩回ノ条約ヲ締結シ更ニ予備契約ヲ以テ一千万ノ前渡金迄ヲ交付シ相當日鼻ノ附キタル本件ヲ其儘無期延期トシテ打ち切ルコトハ本使ニ於テ甚ダ遺憾トスルハ國家百年ノ大計ニテ支那ハ果シテ如何ナル状態ニアルヤモ難計旁々些々タル兩主任問題ニ固執シテ此ノ好機ヲ逸スルハ國家百年ノ大計ノ為採ラザル処ナリ茲ニ政府ノ痛切ナル考慮ト英断トヲ仰グ

八〇一 十一月二十四日 芳沢政務局長宛

吉会鐵道借款契約問題善後策二付岩佐理事來

電写送付ノ件

秘第一〇七号

(十一月二十五日接受)

大正八年十一月廿四日

株式会社日本興業銀行

外務省 総裁 土方久徳

芳沢政務局長殿

拝啓本日在北京岩佐理事ヨリ別紙ノ通り受信仕候間写御送

附申上候 敬具  
(別紙)  
特第二十九号(十一月二十二日発電)  
前電報告ノ通リ小幡公使ハ國務總理並ニ交通総長ニ會見警告ヲ与ヘタレトモ尚ホ運輸主任会計主任ニ閑スル文書交換ヲ拒絶シタルヲ以テ小幡公使ハ本日詳細外務省ニ電報シ今後ノ方針ニ対シ訓示ヲ請ヒタリ自分ハ公使ト協議ノ上右訓示ヲ待チテ善後策ニ付交通総長ニ交渉スル筈詳細郵便ニテ通知

芳沢政務局長殿

拝啓吉会鐵道借款交渉會議第十二回議事録写毛部御送附申上候間御査収被下度候 敬具

(附属書)

第十八信

大正八年十一月十八日 在北京

理事 岩佐理藏

土方總裁殿

拝啓

通知

吉会鐵道借款契約案交渉ハ既ニ御報告申上置候如ク本年七月一日當方第三次案ニ對シ支那側ヨリハ十月二日第十一回

會議ノ際先方第三次案ヲ提出シ來リ候當方第三次案提出ノ際運輸、会計兩主任問題ニ關シ覚書ノ交換ハ必須条件ナルコトヲ繆々説明致置候ニ拘支那側第三次案ニ於テモ又第十一回會議ニ於テモ全然之ヲ認メズ就テハ十月三日直チニ公使ト打合セヲ為シ公使ヨリ支那政府並ニ曹汝霖ニ對シ警告ヲ与ヘラルルコトニ相成候曹汝霖目下現職ニ非ザルモ尚能ク曾交通総長代理、權量等ニ對シ之ヲ左右スルノ力ヲ有スルヲ以テノ故ニ御座候然ルニ公使ハ吉会鐵道以外他

附屬書 十一月十八日付在北京岩佐興銀理事ヨリ土方興銀總裁宛第十八信写

秘第一〇八号 (十一月二十五日接受)

大正八年十一月廿四日

日本興業銀行 秘書役

外務省

九 対中国借款善後策二閥スル件(二) 八〇一

八八五

ノ懸案事項ノ行懸上警告ノ時期ヲ考慮セラレ居候処機漸ク  
熟シ本月十三日親シク曹汝霖ト会見交渉ヲ重ネラレ候然ル  
ニ曹ハ依然強硬ノ態度ニシテ覚書ハ全然之ヲ認ムルノ氣色  
ナキニ付キ乍遺憾最早交渉ヲ進ムルノ余地ヲ存セズト認メ  
タルヲ以テ更ニ公使ト協議ノ上一先ツ委員間ノ交渉ヲ打切  
ルコトトシ本日正式會議ヲ開キ別紙會議録ニ示ス如ク其旨  
先方ニ通告致候公使ハ引続キ支那政府ニ対シ警告ヲ与フル  
旨ニ付其結果ヲ待ツテ予備契約規定ノ本契約締結期間延長  
等ノ交渉ヲナス見込ニ御座候 敬具

(別 紙)

## 吉会鉄道借款契約締結交渉會議事録(第十二回)

大正八年十一月十八日午前十一時卅分交通部ニ於テ第十二  
回會議ヲ開催シ午前十一時四十五分終了ス出席者日本側岩  
佐、牛島、松本、原田ニシテ支那側権、陸、汪ナリ

岩、本日ハ自分ヨリ御話スル順序トナリ居レリ本年七月一  
日ニ當方ヨリ第三次提案ヲナセシニ對シ十月二日貴方ヨ  
リノ対案ヲ受領シタリ七月一日ノ當方第三次提案提出ノ  
際從來本契約文中ニ插入スヘキ運輸会計両主任ニ闇スル  
件ハ之ヲ契約文ヨリ削除シ文書交換ヲ以テ之ニ代へ後日

必要アル場合迄之ヲ保留スルコトセリ其際ノ説明ニ之  
ハ當方ノ最大讓歩ニシテ且前提即チ先決問題ナルカ故ニ  
此文書交換ニ同意セラレザル以上ハ交渉ヲ継続スル必要  
ナシト云フコトヲ御話シタルハ記憶セラル所ナラント  
月二日ノ対案ヲ見又其際交換シタル意見ニヨレハ之ニ同  
意セラレザルコト明ナリ本来此先決問題ニシテ同意セラ  
レザル以上ハ貴方ヨリノ第三次対案ノ提出ハ必要ナカリ  
シナリ然ルニ之カ提案アリシニ付當方ハ礼儀トシテ一応  
之ヲ審査シタリ然レトモ之カ為ニ當方ノ意見ヲ枉ケルカ  
如キコトナキハ勿論ノコトナレトモ種々ノ都合上今日迄  
会見ヲ延引シタル次第ナリ此上無意味ノ問答ヲ繰返スノ  
要ナキモ念ノタメ一応確メ置キタキハ貴方ニ於テハ如何  
ニシテモ此文書交換ハ同意出来ザルヤ何分ノ御答弁ヲ請  
フ

岩、文書交換ノ件ハ御同意ナキヤ一応伺ヒタント云フナリ  
只諾否ヲ聽ケハ宜シ

権、同意スル能ハズ

岩、元ヨリ然ルヘシ然ラハ則チ本交渉ヲナスハ最早必要ナ  
フ

キヲ以テ今後ノ交渉ハ打切りトスルコトヲ御通告申ス尚

此際ニ於テ一言ヲ附加シタキコトハ貴方ニ於テハ常ニ津  
浦鉄道ノ契約文ヲ云々セラルルニ拘ハラズ公債發行手數

料、材料購買手數料及末文ノ契約文疑義解釈ノ件ニ對シ  
テモ御同意ナキハ誠意ヲ以テ本交渉ニ應セラルモノニ  
アラズト認ムルコトナリ

権、手數料ノ件ニ付同意セザリシト云フハ之ハ契約成立ノ  
上書キ入ルルコトニセシ考ナリ不同意ト云フ訛ニアラス  
又末文契約文ニ付テハ津浦鉄道ハ對英獨両國ノモノナレ  
トモ契約文ハ獨文ヲ用ヒズ英文ノミナリ日支両國ハ同文  
國ナルヲ以テ必要ナキナリ當方ニ誠意ナシト云フコトハ  
首肯スル能ハズ

岩、余ハ貴方ニ誠意ナキモノト認ム今日ニ於テ御説明ヲ承  
ルノ要ナシ交渉ハ本日ヲ以テ打切りコトトスヘシ(完)

八〇三 十二月十三日

内田外務大臣ヨリ

在中国小幡公使宛

(電報)

二指示方ノ件

吉会鉄道借款契約問題ニ對スル善後方針岩佐

九 対中国借款善後策ニ闇スル件(二) 八〇三

## 九 対中国借款善後策ニ関スル件(二) 八〇四

八八八

ノ外無シト思考セラルルヲ以テ岩佐ヲンテ右ニ拠リ措置セシメラレ度尚ホ貴官ニ於テモ必要ノ際ハ適宜援助ヲ与ヘラレタシ

(別電)

十二月十三日内田外務大臣発在中国小幡公使宛電報第一五九

号 本契約締結期間六ヶ月延長協定ノ件

第一五一九号 別電

(一) 吉会鐵道本契約ノ締結ハ暫ク之ヲ見合セ予備契約規定ノ本契約締結ノ期間ヲ今日ヨリ更ニ六箇月間更新スルコトニ支那側トノ間ニ協定ヲ遂クルコト又六箇月後ニ至リ尚ホ交渉其時機ヲ得ザルトキハ更ニ適宜更新ノ方途ヲ講シ適當ノ機会到来ヲ俟ツコト

(二) 支那側ニ対シテハ吉会鐵道両主任問題ニ付テハ日本ニ於テ出来得ル限リノ讓歩ヲ為シ其妥結ヲ図ラムトシタルモ支那側ノ同意ヲ得ズ去リトテ支那側主張ノ通リニテハ到底公債發行ノ見込立タルニ付乍遺憾本契約ノ締結ハ暫ク後日ニ議リ此上共双方ニ於テ篤ト考慮スルコトシ其間前記ノ通期間ヲ更新スルコト致度トノ趣旨ニテ申入ルルコト

(三) 犹ニ支那政府ニ契約案ヲ提出シタル儘トナリ居レル滿蒙

四鐵道及山東二鐵道ニ付テモ吉会鐵道同様一併予備契約規定ノ期間更新ノ措置ヲ講スルコト

八〇四 十二月三十日

在中国小幡公使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

吉会鐵道本契約締結期間延長ハ一個年トシ度

旨稟申ノ件

第一六一五号

(十二月三十一日接受)

貴電第一五一八号ニ閲シ

式拾六日岩佐交通總長ニ面会シタルニ同總長ハ本件交渉打切リトナリタリトテ予備契約失効スルニ非ズ本件ハ其儘懸案トシテ存続スベキ旨頻リニ申述べ居リタル趣ナルモ口頭ノ証言丈ケニテハ覺束ナカルベシ殊ニ予備契約二期限ヲ明記シアルニモ鑑ミ其延長ハ別ニ書面ヲ以テ明約シ置クノ必要アルベク右總長ノ口吻等ニ微シ右様取運ビ得ル見込ミモ有之處前記貴電御來示ノ今日ヨリ六箇月丈ケノ延期ハ支那政府ノ現情ニ顧ミレバ稍々短キニ過ギズヤト存セラル尤モ此ノ期限経過後更ニ適宜更新ノ方法ヲ講ズルヲ得ザルニ非ザルベキモ其節又々多少ノ面倒ヲ重ヌベク然モ之ヲ必シ難カルベキニ付寧ロ此際今日ヨリ一箇年ヲ延期シ其間適當ノ

時期ニ於テ本契約ノ締結ヲ為シ得ル様取極メ置キタシト存ズ右ハ勿論差支ナキ儀トハ存ズルモ關係ノ向キトモ御協議ノ上至急何分ノ儀回示ヲ請フ

### 三、滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款關係

八〇五 一月三日 在中國小幡公使宛

### 滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款契約案送付並右

#### 二付注意スベキ点指示ノ件

##### 附屬書一 滿蒙四鐵道借款契約案

二 山東二鐵道借款契約案

附 記 大正七年十二月三十一日内田外務大臣発小幡公使宛電報第一二〇二号

政機密送第一号

#### 滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款ニ關スル件

本件借款問題善後方針ニ関シテハ客年往電第一二〇二号ヲ以テ申進置候處今般關係者協議ノ上別紙写ノ通リ滿蒙四鐵道借款契約案及山東二鐵道借款契約案作成致候ニ付右及送付候尚右契約案ハ追テ關係者ヨリ支那側ニ提出スル筈ニ有

(註一) 本件借款問題善後方針ニ関シテハ客年往電第一二〇二号ヲ以テ申進置候處今般關係者協議ノ上別紙写ノ通リ滿蒙四鐵道借款契約案及山東二鐵道借款契約案作成致候ニ付右及送付候尚右契約案ハ追テ關係者ヨリ支那側ニ提出スル筈ニ有

ルヲ以テ其ノ金額ノ見込確実ナラス且ソ右金額ハ予備契約ニヨレハ支那側ヨリ申出ツヘキコトト相成居レルニ付旁々金額ノ件ハ關係者ニ於テ尚調査ノ上支那側トモ協議シ定ムルコト然ルヘシトノ意嚮ナリ

(二) 契約案第二条ニ就テ

本契約調印後直チニ諸鐵道全部ノ工事ニ着手シ其ノ敷設ヲ